松本市文化財調査報告No.192

長野県松本市

SHIMODEGUCHI

下出口遺跡

—発掘調査報告書—

信州大学附属図書館
定期刊行物

2008.3

松本市教育委員会

長野県松本市

SHIMODEGUCHI

下出口遺跡

―発掘調査報告書―

2008.3

松本市教育委員会

序

松本市の中心市街地の北側に位置する岡田地区は、江戸時代初頭の慶長９（1604）年以降、北国西脇往還（善光寺道）の岡田宿として発展してきた地域です。古くは醍醐天皇が延喜５（905）年に編纂を命じた『延喜式』神名帳に岡田神社が記載され、『平家物語』や『源平盛衰記』に岡田氏が登場するように、岡田地区は歴史豊かな地域のひとつとして知られています。また、近年の開発に伴い多くの埋蔵文化財が発掘調査されてきました。

平成18年、この岡田地区に所在する下出口遺跡の一部に、葬祭場（JA 虹のホール岡田）を建設することが松本ハイランド農業協同組合により計画されました。このため、松本市は松本ハイランド農業協同組合から委託を受け、下出口遺跡を記録保存する目的で緊急発掘調査を実施することになりました。

発掘調査は、同年８月23日から12月１日にかけて行われました。残暑厳しい夏の終わりから薄氷はる初冬にかけての調査は、天候不順による制約もありましたが、関係者の御尽力により無事終えることができました。調査の結果、９世紀後半～10世紀初頭を中心とする平安時代の集落址をはじめとして、古墳時代～中世にわたる遺構・遺物を発見することができました。これらは地域の歴史を研究していく上で、たいへん貴重な資料となるものです。開発事業に伴う発掘調査は、私たちの豊かな生活とひきかえに遺跡の破壊を前提とするものですが、今回の発掘成果が松本の歴史の解明に少しでも役立つことを願います。

昨年、松本市は市制施行100周年を迎えて、歴史をふりかえるさまざまな記念事業が行われてきました。しかし、私たちの郷土はわずか100年で形成されたわけではありません。それ以前にも遙か悠久の昔から、先人たちの歴史の営みは続いてきました。本遺跡を含めて市内で行われた埋蔵文化財の発掘成果が、郷土の歴史を振り返るための一助となり、先人たちが遺した文化や伝統を次代を担う子供たちに伝えるよすがとなれば幸いです。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたり多大な御理解と御協力を賜りました松本ハイランド農業協同組合、地元関係者のみなさまに厚く御礼を申し上げます。

平成20年３月

松本市教育委員会　教育長　伊藤　光

例　言

1　本書は平成18年８月23日から同年12月１日にかけて行われた、松本市大字岡田町549−１・551−１・552−１・553−１・554−１・555に所在する下出口遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は葬祭場「JA虹のホール岡田」建設事業に伴う緊急発掘調査であり、松本ハイランド農業協同組合より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査・整理作業等を実施した。

3　本書の執筆分担は次のとおりである。

第Ⅱ章第２節：森　義直、第Ⅲ章第３節３：内田陽一郎、その他を関沢　聡が行った。

4　本書の作成・編集にあたっての作業分担は次のとおりである。

遺物洗浄・接合：竹平悦子、前沢里江、百瀬二三子

土器・磁器・土製品実測、トレース：白鳥文彦、竹平悦子、中澤温子、前沢里江、八板千佳

金属製品保存処理・実測・トレース：洞澤文江

石器実測・トレース：内田陽一郎

遺構図調整・整理・トレース：荒井留美子　　挿図トレース：久根下三枝子

図版組：（遺構）荒井留美子　（遺物）内田陽一郎、洞澤文江、村山牧枝、八板千佳

写真撮影：（現場写真）関沢　聡　（遺物写真）宮嶋洋一　　（航空写真）株式会社地図測量

総括・編集：関沢　聡

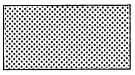
5　本書作成にあたり、松本市時計博物館の竹内靖長学芸員から中世土器についてご教示を得た。記して謝意を表します。

6　図中で用いた方位記号はすべて、真北を指している。

7　本書の中で使用した遺構名の略称は次のとおりである。

第○号竪穴住居址→○住、第○号掘立柱建物址→建○、第○号土坑→土○、第○号溝状遺構→溝○、第○号耕作遺構（畝間）→畝○、（住居内）第○号ピット→Ｐ○

8　本書の中では遺構・遺物の細部を以下のスクリーントーンで表した。

焼土範囲…　  　炭化物範囲…　 　粘土範囲…　

9　土器・磁器の実測図において断面図の白抜きは土師器・黒色土器、スミ塗りは須恵器・磁器を表している。

10　遺構・遺物の記述で用いた古代・中世土器の種別・器種・時期区分等は、以下の文献に拠っている。

(財)長野県埋蔵文化財センター　1990　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４　―松本市内その１―　総論編』

11　本調査における出土遺物及び測量図・写真等の諸記録は松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒390−0823　長野県松本市大字中山3738番地１　TEL：0263−86−4710　FAX：0263−86−9189）に保管・収蔵されている。

目　次

序
例言
目次・図版目次・表目次
第Ⅰ章　調査の経緯 …… 2
　第１節　調査に至る経過 …… 2
　第２節　調査体制 …… 3

第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 5
　第１節　地理・歴史的環境 …… 5
　第２節　地形・地質 …… 7

第Ⅲ章　調査結果 …… 8
　第１節　調査の方法 …… 8
　第２節　遺構 …… 9
　　１　竪穴住居址 …… 9
　　２　土坑 ……11
　　３　掘立柱建物址 ……14
　　４　溝状遺構 ……14
　　５　耕作遺構（畝間） ……14
　第３節　遺物 ……20
　　１　土器・陶磁器 ……20
　　２　金属製品 ……28
　　３　石器 ……29

第Ⅳ章　総括 ……30

図版目次

第１図　調査地の位置 …… 3
第２図　調査範囲 …… 4
第３図　周辺遺跡 …… 6
第４図　下出口付近の地形変化概念図 …… 7
第５図　近現代遺構・トレンチ配置図 ……32
第６図　古代・中世遺構配置図 ……33
第７図　調査区土層 ……34
第８図　第１号住居址 ……35
第９図　第２・４号住居址 ……36
第10図　第６号住居址 ……37
第11図　第７・９号住居址 ……38
第12図　掘立柱建物址 ……39
第13図　土坑(1) ……40
第14図　土坑(2) ……41
第15図　土坑(3) ……42
第16図　土坑(4)・３層遺物出土状況 ……43
第17図　土器(1) ……44
第18図　土器(2) ……45
第19図　土器(3) ……46
第20図　土器(4) ……47
第21図　土器(5)・磁器 ……48
第22図　土器(6) ……49
第23図　金属製品・石器 ……50

表　目　次

第１表　土坑一覧表 ……15
第２表　土器・磁器観察表 ……23
第３表　金属製品一覧表 ……28
第４表　銭貨一覧表 ……28
第５表　石器一覧表 ……29

第Ⅰ章　調査の経緯

第１節　調査に至る経過

下出口遺跡は松本市大字岡田町に所在する遺物散布地で、女鳥羽川の第２河岸段丘上に展開する遺跡群のひとつとして知られている。本遺跡はこれまで発掘調査が行われたことはなかったが、周辺遺跡では発掘調査により古墳～平安時代の集落が多数確認されている。

平成18年、松本ハイランド農業協同組合(以下、「組合」)は、松本市大字岡田町549－１他の土地（面積4,338.44㎡）に、鉄骨造平屋建（床面積1,065.05㎡）の葬祭場「JA虹のホール岡田」と併設駐車場の建設を計画した。事業予定地は下出口遺跡の範囲に該当するため、松本市教育委員会(以下、「市教委」)は埋蔵文化財保護に関する協議を組合側と行った。その結果、予定地内で試掘調査を行い、埋蔵文化財の有無を確認することとした。

試掘調査は平成18年８月１日～４日にかけて、事業予定地内に５本の試掘溝(トレンチ)を設定して行った。その結果、北端に設定した以外の４本のトレンチで遺物と遺構の一部が確認されたため、北側を除く事業地内には埋蔵文化財が分布していることが予想された。市教委は試掘結果に基づき組合側と再度協議を行い、地下への掘削で埋蔵文化財が破壊される部分については発掘調査による記録保存をはかることにした。

記録保存は、組合から松本市が委託を受け、市教委が行うこととし、平成18年度に発掘調査(８月23日～12月１日実施)と基礎整理作業、平成19年度に整理作業と報告書刊行を行うことにした。

今回調査に伴う文書記録等は以下のとおりである。

平成18年

７月５日　「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」

７月12日　「下出口遺跡に関わる保護意見書」

７月20日　「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)」(18教文第５－204号)

８月17日　「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」

業　務：発掘調査・基礎整理作業

期　間：平成18年８月17日～平成19年３月23日

12月６日　「埋蔵物発見届」・「埋蔵文化財保管証」・「発掘調査終了報告書」

12月12日　「埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属について(通知)」(18教文第６－107号)

平成19年

２月22日　「埋蔵文化財発掘調査委託契約の一部を変更する契約書」

変更内容　期　間：平成18年８月17日～平成19年２月28日

委託料の金額変更

２月28日　埋蔵文化財発掘調査業務委託に伴う「完了報告書」

４月２日　「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」

業　務：整理作業・報告書刊行

期　間：平成19年４月２日～平成20年３月31日

平成20年

３月31日　「埋蔵文化財発掘調査委託契約の一部を変更する契約書」

変更内容　委託料の金額変更

第２節　調査体制

調 査 団 長：伊藤　光（松本市教育長）

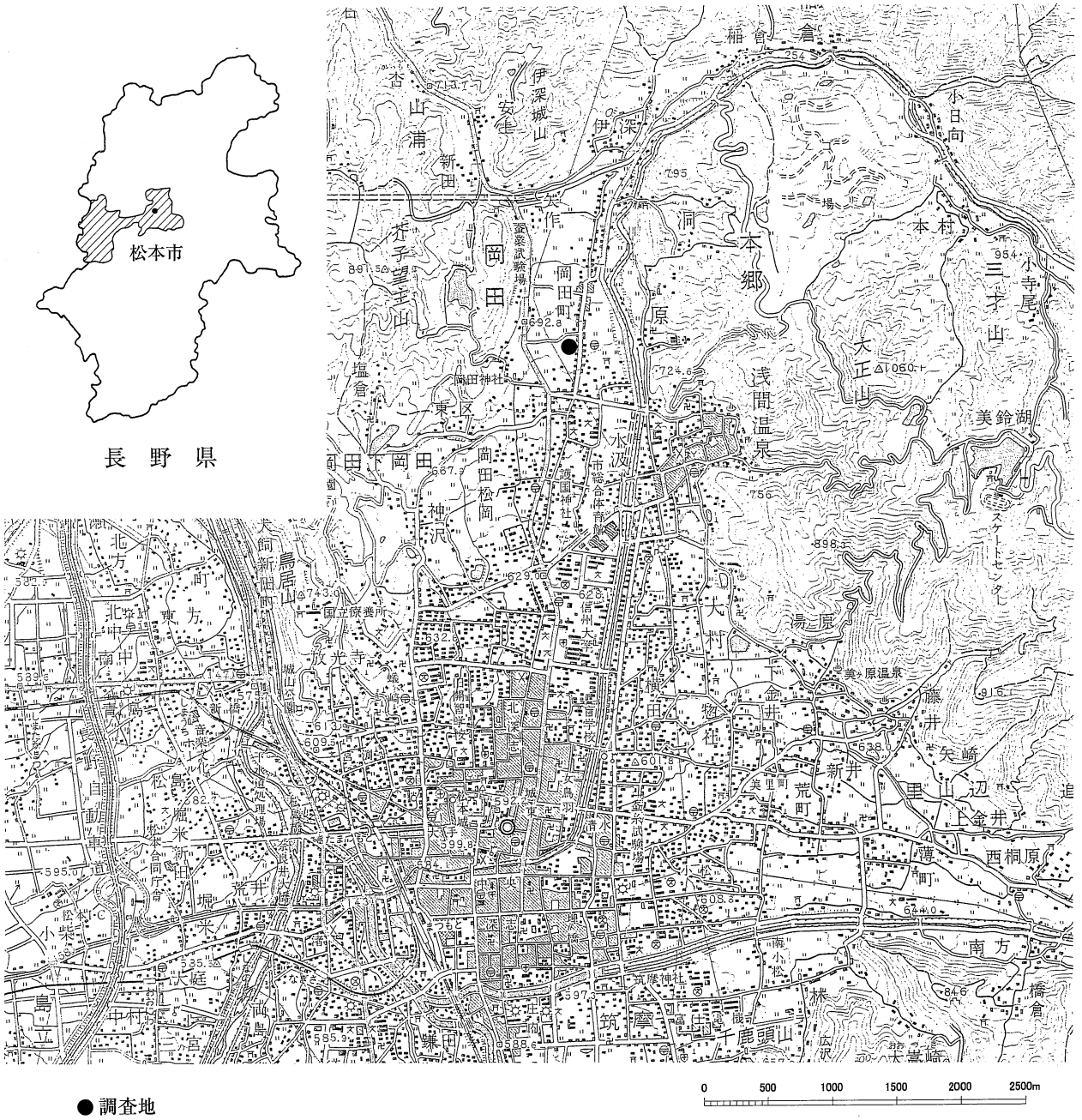
調査担当者：関沢　聡、内堀　団（～平成19年３月31日）、内田陽一郎、岡崎武祥（～平成19年１月31日）、横井　奏

調　査　員：今村　克、森　義直

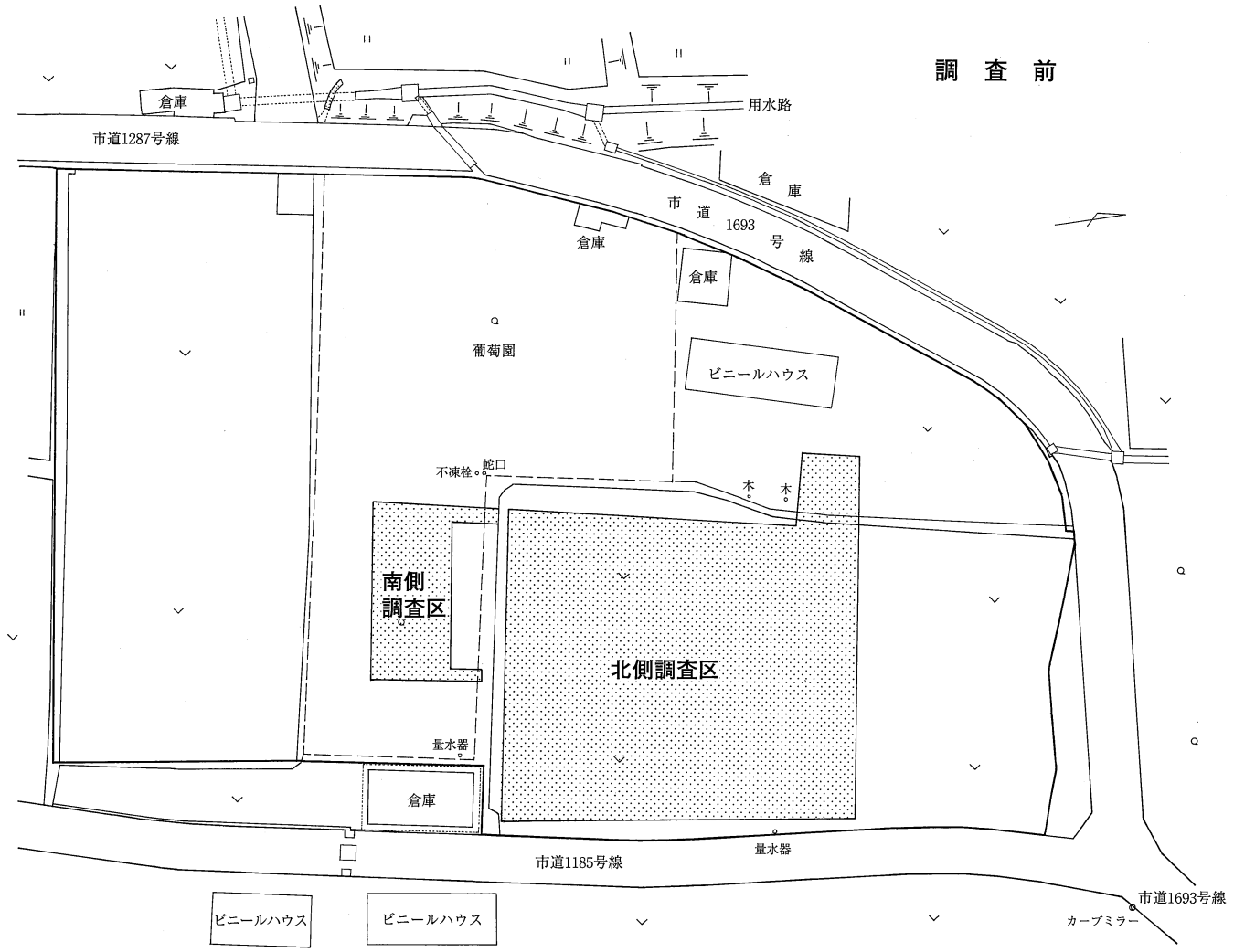
発掘協力者：（発掘作業）荒井留美子、飯田三男、井口方宏、今井太成、入山正男、折井完次、久保田登子、河野清司、笹井トキ子、清水陽子、中村恵子、中山自子、福島　勝、布野和嘉夫、待井敏夫、道浦久美子、宮澤文雄、宮田美智子、本木修次、百瀬　寛、山崎照友、渡辺順子

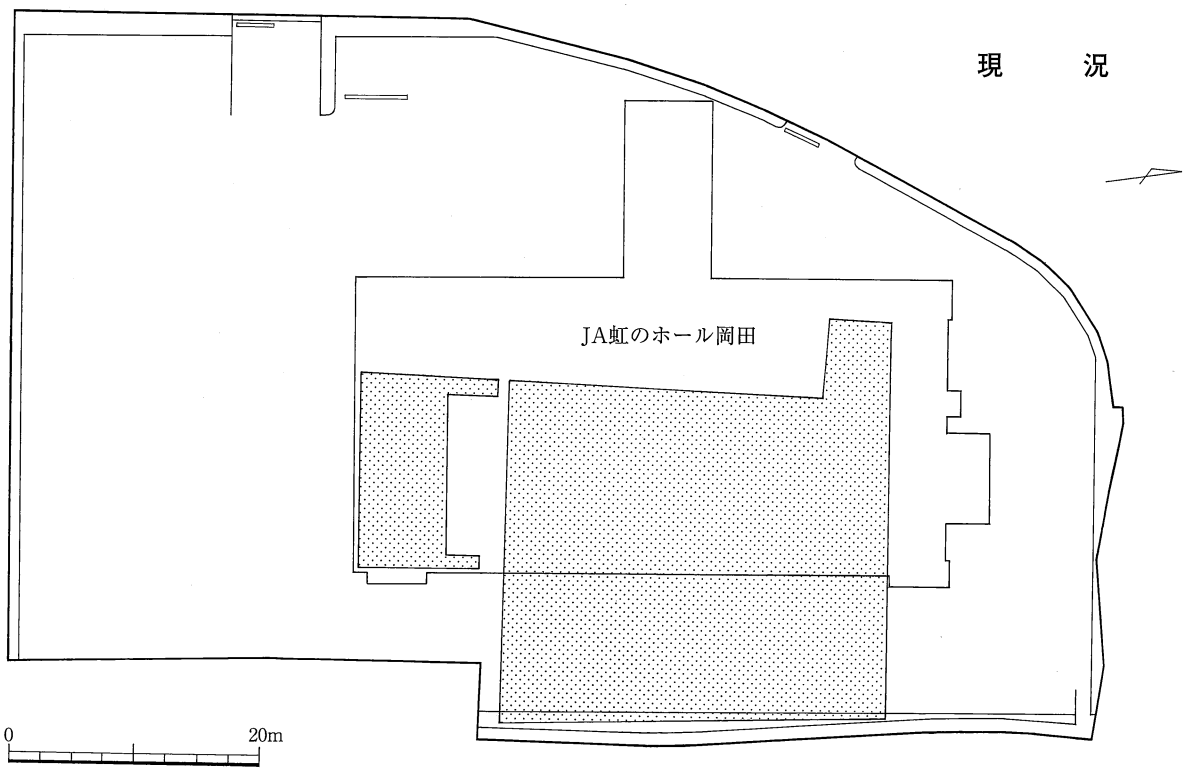
事　務　局：松本市教育委員会文化財課

宮島吉秀（課長）、横山泰基（係長）、直井雅尚（主査）、関沢　聡（主査）、櫻井　了（主事）、花村かほり（嘱託　～平成19年３月31日）、柳澤希歩（同　平成19年４月１日～）



第１図　調査地の位置


調　査　前
倉庫
用水路
市道1287号線
倉　庫
市　道　1693　号　線
倉庫
倉庫
葡萄園
ビニールハウス
不凍栓
蛇口
木
木
南側
調査区
北側調査区
量水器
倉庫
市道1185号線
量水器
市道1693号線
ビニールハウス
ビニールハウス
カーブミラー


現　　況
JA虹のホール岡田
0
20m

第２図　調査範囲

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　地理・歴史的環境

1　地理的環境（第１・２図）

松本市街地の北側、女鳥羽川の西岸に位置する岡田地区は、岡田町・岡田伊深・岡田下岡田・岡田松岡に分かれ、平成17年国勢調査では3,091世帯、人口7,354人を数える。水田・果樹を中心とする農業地域であるが、近年は四賀地区へ抜ける国道143号線周辺の市街地寄りで宅地造成・分譲等の開発が進行している。

遺跡が所在する岡田町は慶長９(1604)年以降、北国西脇往還(善光寺道)の岡田宿として発展してきた地域で、現在の住宅群も街道沿いに発展し、その両側に水田・畑が展開している。調査地は住宅街の西側、市街化区域の北端に位置しており、市道を挟んで西側に水田、北側に果樹園が接している。

地形的には、稲倉で南側に開析して市街地に向かって南流する女鳥羽川の右岸段丘上に立地している。現在の女鳥羽川右岸には３段の河岸段丘が形成され、矢作・神沢の高位、岡田伊深・岡田町・反目・中原に至る中位、原畑・宮の上の低位段丘面があり、今回調査地点は中位段丘上に位置している。本遺跡から国道143号線にかけて低く傾斜し、その西側は岡田神社が立地する丘陵・山麓地帯につながっている。

2　歴史的環境（第３図）

岡田地区には多くの遺跡が分布している。女鳥羽川右岸の本遺跡周辺について、過去の発掘成果を中心に時代別に概観する。なお、煩雑を避けるため、遺跡名は**ゴシック体**で表示し「遺跡」は省略して記載する。

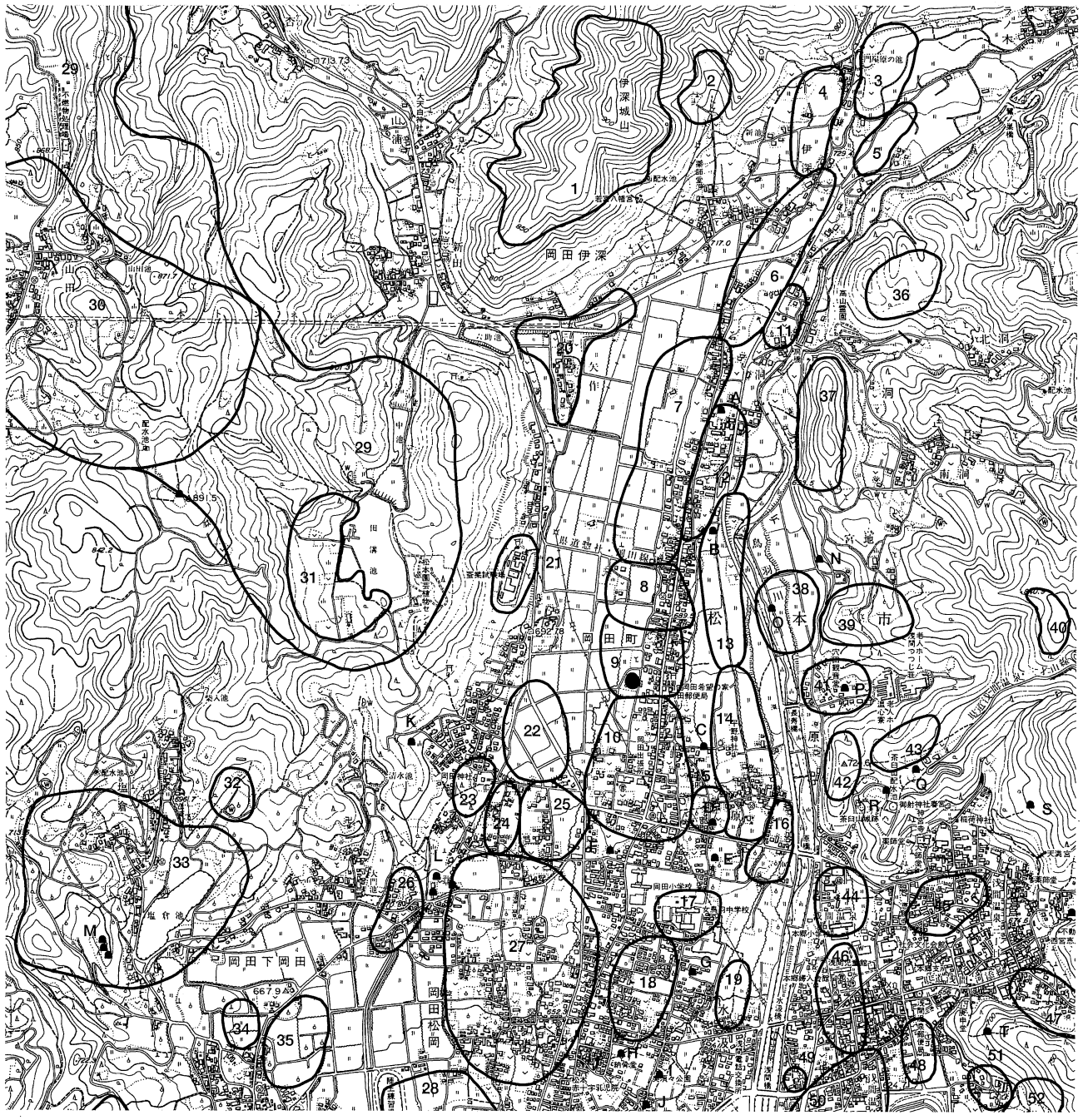
旧石器時代～縄文時代草創期では、**樋渡し**でナイフ形石器、**稲倉桜田**で有舌尖頭器が出土している。また、岡田伊深の怒田原で神子柴型石斧、岡田神社の西北斜面で有舌尖頭器が採集されている。縄文時代では、北側山麓斜面～高位段丘上の**稲倉桜田・稲倉和田・矢作**で早期、**堂田**で前期末の遺構・遺物が出土している。中期になると、段丘上の**矢作**（前葉）、**塩辛**（前葉～後葉）、**樋渡し**（中期末～後期初頭）、**岡田西裏**（初頭）等で集落が確認されているほか、西側の丘陵・山間部にも分布が広がり**島内山田・塩倉池**等がある。後期では**塩倉池**で敷石住居が確認されており、晩期では**稲倉桜田・岡田町**で土器が出土している。

弥生時代の遺跡は希薄であり、**岡田町**で縄文晩期末～弥生中期初頭・中期中葉の土器が、**岡田町・岡田宮の前・向山**で磨製石鏃が出土している。また、田溝池南からは銅鏃が単独で出土している。

古墳時代では、**二反田・岡田町**で前期が、**岡田松岡・岡田西裏**で中期、**塩辛**で後期の住居が確認されている。古墳は女鳥羽川低位～中位の段丘斜面と段丘上のほか、西側の丘陵上に分布している。詳細不明なものが大半であるが、**塚山古墳群**で中期古墳３基が調査されたほか、**猫塚古墳**から円筒埴輪が出土している。

奈良・平安時代では、女鳥羽川中位段丘上に**塩辛・岡田町・二反田・下出口・岡田西裏**が展開し、国道143号線を挟んで**岡田宮の前**、低位段丘上に**樋渡し・原畑・宮の上**がある。また、北側の**稲倉和田**で住居、**堂田**で炭焼窯が確認されており、広範囲に遺跡が展開している。このうち、**岡田町・岡田西裏・岡田宮の前**は、土師器焼成坑が見つかっていること、近接する西側山間地内に**北部古窯址群**があることから、窯業生産に関連した集落であった可能性が高い。なお、岡田地区は東山道ルート沿いに位置していること、醍醐天皇が延喜５(905)年に編纂を命じた『延喜式』神名帳に岡田神社が記載されていることからも注目される地域である。

中世以降は、**岡田宮の前**で14世紀以降の住居が確認されたほかは、複数の遺跡で宋・明銭等を伴う土坑が出土している程度である。『平家物語』・『源平盛衰記』には治承４(1180)年に以仁王から平家追討の令旨を受けた岡田冠者親義・太郎重義の名前が、『吾妻鏡』には文治２(1186)年に岡田郷の記載があるが、考古資料については中世以降は不明な点が多く、今後の調査が期待される。



● 調査地

遺跡

1	伊深城址
2	慶弘寺跡
3	稲倉和田
4	堂田
5	稲倉桜田
6	塩辛
7	岡田町
8	二反田
9	下出口
10	岡田西裏
11	竹ノ上
12	樋渡し
13	原畑
14	宮の上
15	下屋敷
16	原五反田
17	杵坂
18	松岡七日市場
19	水汲西原
20	矢作
21	向山
22	岡田宮の前
23	岡田神社裏
24	岡田堀ノ内
25	岡田田中
26	天神ノ木
27	岡田松岡
28	トウコン原
29	北部古窯址群
30	島内山田
31	田溝
32	御宝殿
33	塩倉池
34	土田
35	笠原
36	高山
37	早落城址
38	洞塚田
39	宮地
40	古屋清水
41	穴田前
42	北の窪
43	根利尾
44	本郷上高田
45	鳥居前
46	本郷高田
47	大音寺
48	新湯南裏
49	芝田
50	柳田
51	真観寺
52	飯治洞

古墳

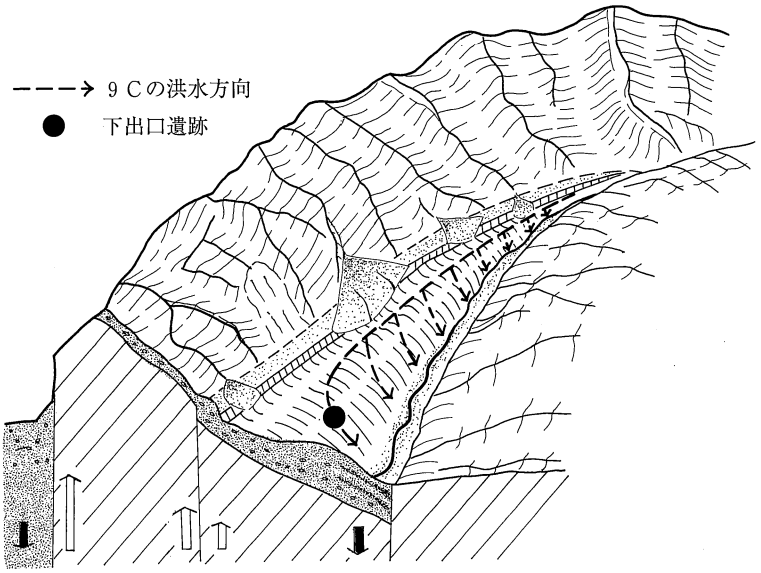
A	山城
B	高根塚
C	西原
D	原下屋敷
E	塚畑
F	岡田猫塚
G	水汲５号
H	松岡
I	水汲４号
J	水汲３号
K	清水入り
L	矢崎１～３号
M	塚山１～３号
N	土取場
O	洞塚田
P	穴田
Q	本社峯
R	茶臼山
S	御殿山
T	桜ヶ丘

第３図　周辺遺跡

第２節　地形・地質

下出口遺跡付近の地形・地質について　本遺跡は女鳥羽川扇状地の扇央付近西側の緩く南に傾斜した標高684～685ｍの間にあり、南に開けた扇状地で三方を新第三紀の内村層に囲まれている。扇状地堆積物はこの山地から運ばれた玢岩・砂岩・安山岩・緑色凝灰岩・泥岩・ガラス質安山岩などの砂礫と、それ等の風化物とロームの混ざった黄褐色砂礫土である。この扇状地には右岸に三段の段丘面があり、本遺跡は岡田町の西側の旧女鳥羽川により形成された第２段丘面にある。この旧女鳥羽川による流路は凹地となっており、本遺跡はその左岸の氾濫原となっており、小洪水の度に冠水しレンズ状の暗色砂礫土層が複雑に重なり合っている。しかし、傾斜地であるため土砂の流入量と流出量の差が少なく入れ替るだけの場合も多く、更に流路が扇状地の東(現在地)に移ってからは土砂の移動は少なくなり薄くなっている。このため本遺跡以南の似た傾斜地の遺跡では、異なる時代の遺跡がほぼ同じ深さの所にある。本遺跡は残念なことに後世人為的に表土の削平や移動が行われており、上述した種々の原因により標準となる土層柱状図は作れなかった。

地形の変遷について　女鳥羽川扇状地と西部山地は、更新世の末近く松本盆地東端に局地的構造性傾動運動により、西側が隆起し東側が沈降して傾動山地と傾動扇状地が誕生した。この変動は今も続いており沈降側の左岸（扇状地の東端）にあった段丘は消滅してしまい、西側の第２段丘面を流れていた旧女鳥羽川(縄文～９世紀)は基盤の傾動と洪水による土砂の堆積により次第に流れにくくなり、遂に９世紀に入ると洪水は南に向わず扇央を横切って東側に流れるようになり、その歴史的な洪水の跡が下出口遺跡にはっきりと残されていた。即ち洪水による礫がＮ20°Ｗ→Ｓ20°Ｅ方向に分布している。時期は遺物・遺構などから９世紀の早い時期と推定される。流路が岡田町の西側から東側の現在の流路に移るのは、唯一回の洪水によるものでないことが岡田町西側の旧女鳥羽川の左岸が寸断され、点点とマウンド状に並び、度重なる洪水により削られたことを物語っている(岡田町遺跡Ⅱ参照)。岡田町一帯の９世紀の住居跡を含礫黒色土洪水層が、岡田町北部から南は下出口まで覆っており、９世紀中には東側に移ったとみられる。このため扇状地の東側にあった縄文～奈良の遺跡のうち女鳥羽川遺跡の如く削られずに残ったのは、扇状地の東側が沈降し続けていたためであり、大村付近一帯に湿地帯ができ、アシやガマなどの原となり漆黒色土帯が何層もでき現在に至っている。



第４図　下出口付近の地形変化概念図

岡田地区の地形・地質に関する参考文献

松本市文化財調査報告No.95『松本市塩辛遺跡Ⅰ（遺構編)』松本市教育委員会　1992
松本市文化財調査報告No.99『松本市二反田遺跡　岡田町遺跡』松本市教育委員会　1993
松本市文化財調査報告No.105『松本市塩辛遺跡Ⅱ・Ⅲ　矢作遺跡　松蔭寺遺跡』松本市教育委員会　1993
松本市文化財調査報告No.112『松本市宮の上遺跡Ⅱ　原畑遺跡』松本市教育委員会　1994
松本市文化財調査報告No.117『松本市和田遺跡・桜田遺跡・堂田遺跡・樋渡し遺跡』松本市教育委員会　1995
松本市文化財調査報告No.118『松本市岡田町遺跡Ⅱ』松本市教育委員会　1995

第Ⅲ章　調査結果

第１節　調査の方法

調査地の設定　調査対象地は北高－南低に緩やかに傾斜する地形で、調査前は北側が畑とビニールハウス・倉庫、中央が葡萄園、南側が畑と３段に分かれていた。開発事業は敷地の北半を切土、南半を盛土により造成し、葬祭施設と駐車場を整備することになっていた。試掘調査を行った結果、北側を除く敷地のほぼ全域に埋蔵文化財の存在が予想された。そこで、試掘結果と建設工法を勘案し、調査範囲は敷地北側の切土部分と建物部分とすることにした。なお、事業者の都合により葡萄園とビニールハウス周辺の構造物の撤去が遅れたため、発掘は最初に北側調査区を設定し、その後に葡萄園部分に南側調査区を追加した。また、ビニールハウスの撤去後に北側調査区の北西部分を拡張した。最終的な調査面積は北側調査区839㎡、南側調査区115㎡、合計954㎡である。

調査方法　発掘調査は大型建設用機械バックホーで耕作土直下の土層約５cmまでを除去し、それ以降は人力による遺構検出を行った。その結果、調査区の広範囲にわたって、近・現代の耕作遺構(畝間)によって寸断された竪穴住居址・土坑群が検出された。遺構番号は種類毎に検出順に付している。なお、土坑が畝間の両側で検出された場合、ふたつの穴が同一又は別遺構の区別がつかないため、それぞれに別番号を付し、掘下げ時の観察結果に基づき土坑番号を整理した。

遺構検出後は各遺構の掘り下げを行った。土色の相違が判然とせずに遺構の重複や範囲を特定できない場合は、随時トレンチを設定しながら掘り下げを行っている。この段階で、土層観察等の所見から遺構でないと判断できたものについては、遺構番号を欠番とした。

なお、調査期間等の制約があり、近・現代の畝間と溝状遺構については、古代の遺構に係る部分を中心に掘り下げただけで、未掘の部分を多く残している。また、土坑は半截して土層を確認した後に全掘しているが、土層図作成ができなかったものが大半である。

測量方法　測量は、国土地理院の旧平面直角座標第Ⅷ系に基づき北側調査区の南東隅に平面測量用の基準原点（Ｘ＝29820.000、Ｙ＝－46560.000）を設営し、座標原点（Ｘ０、Ｙ０　本報告書ではＮＳ０、ＥＷ０に変換）とした。なお、基準原点の世界測地系平面直角座標は第Ⅷ系Ｘ＝30171.427、Ｙ＝－46842.595となる。標高については、調査区の東側市道上に基準点（ＢＭ＝684.413ｍ）を設定した。その後、基準原点を基点とし、調査区内に３ｍ毎にグリッドピンを設置して測量用の基準点とした。方法は簡易遣り方測量で行い、遺構配置図を１／100、土層・遺物出土・完掘図を１／20で作成し、詳細図が必要なものは１／10で作成した。

写真撮影　遺跡の景観・遺構の状況・遺物の出土状態等は、デジタルカメラ及び35㎜一眼レフカメラによるカラー・白黒フィルムで撮影した。また、調査完了時の調査地全景・立地景観は、業者委託によりラジコンヘリコプターによる航空写真撮影(ブローニー６×4.5cm判カラーポジフィルム)を行った。

整理作業　遺構は調査終了後に、現場で記録した写真・図面類の整理を行った。図面類は遺構平面・出土状況・土層図類の点検・照合を行い、報告書に掲載する遺構についてトレースを実施した。

遺物は洗浄(・クリーニング)した後、遺構単位で接合・復原作業を行った。なお、土器は洗浄後に注記（遺跡番号007、通番号、遺構番号・出土地点等）を行い、土器・金属製品は台帳登録を行った。この後、遺存度の良好なもの及び特徴的な遺物について、人手による実測・拓本・トレースを行った。

調査成果　発掘及び整理作業の結果、竪穴住居址６軒(平安時代)、掘立柱建物址２棟、土坑337基(古墳時代～中世)、溝状遺構３本(近・現代)、耕作遺構54本(近・現代)と縄文～現代にわたる遺物が確認された。その概要は巻末の発掘調査報告書抄録に掲載している。

第２節　遺構

１　竪穴住居址

遺構検出段階で９軒の竪穴住居址を認識したが、その後の調査所見から３軒（３・５・８住）を欠番とした。住居址を欠番とした理由は以下のとおりである。

３住　遺構検出時に１住の北東側で礫を多量に含む土層中から奈良時代を中心とする遺物がまとまって出土したため（第16図）、住居と認識したものである。遺構範囲を特定するためＴ２・３・16・17を設定し、あわせて調査区東壁の土層観察（第７図）を行った結果、洪水性の堆積物である３層の一部に遺物が包含されていることが判明したため欠番とした。ただし、本層中の土器は割れ口が摩滅していないこと、金属製品が出土していることから、近くに該期の住居址が存在していた可能性が高い。

５住　北側調査区の北西端に位置し、当初は４住を切る住居として認識したが、調査区を西側に拡張したところ土坑（土508）であることが判明し欠番とした。

８住　南側調査区のほぼ中央に位置し、遺構検出面で土師器の甕と炭化物・焼土が多量にみられたことから、当初は９住に切られる住居址のカマド部分と認識したが、後に単独の土坑（土471）であることが判明したため欠番とした。

なお、北側調査区東壁の２層（第７図）から８期の土器がまとまって出土している。本層を平面的に捉えることはできなかったので遺構と断定することはできないが、住居址であった可能性が考えられる。

以下では、各住居址毎に規模・平面形・カマド・ピット・遺物出土状況・時期について述べる。なお、遺物の出土については完形またはほぼ完形に近いもの、床面から出土したものを中心に記載した。各住居の土器群の組成等については次節で記している。

第１号住居址（第８図）

北側調査区の南東に位置する。規模は5.3×4.3ｍで、カマドのある東側を除く３辺の壁際にピットがあるため不整な隅丸長方形を呈する。検出面からの壁高は６～13cmと浅い。土４・土384・土455を切り、土452・畝６～畝８に切られる。

カマドは東壁中央に位置し、袖石が左右２個ずつ残存し、うち右袖手前の袖石はよく被熱していた。カマド内からは土師器の甕が出土したほか、炊き口付近でカマド構築材と考えられる礫の下からほぼ完形の黒色土器Ａ杯（15）が正位で出土している。なお、カマドではないが、南壁の中央西寄りに55×30cmの張り出し部分があり、その底面には焼土面がみられた。

ピットは17基あり、このうち位置関係とピットの深さからＰ１－Ｐ10・Ｐ９－Ｐ12は相対する壁柱穴の可能性が高い。特殊なピットに、黒色土器Ａ杯（５）が正位で出土したＰ６、完形の黒色土器Ａ皿（23）が壁に貼り付くように出土したＰ９、底部中央がさらに一段くぼむ二段底のＰ７がある。

遺物は、カマドの南側から住居南東隅にかけて食器類がまとまって出土している。黒色土器Ａ杯（４・13）と皿（30・27）は正位で、黒色土器Ａ皿（28）は逆位の状態で出土した。また、上半部が失われていたが土師器の小型甕Ｄ（38）・盤Ａ（34）が正位の状態で出土している。また、盤Ａに隣接して砥石が出土している。このほかに、住居北西の床面で黒色土器Ｂ耳皿（31）が逆位で、Ｐ３の上面では須恵器甕Ａ（42）の口縁部と研磨礫が出土している。

特筆すべきこととして、住居南西隅の約1.6×1.7ｍの範囲から総重量246ｋｇの粘土が出土した。これらの粘土は遺構検出面ですでに範囲が確認されていたもので、住居の片隅に大量の粘土を搬入し貯蔵していたものと考えられる。なお、この粘土塊の下から黒色土器Ａ蓋（１）が逆位で、隣接して土師器の小型甕Ｄ（35）が出土している。本址の時期は７～８期と推定される。

第２号住居址（第９図）

北側調査区の南端に位置する。試掘トレンチとトレンチ１により西側の一部と南側の床面は失われている。住居の南西隅が調査区外にかかるが、北辺が約3.1ｍの不整隅丸方形を呈する。検出面からの壁高は10cm前後と浅い。土550を切り、土450・畝14に切られる。

東壁の中央南寄りに広がる炭化物と焼土の浅いくぼみをカマドと推定した。この北側は地山が弧状に掘り残されており、袖の一部と考えられる。カマド周辺とその西側にはカマド構築材と推定される小児頭大の礫が散乱しているが、袖石の抜取り痕等は確認できなかった。

ピットは３基あり、壁際に位置するＰ１・Ｐ２、北壁寄りにＰ３がある。

遺物は住居の南側から多く出土している。特にカマドとその西側は土師器甕Ｂ(47・48)の破片が散乱していたほか、黒色土器Ａ杯(45)が出土している。また、住居の北東隅で土師器杯(44)が正位で、北西から黒色土器Ａ杯(46)が出土している。本址の時期は８期と推定される。

第４号住居址（第９図）

北側調査区の北西拡張部に位置する。本址周辺には汚物を埋設した現代のゴミ穴があり、重機によりこれらを完全に除去したことに加えて、土504～土508、畝52・畝53に切られていることから、本址は北壁東半～東壁と西壁の一部、カマド部分しか確認できなかった。規模は推定約3.6×3.5ｍの隅丸方形を呈し、検出面からの壁高は４～９cmと非常に浅い。

カマドは西壁中央に位置する。残存する西壁から突出して87×105cmの範囲(煙道を含む)に炭混じりの焼土がひろがり、特に45×28cmの範囲で顕著な火床面が確認された。カマドの中央は小さくくぼんでおり、支柱石の抜取り痕の可能性が考えられる。なお、カマド構築材や袖石の抜取り痕は確認できなかった。

ピットは東側にＰ１・Ｐ２があるが、いずれも深さ10cm前後と浅い。

遺物は北東隅の床面から鉄鏃２点が出土したほかは、覆土中から土師器甕・黒色土器Ａ杯・須恵器短頸壺の破片８点が出土しただけである。本址は遺物が少ないため時期の特定はできないが、８期を下ることはない。

第６号住居址（第10図）

南側調査区の北西に位置する。北側が調査区外にかかり、さらに畝43・畝48によって、東西壁が失われているが、調査区北壁の土層観察により１辺が約5.1ｍの方形住居と推定される。検出面からの壁高は11～20cmを測る。溝２・畝43～畝48に切られる。

カマドは西壁に位置する石組粘土カマドで、右側の袖石３個と支柱石が残存し、袖石外側には黄色粘土が付着していた。火床部のほぼ中央からは、土師器甕Ｂに混じって、被熱していない完形の須恵器杯Ｂ(74)が正位で出土している。また、カマドの東側と南側にはカマドの構築材と推定される大形礫が散乱していた。

ピットは14基あり、このうちピットの位置関係と深さから、Ｐ８と底面に平石２個が置かれたＰ12は主柱穴、Ｐ３・Ｐ５(底面に大形礫３個)・Ｐ11は壁柱穴の可能性がある。南西隅のＰ２は137×124cmの不整形な大形ピットで、上面にはカマドのものと推定される焼土が乗っていた。土師器の甕・杯、黒色土器Ａ杯、棒状礫が覆土中から出土しているが、このうち黒色土器Ａ杯(58・62・65)は正位の状態で出土している。Ｐ４は48×(28)cmの二段底を呈し、内側23×19cmの範囲に厚さ18cmの粘土が充填されていた。また、Ｐ14においても浅いが粘土が確認されている。Ｐ６からは土師器甕Ｂ(83)が口縁を南側にして圧し潰れた状態で出土している。

住居東壁際と南東隅では厚さ２～５cmの粘土が床面直上に広がっており、１住と同じく粘土が貯蔵されていたと考えられる。この粘土の下にはＰ10・Ｐ11に切られる大形ピットのＰ１がある。Ｐ１のうち、Ｐ11に接する西側のくぼみからは焼土と土師器甕の破片が出土していることから、かつては西側にカマドが構築されていた可能性が考えられる。

遺物は耕作遺構が床面まで達していたため全容はうかがえないが、住居の西・東側に集中して土器が出土

している。特に西側では、カマド東側でカマド構築材の可能性がある大形礫と共に、土師器の甕Ｂ(84)・甑Ｃ(87)の大形破片が散乱していた。さらに、カマドの北側からは須恵器杯Ａ(72)と軟質須恵器杯(71)、カマドの南側からＰ２にかけては土師器・須恵器杯Ａ・黒色土器Ａの破片が多く散乱していた。また、カマド内では土師器甕Ｂの複数個体の破片(80・81・85・86)が出土している。なお、前述の土師器の甑Ｃ(87)・甕Ｂ(83)はカマド内の破片と接合している。このほかに、南辺中央の壁際からはほぼ完形の黒色土器Ａ杯(61)が正位の状態で出土している。本址は今回確認された住居址群の中では最も古いもので、時期は６～７期と推定される。

第７号住居址（第11図）

南側調査区の南東、９住の東側に位置する。南側が調査区外にかかるが、北辺が約4.6ｍの方形または隅丸方形を呈すると推定される。検出面からの壁高は15cm前後を測る。土404を切り、畝38～畝42に切られる。

カマドは東壁に位置する。袖部は確認できなかったが、袖石の抜取り痕と推定される浅いくぼみが中央の焼土面に接して両側に２個ずつあること、焼土面の上方から大形の被熱礫が出土していることから石組カマドと推定される。カマド内とその周辺から土師器の甕が出土しているが、図示できるものはなかった。

ピットは12基ある。壁際のＰ７・Ｐ11はピットの位置関係と深さから壁柱穴の可能性が考えられる。Ｐ２では底面から砥石が出土したほか、Ｐ９から黒色土器Ａ皿(94)が出土している。

住居北西隅の壁際から床面にかけての約1.1×0.7ｍの範囲では最厚６cmの白色粘土が堆積しており、本址でも粘土が貯蔵されていたと考えられる。なお、粘土下の床面は１～４cm程が浅く凹んでいた。

遺物は、耕作遺構が床面まで達していたこともあり、口縁から底部まで接合できた土器はほとんどない。住居北西の粘土塊周辺で土師器の小型甕Ｄ(98)・黒色土器Ａの杯(91)・椀(95)、中央の調査区境界際で黒色土器Ａ杯(93)が出土している。住居東側では黒色土器Ａ杯(92)・須恵器皿(97)、灰釉陶器壺が出土している。この他にＰ１付近の床面から鉄滓が出土している。本址の時期は７期と推定される。

第９号住居址（第11図）

南側調査区の南西、６住の南側に位置する。土471を切り、畝45～畝49に切られる。南側が調査区外にかかるが、北辺約4.4ｍの隅丸長方形を呈すると推定される。検出面からの壁高は20cm前後を測る。

カマドは西壁に位置し、南側の一部は調査区外にかかる。カマドの焼土面と西壁の間には、地山が僅かに被熱した浅いくぼみがあり、煙道に伴うものと推定される。住居の西側には大形礫が散乱していることから石組カマドと推定される。

ピットは６基あるが、二段底のＰ１を除いていずれも浅いため柱穴を特定することはできない。このうちカマドに接するＰ４は、袖石の抜取り痕の可能性が考えられる。また、Ｐ５は底面中央の一部に焼土面がみられた。

住居東壁際の床面から粘土塊が出土している。調査区外にかかるため粘土の範囲は確認できなかったが、１住・６住・７住と同様に粘土が貯蔵されていた可能性が考えられる。

遺物は耕作遺構によって寸断された状態であったが、住居の西側に集中し、特に土師器の煮炊具がまとまって出土している。カマド付近の床面では土師器甕Ｂ(120)が潰れた状態で出土したほか、住居中央からカマドの東側にかけて土師器の甕Ｂ(115・118・119等)、甑Ｃの破片(123)が出土している。また、カマドの東側から刀子が出土している。このほかに北東隅の壁際で床上13cmから完形の黒色土器Ａ皿(108)が逆位で、その西側60cmの壁際で須恵器甕Ａの破片が壁に立てかけられたような状態で出土している。本址の時期は７期と推定される。

２　土坑（第13～16図、第１表）

本調査では大小の穴をすべて土坑として扱っている。土坑は近・現代の耕作遺構(畝間)により寸断され全形をうかがえないものが多かったため、遺構検出時に畝間の両側で捉えた土坑には別番号を付し、掘り下げ

の段階で土坑番号を整理した。この結果、当初556基まで土坑番号を付したが、最終的には352基を土坑とした。このうち15基は掘立柱建物址を構成すると考えられるので、実際の土坑は337基である。すべての土坑の規模・他遺構との新旧関係・出土遺物等については一覧表を参照されたい。

本項ではこれらの中から特徴的な土坑23基について図示し、主なものについて記述することにした。

(1) 土師器焼成坑

覆土から床面にかけて炭化物・焼土を多く含み、土器焼成時の破損品または不黒色化の黒色土器と推定される土器片を含むものが3基あり、土師器焼成坑と判断した。いずれも土器の種別・器種が限定されること、破片の出土であることから、土器群の時期を特定することはできないが、9世紀代に帰属するものと推定される。

土141　北側調査区の中央北寄りに位置する。規模156×139cmの不整な隅丸長方形を呈し、深さ21cmを測る。南側で土519を切る。床は北高－南低、西高－東低の地形に対応してゆるやかな傾斜をもつが、西側は比較的平である。北東隅に大形の基盤礫が露出している。南辺の西側は84×55cmの範囲が皿状にくぼんでいた。

覆土には多量の炭化物と焼土が含まれていた。被熱により赤色焼土化した床面は確認できなかったが、床面の直上には炭化物(長2～3cmの炭化材を含む)と焼土の広がりがみられた。なお、炭化物・焼土は北西部の床面では希薄であり、奥壁・側壁にはほとんどみられなかった。

遺物は南西部に多く、床面から直上にかけて土師器の甕B・小型甕D、黒色土器A杯の破片が出土し、特に土師器の甕B・小型甕Dが多い。南辺中央の壁際付近からは焼成時破損品と考えられる剥片状の土器が出土したほか、不黒色化の黒色土器A杯の破片が出土している。

土384　北側調査区の南東に位置する。北東部が1住により切られているが、規模154×143cmの隅丸方形を呈し、深さ19cmを測る。覆土は炭化物・焼土を含む黒褐色土の単層であったが、被熱により赤色焼土化した床面・壁面は確認できなかった。

遺物は土師器の甕、黒色土器Aの杯・椀の破片があり、焼成時破損品と考えられる剥片状の土器、不黒色化の黒色土器A杯の破片が出土している。

土550　北側調査区の南端に位置する。2住に東側を切られ、南側が調査区外にかかるため、床と西側壁の一部が確認できただけである。なお、北側調査区南壁の土層観察(第7図)により幅147cm以上の土坑であったことがわかる。床面は116×87cmの範囲が被熱により赤色焼土化し、南側の調査区外に伸びている。

遺物は土師器の甕、黒色土器A杯の破片があり、特に黒色土器A杯が多い。本址においても焼成時破損品と考えられる剥片状の土器が出土している。

(2) 長方形を呈する大形土坑

北側調査区で4基の長方形土坑が検出されている。このうち、土123・土323は規模や銭貨が出土していることから、墓址の可能性がある。土182・土267は規模や覆土中に炭化物・焼土をふくむことから同じ性格である可能性が高い。これらの時期については、土323から内耳鍋と明銭(洪武通寶・永楽通寶)が出土し、土182からも内耳鍋が出土していることから、いずれも中世に属する可能性が高い。

土123　北側調査区の中央南寄りに位置する。検出時は255×223cmの不整方形の土坑として捉えたが、その後210×140cmの長方形土坑とした。土坑の中央東寄りの検出面とその直下から銭貨3枚(熙寧元寶・元祐通寶、正隆元寶)と火打金具が出土している。

土323　北側調査区の北寄りに位置する。検出面からわずかに掘り下げた段階で、南東隅で洪武通寶1枚、北西隅では銭貨10枚(開元通寶・景徳元寶・祥符元寶・天聖元寶・景祐元寶・元祐通寶・元符通寶・政和通寶・永楽通寶2)が錆着した状態で出土した。また、覆土中から内耳鍋の破片が出土している。土坑底面では北側と西壁沿いに大形の礫がまとまって出土している。

土182　北側調査区の西端に位置する。2本の畝に切られて全形はうかがえないが、南北2.0m×東西

1.4ｍ以上の規模を有する。北側の底面には30cm超の大形礫３個が見られた。覆土には炭化物・焼土が微～少量含まれていたほか、土師器・須恵器・黒色土器Ａ・内耳鍋の破片が出土している。

土267　北側調査区の中央西寄りに位置する。２本の畝に切られて全形はうかがえないが、南北2.1ｍ×東西1.3ｍ以上を測り、土182と類似した規模を有する。本址も覆土中に炭化物・焼土が微量に含まれており、土師器・須恵器・黒色土器Ａの破片が出土している。

(3) 方形土坑

北側調査区の北西で４基の方形土坑が検出されている。土215・216、土251・253はそれぞれ隣接していること、４基とも覆土が２層からなることが共通している。これらの土坑は規模・配置から同じ性格のものであり、うち１基から内耳鍋が出土していることから中世以降の土坑と推定される。

土215・土216　２基は東西に隣接する。底から壁は直に近い立ち上がりを呈し、底面までの深さはほぼ同じである。土215の南西部の覆土上層で直径22cm、厚さ最大６cmの焼土ブロックが確認されたが、直下は被熱していないので埋没時の混入と判断した。遺物は土師器・須恵器・黒色土器Ａの小破片が出土しているだけである。

土251・土253　２基は南北に隣接する。土坑251からは土師器・須恵器の破片が出土している。土253は土251よりも規模が大きく、底から壁は直に近い立ち上がりを呈し、覆土上層からは内耳鍋・灰釉陶器・土師器・黒色土器Ａ・須恵器(高杯の脚部)・つき臼等が出土している。

(4) 完形土器を出土した土坑

土500　北側調査区の北西端に位置する。不整形な浅いくぼみの中に、古墳時代中期の高杯(143)が横倒しの状態で出土した。本址の北・西側の調査区壁では、土坑の覆土と同じ土層が確認されていること、本址の南西で焼土面(範囲精査作業時に消失)が確認されていることから、本址は耕作により削平された竪穴住居の一部であった可能性が考えられる。また、土501・土503も同時期の可能性がある。

土156　北側調査区の南西寄りに位置する。西半は畝22によって失われているが、円形を呈する。土坑中央の底面直上で須恵器杯Ｂ(129)が正位の状態で出土し、本来は完形品であったと推定される。

土394　北側調査区の南側に位置する。土393を切る。土坑の底面から堀方に沿うようにして、内耳鍋(134)が横倒しの状態で出土した。遺構検出の段階で内耳鍋の破片が確認されていたこと、内耳鍋は押し潰れた状態でほぼ完形であったことから、完形品の状態で埋設されていた可能性が高い。

土511　図示していないが、土坑の西側底面付近からほぼ完形の黒色土器Ａ杯(144)が出土している。

(5) 特殊な土坑

土325　北側調査区の北寄りで検出された不整な隅丸長方形を呈する土坑で、覆土は炭化物を比較的多く含んでおり、土師器・須恵器・黒色土器Ａの破片が数点出土している。

土372　北側調査区の中央北寄りに位置する不整楕円形の土坑で、両端には遺構に伴うと推定されるピットが２基ある。東側は19×15cm・深さ22cm、西側は25×22cm・深さ21cmを計り、いずれも深く内傾していた。

土471　南側調査区の中央西寄りに位置する。遺構検出時に土師器甕の破片、焼土・炭化物等がみられたため、９住・畝45に切られた竪穴住居のカマド部分としたが、その後に楕円形を呈する土坑と判明した。覆土は焼土・炭化物を含んでおり、土坑底面は良く被熱して厚さ２～３cmの焼土面が形成されていた。遺物は土師器の甕・甑、黒色土器Ａ波状皿が出土している。なお、本址は土141・土384と比較して規模が小さいこと、焼成時破損品と考えられる土器片がないことから、土師器焼成坑である可能性は少ないと考える。

土508　北側調査区の北西に位置し、遺構検出時には４住を切る住居址の一部(５住)と捉えたが、その後に西側を拡張して遺構範囲を確認した結果、大形の長方形土坑であることが判明した。遺構に伴うピット２基があり、覆土～底面にかけて土師器甕、黒色土器Ａ椀、須恵器の杯・甕の破片、黒曜石の剥片、鉄製品が出土している。

土212　北側調査区の北西に位置する。長径80×短径73cm、深さ57cmの円形土坑で、底面から覆土中にか

けて19個の大形礫が出土している。このうち17個の礫には被熱痕があり、カマドの構築材を廃棄した土坑の可能性が考えられる。

土447・土535　土層観察の結果、柱痕が確認できた土坑である。土447からは土師器甕・黒色土器Aの破片、土535からは内耳鍋の破片が出土している。他に、図示していないが土492でも柱痕が観察されている。これらは単独に検出されたもので、掘立柱建物や柵・柱列を構成するものではない。

3　掘立柱建物址（第12図）

本遺跡では土坑の多くが耕作遺構により寸断されていたため、遺構検出の段階で建物址と確定できたものはない。しかし、土坑の規模・位置関係・土層観察等から建物址と推定できるものが2棟あり、整理作業の段階で建物址とした。

第1号掘立柱建物址

北側調査区の南西に位置する。土522、土161、土154、土457(・180)、土172、土134、土186(・509)、土277の10基の土坑で構成される。南東隅に該当する柱穴が不明であるが規模4.9×2.6mで、2間×2間の総柱式と推定した。このうち、土186では底面に接して28×23cmの上面が平らな扁平礫が置かれていた。柱間寸法は桁行2.1～2.3m、梁行1.3～1.6mである。土186と土457が同規模のピット(土509・土180)と切合関係があることと、畝24に切られて充分な土層観察ができなかった土161・土172・土277は各2基の土坑に分かれる可能性があることから、本址は2時期にわたる建替えが想定できる。遺物は、土134を除くすべての土坑から土器が出土している。土器はいずれも小片で遺構の時期を特定することはできないが、土師器の杯・甕、黒色土器A杯、須恵器の杯A・甕からなり、住居址群に伴う可能性が高い。

第2号掘立柱建物址

北側調査区の南西端に位置する。土58、土53、土43、土199、土49の5基の土坑で構成される。梁行2間の側柱式で、南側は調査区外にかかるものと推定した。規模は梁行4.4mで、柱間寸法は推定桁行2.4～2.7m、梁行2.2～2.3mである。遺物は土199を除くすべての土坑から土器が出土している。土器はいずれも小片で遺構の時期を特定することはできないが、土師器の食器・甕、黒色土器A杯、須恵器杯からなり、住居址群に伴う可能性が高い。

4　溝状遺構（第5図）

南側調査区で畝間と直行する3本の溝が検出されている。これらはいずれも近・現代の遺構と推定される。このうち、溝1は旧葡萄園で使用されていた水道栓の水道管埋設溝である。他に、畝を切る溝2と畝に切られる溝3がある。

5　耕作遺構（畝間）（第5図）

畑の畝間部分に相当する近・現代の耕作遺構が54本検出されている。北側調査区で37本、南側調査区で17本の畝間が検出されているが、調査時の現況は北側が畑、南側は一段低い葡萄園であったので、以前は2段(枚)の畑があったと推定される。畝間の方向は調査区東側の市道1185号線に平行しており、検出面上で畝間の幅は30cm前後、隣接する畝間との間隔は約60～80cmである。なお、北側調査区では北端から13、14m間は耕作遺構がほとんどみられないが、この部分は耕土が浅く、重機使用時に削平したものである。覆土からは古代の遺物のほか、近・現代の陶磁器・耕作用マルチフィルムが出土している。

第１表　土坑一覧表

凡例　「出土遺物」欄では以下の略号を使用している。
縄:縄文土器、土:土師器、須:須恵器、黒:黒色土器Ａ、灰:灰釉陶器、内耳:内耳鍋
陶：陶器、磁:磁器、食:食器（杯または椀）、銭:銭貨、ob:黒曜石、ch:チャート

土坑番号	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
	長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1	45	43	29				
3	106	80	16			土(食・甕)、須(蓋)、黒(杯)	
4	25	21	8		1住		
5	41	29	10				
9	40	33	12			土(甕)	
10	27	25	21				
11	79	41	21				
13	43	41	23				
14	32	29	9				
15	32	27	13			土(甑？)	
16	89	65	11			土(甕)	
17	118	(53)	11			土(食)、須(杯)、黒(杯)	
18	62	47	20			土(食・甕)	
19	96	(38)	2		土536	土(甕)、黒	
20	26	25	13		畝11		
21	(25)	(17)	11		畝14	土(食)	
22	89	70	24			土(甕)、黒(椀)	
23	49	27	18			土(甕)、黒	
24	49	38	13				
26	35	30	8			土(食)、黒	
27	40	35	12			黒	
28	45	(20)	9				
29	30	28	31			土(食・甕)、黒(椀)	
30	56	31	23			土(杯・甕)、黒	
31	31	(18)	8				
32	33	30	14				
33	58	(22)	12				
34	28	25	25			土、黒(椀)	土35と新旧不明
35	30	28	8				土34と新旧不明
36	(23)	23	7				
37	26	22	11				
38	23	21	29			縄？	
39	30	28	12				
40	(31)	28	7		畝21		
41	32	(18)	13				
42	40	30	11				
43	74	74	35		畝23	土(食・甕)	建２
48	24	22	8				
49	55	51	41			黒(杯)	建２
50	29	26	10				
51	28	27	11			ob	
53	64	48	32		畝25	土(食)、黒(杯)	建２
54	51	36	33				
55	91	64	19			土(甕)、黒	
57	(52)	47	16		畝27		
58	48	48	36		畝27	須(杯)、黒	建２
59	41	31	25				
60	30	21	15				
61	48	43	13				
62	33	27	23				
69	55	53	40		畝７	土(甕)	
70	(23)	27	9		畝７		
71	(57)	(21)	21		土72、畝７	土(食)	
72	50	45	20	土71		土(甕)、黒	
73	54	54	12			土(甕)	
74	65	39	45		畝９	須(甕)、黒、灰、内耳	
75	35	32	9		畝10	黒(杯)	
77	23	21	11				
78	(44)	(44)	15	土521	畝11・12		
81	33	25	13			土、黒	
82	24	(18)	13		畝14	黒	
83	50	(42)	16		畝14		
84	60	43	23		畝14	土(甕)、黒	
85	26	22	17				
86	50	48	36			土(甕)、黒	
87	60	54	21		畝16	土(盤)、黒(杯)、鉄製品	
88	23	22	45		畝６		
98	(40)	32	18		畝８		
99	75	57	27		畝９		

土坑番号	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
	長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
102	29	28	13				土103と切合
103	54	33	39		畝10		土102と切合
104	(53)	42	19	土482	畝10		
107	57	51	25		畝11		
112	57	48	12				
114	100	72	11			土(甕)、黒(椀)	
115	20	20	9				
116	33	30	34			土(甕)、黒、ch	
123	210	140	23		土515、畝18・19	土(甕)、須(杯・壺)、黒、内耳、銭3、火打金具、ob	
124	29	25	27				
126	42	(30)	35		土489、畝17		
127	42	29	20			土(食・甕)、黒	
129	40	32	28		畝19	土(甕)、黒	
130	38	29	41		畝20		
131	23	20	30				
132	23	(14)	12		畝20		
133	29	28	10				
134	64	54	35	土470	畝21		建1
136	17	14	6				
138	26	18	11			土(食)、黒	
141	156	139	21	土519		土(甕)、須(壺)、黒(杯)	土師器焼成坑
143	23	15	18		畝12	土(甕)	土480と新旧不明
144	64	46	28		畝10	土(甕)	
147	31	(23)	12		畝9		
148	67	64	26	土481		土(甕)、須(壺？)、黒(椀)	
149	36	28	28			土(甕)、黒(杯)	
153	50	43	29		畝22	黒(杯)	
154	60	46	33		畝21	土(甕)、須(杯)、黒	建1
156	89	76	15		畝22	須(杯B)	
157	33	20	15			須(杯A)、黒	
158	54	27	15	土159			
159	20	19	20		土158		
160	65	(30)	25		畝23	土(食)	
161	102	65	39		畝24	土(甕)、黒(杯)	建1
163	92	(55)	18		畝24・25	土(甕)、内耳	
164	59	(47)	16		畝26		
165	19	17	14				
166	19	18	13				
167	27	(24)	17		畝23		土170と新旧不明
168	24	21	33		畝22	石英(結晶)	土169と新旧不明
169	21	20	33		畝22		土168と新旧不明
170	36	36	34		畝23		土167と新旧不明
171	40	36	19	土172		土(甕)、須(甕)、黒	
172	(85)	48	31		土171、畝24	土(食・甕)、須(杯A)	建1
174	(33)	31	7		畝25		
175	42	34	14		畝27	須(甕)、陶	
176	28	(26)	17		畝28		
177	26	24	16		畝29	土(甕)	
178	44	(25)	14		畝24		
179	(57)	51	23		畝25・26		
180	52	50	30		土457	土(食)、須(甕)、黒	建1
182	194	(140)	23	土522	畝26～28	土(甕)、須(杯)、黒(杯)、内耳	
183	32	30	21				
184	31	25	18			青磁(碗)	
185	(26)	25	8		畝28		
186	43	40	46	土509	畝26	土(食・甕)、黒(杯)	建1
188	31	30	12				
190	35	30	30		畝13	土、黒	
198	52	(27)	19			縄？	
199	70	(54)	30				建2
201	25	22	29				
202	38	33	27	土203			
203	32	(20)	18		土202		
204	71	64	13			土(杯)	
206	34	29	32				
207	31	28	15				
208	25	15	21				
211	25	24	27			土	
212	(80)	73	57		土215・216	土(食・甕)	大形被熱礫多数出土
213	20	17	33			土	
215	127	115	35	土212・214		土(甕)、須(杯・蓋)、黒	

土坑番号	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
	長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
216	120	95	35	土212・214		土(甕)、須(壺)	
218	50	44	33				
219	21	20	9			縄？	
220	29	23	13				
221	34	31	11				
222	77	65	49			土	
223	26	23	22				
224	22	20	14				
225	25	23	30			土(甕)	
226	27	25	17				
228	33	31	30				
229	42	28	15			土(甕)、須(杯A)	
230	20	18	27				
233	20	18	30				
234	95	62	32			土(食・甕)	
235	28	26	12				
236	52	35	31			土(甕)	
237	41	23	14				
238	24	16	11				
239	37	32	10			土(食)、黒	
240	25	16	9				
242	38	30	9				
244	21	15	27				
245	25	22	22				
247	26	20	8				
250	32	27	24				
251	110	102	22		土517	土(甕)、須(杯・甕)	
252	21	20	9	土253		土(甕)、内耳	
253	167	141	53	土254	土252	土(甕)、須(杯・高杯)、黒(杯)、灰、内耳、つき臼、石鏃	
254	20	(10)	14		土253		
255	43	43	20				
258	(47)	32	20		土513、畝19	土	
259	39	33	23		畝17		
260	38	31	27			黒(杯)	
261	22	21	11			須(壺？)	
262	39	32	22		畝18	土	
263	23	21	11				
265	30	25	9				
267	215	(138)	21		土526、畝21・22	土(杯)、須(杯)、黒(杯)	
269	81	(46)	15		畝23		
271	81	(64)	20		畝24・25	黒(杯)	
272	41	34	17			土(甕)	
273	77	(31)	11		畝25	黒	
276	32	24	15				
277	77	50	50		畝24	須(杯A)、黒	建1
278	53	35	34	土510		内耳？	
279	30	(24)	16		畝23	須(杯)、黒	
280	30	27	19				
281	30	25	17			土(甕)	
282	26	24	34				
286	60	(17)	11		畝21		
287	18	17	9				
288	43	43	10				
289	50	(36)	34				
290	49	30	16				
291	23	22	19				
292	22	16	14				
294	28	26	15				
298	48	42	13				
299	30	(18)	15		土300		
300	80	45	23	土299			
302	25	18	23			土、ob	
303	32	26	9				
304	35	19	12				
306	131	47	23			黒	
307	53	32	14				
311	38	29	17				
312	27	20	19				
313	32	24	28				
315	17	15	17			縄	
316	46	41	20				

土坑番号	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
	長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
318	59	43	60				
319	41	39	32				
320	20	14	17				
321	40	38	16				
323	150	92	39	土322		黒(杯)、内耳、銭11	
324	26	24	25				
325	145	115	29			土(甕)、須(杯)、黒	
339	92	87	31		土342	土(食・甕)、黒	
341	18	17	9				
342	30	28	33	土339			
344	42	38	27				
346	24	22	8				
347	45	36	17				
348	18	17	38				
351	43	23	16			土(高杯？)	
354	60	49	23				
356	56	50	32				
357	48	39	25			土	
358	(67)	62	18				
359	39	25	12				
360	12	11	12				
361	37	33	23				
362	17	16	10				
363	34	29	22				
365	46	36	18				
367	20	20	8				
372	145	110	16			土(食・甕)、須(杯B)、黒	
373	30	25	25				
376	51	40	15				
378	26	23	19				
380	44	28	21		畝19	土(食)、須	
381	59	32	10		畝19	土(食)	
382	46	30	10		畝18	土(甕)、黒	
383	38	35	10				
384	(154)	(143)	19	土455	1住	土(甕)、須(食)、黒(杯・椀)	土師器焼成坑
386	64	55	32		畝12	土(杯)、黒	
387	21	(11)	8				
388	48	30	15				
389	60	54	23		畝10	土(甕)、須(甕)、黒(杯)	
390	32	30	17			土(食・甕)、黒(杯)	土391と新旧不明
391	26	19	14			黒	土390と新旧不明
392	(46)	32	19				
393	36	30	33		土394	土(甕)、須(甕)、黒	
394	36	29	19	土393		内耳	
395	37	31	27			土(杯・甕)、黒	
396	60	43	16				
398	33	33	11			縄？	
399	40	30	13		畝36		
401	(32)	27	13		畝38		
404	(140)	(20)	17	土426	7住	土(杯・甕)、黒(杯)	
407	43	(16)	16		畝39		
408	85	(45)	26		畝39	土(食・甕)、須(杯)、黒(杯)、円盤状土製品	
409	70	57	28		畝40		
412	31	24	12			黒	
417	52	25	15				
426	34	27	26		土404	黒	
427	22	21	15				
429	34	17	16		畝43		
437	65	(23)	28	畝49			
447	76	68	55		畝49	土(甕)、黒	柱痕
448	(25)	28	20		6住、畝48		
450	45	32	13	2住			
451	36	(15)	21				
452	47	37	23	1住			
453	(18)	(15)	13		畝36	土	
454	28	(16)	10				
455	(96)	(44)	15		1住、土384・452	土(甕)、黒	
456	42	28	29		畝24	土	
457	41	38	32	土180	畝26	土(杯)、須(杯)、黒	建1
459	40	30	18		畝27		
462	(22)	20	29		畝20	須(食)	

土坑番号	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
	長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
465	(28)	(19)	31	土514	畝20		土466と新旧不明
466	(46)	(40)	30		畝20	土(甕)、黒	土465・498・514と新旧不明
467	29	23	25		畝20	土(杯・甕)、黒(杯)、灰	
468	26	25	23	土129	畝19	土(甕)、黒	
470	(44)	(18)	16		土134、畝21		
471	(43)	(35)	10	土492	9住	土(甕・円筒形土器)、黒(波状皿)	底面被熱
480	173	(45)	18		土523、畝12	土(甕)、須(甕)、黒	土143と新旧不明
481	55	(18)	14		土148、畝9		
486	43	36	16		畝22		
489	34	(28)	32	土126	畝17		
492	73	57	24	土471	9住		柱痕
493	(25)	(11)	18			土、黒、ob	
498	(31)	(26)	28		畝21		土466・514と新旧不明
499	54	50	42	土500		須(蓋)、黒、磁	
500	(55)	67	13		土499	土(甕・高杯)	
501	57	52	43			土	
503	72	63	33	畝54			
504	182	(65)	24	4住	畝53		
505	60	50	23	4住、畝51・52			近・現代
506	58	44	33	4住、土508、畝52			近・現代
507	54	45	45	4住、土508、畝52			近・現代
508	352	140	38	4住	土506・507	土(甕)、須(杯・甕)、黒(椀)、ob、鉄製品	
509	51	45	32		土186、畝26	土(甕)、黒	建1
510	26	(22)	28		土278		
511	115	61	29		畝7	黒(杯)	
512	131	(68)	11		畝13・14	土(食)、須(杯・凸帯付壺)、黒	
513	60	48	23	土258		須(杯)、黒	
514	39	32	21		土465	土(甕)、須(杯)、黒(杯)、ob	土466・498と新旧不明
515	53	50	26	土123	畝19・20	黒	
516	26	25	21		畝12		
517	22	17	20	土251			
518	55	20	16			縄？	
519	41	33	34		土141	土(食)	
520	21	18	10				
521	51	42	43		土78、畝12	土(甕)	
522	49	40	37		土182	土(食・甕)、黒(杯)	建1
523	31	25	32	土480			
524	24	22	28		畝20		
525	27	21	33		畝20	土(甕)	
526	24	22	21	土267			
527	44	43	41			土(甕)	
528	26	22	24			土	
529	42	28	29	土535	畝20	土	
530	22	20	4		畝27		
531	22	20	20				
532	37	29	16		畝28		
533	35	34	10				
534	45	27	14		畝27		
535	47	29	49		土529、畝20	土(甕)、内耳	柱痕
536	25	18	14	土19			土537との新旧不明
537	(34)	29	11				土536との新旧不明
538	17	15	7				
539	28	21	4			土 or 黒(椀)	
540	25	20	16				
541	50	31	25		畝10	土(甕)、黒	
542	21	21	17		畝11		
543	63	32	16		畝11	土(甕)、黒	
544	85	(63)	31		畝7	縄？、土(甕)、黒(杯・椀)	
545	29	28	17			黒(杯)	
546	25	25	11				
547	25	22	13				
548	45	(28)	11		畝11	土、須(杯)	
549	33	(26)	25				
550	(147)	(86)	10		2住	土(甕)、須(杯・蓋)、黒(杯)	土師器焼成坑
551	17	−	17				北側調査区南壁
552	23	−	5				北側調査区南壁
553	58	−	14				北側調査区南壁
554	22	−	13				北側調査区南壁
555	93	−	17				北側調査区南壁
556	50	−	73				北側調査区東壁　量水器設置坑

第3節　遺物

1　土器・陶磁器（第17～22図、第2表）

今回の調査では遺物収納用テンバコ（336×545×200㎜）22箱分の土器・陶磁器が出土している。年代的には縄文時代から近現代にわたっている。このうち近現代の耕作遺構（畝間）から出土した陶磁器については本節では扱わない。実測は口縁部・底部の遺存度が良いものを対象とし、稀少器種については小破片であっても極力図化した。総計188点を図示しているが、奈良・平安時代が主体を占めており、その他に古墳時代・中世のものが若干ある。

(1) 縄文時代の土器

検出面、古代の遺構覆土から縄文土器の破片が少量出土しているだけで、図示できるものはない。いずれも器面の磨耗が著しく紋様・調整等が不明なものが多い。

(2) 古墳時代の土器

土500から土師器の高杯(143)が1点出土している。2段成形の深い杯部に円錐状の脚部が付くもので、脚端部はわずかに外反する。古墳時代中期に属するものである。

(3) 奈良・平安時代の土器

（ア）種別・器種

土師器　食器は杯A・椀・蓋・耳皿・高坏・盤A、煮炊具に甕B・小型甕D・甑A・甑C・円筒形土器、貯蔵具に須恵器甕の形態をもつ99・184がある。

黒色土器A　すべて食器で杯A・椀・皿B・鉢A・蓋がある。これらは外面がロクロナデ、内面が見込みから胴部を放射状・口縁部を横方向にミガキを施した後に黒色処理したものが大半である。なお、皿には一般的な体部が直線状の皿Bのほかに、口縁部が波状に整形された皿がある。後者は市内では下神遺跡ＳＢ97や三の宮遺跡ＳＢ147などの大型住居址からの出土例があるが、本遺跡からは5点が出土している。

黒色土器B　耳皿が1点(31)出土しているだけである。

須恵器　食器に杯A・杯B・杯蓋B・皿・高杯・鉢A、貯蔵具に甕A・甕D・甕E・長頸壺A・短頸壺・平瓶(把手部分)がある。

軟質須恵器　杯Aが少量出土している。

灰釉陶器　土74・土253・土467から食器の細片、7住から貯蔵具の破片が出土しているだけで図示できるものはない。

（イ）土器群

1住出土土器群（1～42）　42点を図示。住居の東側からまとまって出土しており、特に南東隅からカマド南側にかけて完形品が多い。食器は土師器の杯・盤A、黒色土器Aの蓋・杯・椀・皿B・鉢A、黒色土器B耳皿、須恵器杯A、煮炊具は土師器の甕B・小形甕D、貯蔵具は須恵器の甕Aがある。食器の器種は多様であるが、特に黒色土器Aの占める比率が高い。1は黒色土器A皿Bに酷似しているが、高台の脚部をもたないこと、口縁端部が僅かに外反していることから蓋とした。黒色土器A杯は口径13～15.5cmと18～19cmの2法量に、皿Bは器高が2.7～3.1cmと3.5～4.1cmの2法量に分かれる。なお、30は口縁部が歪んでいた。土師器盤Aは長方透かし(4単位)をもつ34と十字透かしの33がある。煮炊具・貯蔵具は図化できるものが少ない。

土器群の時期は黒色土器A皿Bと須恵器杯A(16)が共伴すること、内面がロクロナデの土師器杯(2)が存在することから7～8期と推定される。

2住出土土器群（43～49）　カマド周辺を中心に出土しているが、図示できるものは7点と少ない。食器は土師器の蓋・杯、黒色土器Aの杯・椀、煮炊具は土師器の甕B、貯蔵具は須恵器の甕・長頸壺がある。

43は土師器蓋で口縁端部が折り曲げられており、須恵器杯蓋Bを模倣したものである。48は土師器甕Bで外面に施されたハケ目が底部周辺ではナデ消されている。49は杯形のミニチュア土器である。

土器群の時期は土師器・黒色土器Aの杯が共伴すること、土師器甕Bの特徴から8期と推定される。

6住出土土器群（50～88）　39点を図示。住居の西側、特にカマド内部とその周辺、P2からまとまって出土している。食器は土師器の杯、黒色土器Aの杯・鉢A、須恵器の杯A・杯B、軟質須恵器杯、煮炊具は土師器の甕B・小型甕D・甑C、貯蔵具は須恵器甕Aがある。50～53は土師器杯としたが、内面にヘラ磨きが観察されることから黒色処理が脱色したか不黒色化の黒色土器Aの可能性がある。黒色土器Aは椀が認められず、杯のみである。杯は口径11.6～18.5cmと幅があるが、大小2法量に分かれることなく、中間的な法量のものも存在する。須恵器杯Bは1点(74)だけだが、カマド内から完形品が出土している。土師器甕Bの83は胴部から底部付近にかけて粘土が薄く付着していた。87は土師器甑でハケ目が施された外面の胴部最大径の位置に鍔状の凸帯が巡らされている。近接する宮の上遺跡の7住（『松本市宮の上遺跡Ⅱ・原畑遺跡』松本市教育委員会　1994　図版22掲載）では全形を復原できるものが出土しており、底部には円盤状のタガが伴っていることから甑Cとした。88は小型甕Dのミニチュア土器である。

土器群の時期は、黒色土器Aが主体を占めるが杯のみで椀・皿類が無いことから6期の様相が強いが、須恵器杯類と軟質須恵器杯が共伴していることから6～7期と推定される。

7住出土土器群（89～100）　12点を図示。カマド周辺と床面から出土しているが、破片が多く遺存度はよくない。食器は黒色土器Aの蓋・杯・椀・皿B、須恵器の皿、煮炊具は土師器の甕B・小型甕D・甑、貯蔵具は須恵器の短頸壺、灰釉陶器の壺がある。この他に図示してないが不整形で薄い被熱粘土が出土している。

89は黒色土器Aの蓋で、扁平なつまみが付く天井部の破片である。なお、近接する原畑遺跡の4住からもつまみをもつ黒色土器A蓋が出土している(前掲書　図版28掲載)。96は黒色土器Aで口縁部を波状に整形した皿である。97は須恵器の皿で、杯Bに似た底部から直線的に伸びる体部を有し、口縁端部は杯蓋Bのようにわずかに屈曲させている。黒色土器A皿Bに類似の須恵器皿Bとは異なり、寡聞にして類例をみない器形である。99は形態的には貯蔵具の須恵器甕であるが、軟質で器面が褐～淡褐色を呈している。土師器としたが酸化焔焼成の須恵器の可能性もある。100は口縁の4cm程下にタガ状の凸体が巡らされた甑である。

土器群は須恵器の食器も存在するが、黒色土器Aが食器の大半を占めていること、黒色土器A皿Bや灰釉陶器が存在することから7期と推定される。

9住出土土器群（101～123）　23点を図示。住居の西側、特にカマド内部とその周辺からまとまって出土している。食器は土師器の杯・椀、黒色土器Aの杯・椀・皿B、煮炊具は土師器の甕B・小型甕D・甑C、貯蔵具は須恵器の甕がある。

101は口径10.2cmの小型の土師器杯であるが、底径が7.0cmと大きいこと、器壁が厚く内外面を竹管状の工具でナデ調整がされており異質である。煮炊具は甕Bが多く10点を図示している。甕Bは口径19.2～22.4cm、底径8.6～10.2cm、器高29.9～31.6cmの間にあり、口縁部のヨコナデが頸部下まで及ぶことによりハケ目の上端が消されているものが多い。123は円盤状のタガが付く甑Cの底部である。

土器群の時期は、黒色土器Aが食器の大半を占めること、土師器椀・黒色土器A皿Bの存在、土師器甕Bの特徴から7期と推定される。

2層出土土器群（153～155）　3点を図示。北側調査区東壁の2層中からまとまって土器が出土している。155は土師器盤Aの円形透かしをもつ脚台部である。153・154はほぼ同じ法量の黒色土器A皿Bで、隣接して出土したものである。2層は住居址の覆土の可能性があるもので、土器群の時期は8期と推定される。

3層出土土器群（156～182）　27点を図示。北側調査区の南東で、現代の耕作土直下に堆積する洪水性の礫を多量に含む暗褐色土層から出土した土器群である。食器は土師器の高坏、須恵器の杯A・杯B・杯蓋B・

高坏・鉢A、黒色土器A杯・皿B、煮炊具は土師器の甕B・小型甕D、貯蔵具に須恵器の甕E・長頸壺・短頸壺がある。また、図示していないが須恵器杯Aが付着した窯底の破片が1点出土している（写真図版7）。

172～174は黒色土器A皿で、3層出土土器群の中では最も新しい。このうち173・174は口縁部を波状に整形した皿である。食器は須恵器の杯A・杯Bが多く、黒色土器A杯は少ない。須恵器杯Bは器形全体を復元できるものは無いが、杯BⅢ(167・168)があり法量分化がみられる。171は小型の須恵器杯Bに把手が付くもので、安曇野市上ノ山窯跡群(上ノ山01・05地区)で出土例はあるが松本平での出土は非常に珍しい。杯蓋Bも全形を復元できるものは無いが、156は天井部外面にヘラ記号(「×」？)がみられる。177は須恵器高坏の脚部で3単位の長方透かしが配されるもので、178は同一個体の可能性がある。182は須恵器長頸壺の肩部に付く把手である。

3層の主体となる土器群は、食器に占める須恵器の比率が高いこと、須恵器杯Bの法量分化がみられることから4～5期と推定される。なお、土器群と共に鉄製品が出土していること、土器の表面及び破面に移動による摩耗がみられないことから、本土器群は今回調査区付近に存在した竪穴住居に伴う土器群の可能性が高い。このほかに7～8期に属する黒色土器A皿Bがあるが、これらは3層に混在した土器と考えられる。

土141出土土器群（127・128）　土師器焼成坑の土器群で土師器の甕B・小型甕D、黒色土器A杯がある。すべて破片であり、特に土師器甕類が多い。図示可能なものは黒色土器A杯の2点のみである。127は内面が淡褐色を呈しており、不黒色化の黒色土器Aと考えられる。また、焼成時の破損品と考えられる土器の剥片・細片が出土している(写真図版8)。これらは土器が層状に薄く剥離していること、土器の破面や剥離面の色調が表面（内外面）と同じ色調を呈するものがあること、別遺構から出土した同器種と比較して硬質化しているなど、2次的な被熱を受けたとみられる特徴がある。他に須恵器壺の口縁部1点が出土しているが混入品と考えられる。土器群の時期は9世紀代と推定される。

土384出土土器群（132・133）　土師器焼成坑の土器群で土師器の甕B・黒色土器A杯がある。焼成時破損品と考えられる剥片状の土師器甕B、不黒色化の黒色土器A杯の破片(132)が出土している(写真図版8)。本址は1住に切られることから、9世紀後半(7～8期)以前と推定される。

土408出土土器群（135～140）　6点を図示。食器は黒色土器A杯、煮炊具は小型甕Dがある。136・137は口径18cm前後の大法量の黒色土器A杯である。140は不整な楕円形を呈する有孔の円盤状土製品で、厚さ4㎜の薄い器面には指頭圧痕が観察される。

土471出土土器群（141・142）　底面が被熱した土坑で、土師器甕Bが主体であるが図示できるものはない。141は口縁を波状に整形した黒色土器A皿である。142は土師器の円筒形土器で口縁部付近に段を有するもので、胴部の最上部は横方向、それ以下は縦方向のハケ目が施されている。土器群は7～8期と推定される。

土550出土土器群（148～152）　土師器焼成坑の土器群で、土師器の甕B、黒色土器A杯があり、特に後者が多い。148～151は黒色土器A杯で大小の2法量がみられる。焼成時破損品と考えられる剥片状の土器片が出土している(写真図版8)。本址は2住に切られることから、9世紀末(8期)以前と推定される。

その他の土器　129は土156出土の体部が歪んだ須恵器杯Bで、器面全体に黒点状の物質が付着している。特殊な土器に土3出土の口縁を波状に整形した黒色土器A皿(124)、遺構検出面出土の土師器の蓋(183)・須恵器模倣の甕(184)がある。187は甑Aの把手と考えられるものである。

(3) 中世の土器・磁器

青磁碗1点と内耳鍋が少量出土しており、2点を図示した。130は土184出土の龍泉窯系の青磁碗で、体部外面に鎬蓮弁文がみられ、13世紀～14世紀前半に比定される。134は土394出土の内耳鍋で全形を復元できるものである。口辺部に横方向の工具ナデによる凹状調整痕が2周巡るもので、15世紀後半～16世紀初頭に比定される。

第２表　土器・磁器観察表

凡例　「種別」欄　土師：土師器、黒Ａ：黒色土器Ａ、黒Ｂ：黒色土器Ｂ、須恵：須恵器
軟質須恵：軟質須恵器、（黒Ａ）：黒色処理が脱色または不黒色化の黒色土器Ａ
「残存度」欄　上段：口縁、下段：底部　「器面調整」・「色調」欄　上段：外面、下段：内面
「出土地点（注記）」欄　Ｎ：北、Ｓ：南、Ｅ：東、Ｗ：西、Ｔ：トレンチ

No.	出土	種別	器種	寸法（cm）			残存度	器面調整	色調	実測番号	出土地点（注記）
				口径	底径	器高					
1	1住	黒Ａ	蓋	12.7	ツマミ部 5.1	2.3	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り→ナデ	褐色	1住-27	No.365
							－	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
2	1住	土師	杯Ａ	(14.6)	(7.7)	4.1	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐色	1住-13	No.272・274
							1/3	ヨコナデ、ロクロナデ	褐色		
3	1住	黒Ａ	杯Ａ	(13.4)	(7.0)	3.7	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-36	No.89・159
							1/4	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
4	1住	黒Ａ	杯Ａ	12.9	6.1	4.0	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-31	No.19
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
5	1住	黒Ａ	杯Ａ	13.5	6.0	4.3	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-18	No.248
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
6	1住	黒Ａ	杯Ａ	(15.5)	(6.3)	5.2	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～褐色	1住-33	No.258、NW
							1/3	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
7	1住	黒Ａ	杯Ａ	(12.8)	(5.1)	4.7	1/5	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-17	No.363
							2/3	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
8	1住	黒Ａ	杯Ａ	(14.3)	(5.2)	5.2	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り？	黒～褐色	1住-19	No.7
							1/2	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
9	1住	黒Ａ	杯Ａ	(17.9)	(6.6)	6.6	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-35	No.174・182・188・236 SE、NE、ベルト
							1/2	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
10	1住	黒Ａ	杯Ａ	(19.4)	(7.5)	(7.3)	1/3	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐色	1住-9	No.7・161・186・229・413
							ほぼ完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
11	1住	黒Ａ	杯Ａ		(7.8)			ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～褐色	1住-34	No.119・178・196、NE
							1/2	ミガキ→黒色処理	黒色		
12	1住	黒Ａ	杯Ａ	(10.1)	6.0	4.5	1/6	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐色	1住-16	No.88・179・228
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
13	1住	黒Ａ	杯Ａ	14.1	6.8	5.7	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～褐色	1住-29	No.155
							ほぼ完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
14	1住	黒Ａ	杯Ａ	(14.1)	6.4	5.2	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～褐色	1住-30	No.82・83・227・242 SE、ベルト
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
15	1住	黒Ａ	杯Ａ	15.1	6.7	4.7	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-32	No.223
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
16	1住	須恵	杯Ａ	13.0	5.7	3.9	ほぼ完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～灰色	1住-28	No.175・237・245 NE、ベルト
							完	ヨコナデ、ロクロナデ	淡褐～灰色		
17	1住	黒Ａ	椀	(12.8)	6.7	4.2	1/3	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～褐色	1住-42	No.138
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
18	1住	黒Ａ	椀	15.6	7.2	5.1	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-26	No.208・222
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
19	1住	黒Ａ	椀	15.1	7.0	5.3	1/3	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	1住-8	No.187・247・251・253
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
20	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	12.5	(6.5)	2.7	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-21	No.194
							1/8	ミガキ→黒色処理	黒色		
21	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	(12.8)	(6.1)	2.9	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-22	No.191・192・249、NE
							1/2	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
22	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	(12.7)	(5.7)	2.7	1/5	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐色	1住-39	No.77
							ほぼ完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
23	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	14.0	6.7	2.8	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～褐色	1住-37	No.291
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
24	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	(14.0)	(6.6)	3.1	1/3	ヨコナデ、ロクロナデ	暗褐～褐色	1住-25	No.140・153
							1/4	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
25	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	(14.1)	7.2	3.7	1/3	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～褐色	1住-24	No.262
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
26	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	14.2	7.2	3.5	7/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	黒～褐色	1住-23	No.230・239～241 NE、ベルト
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
27	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	13.7	6.1	4.1	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐色	1住-20	No.122
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
28	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	15.4			完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～褐色	1住-40	No.123
							高台欠	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
29	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	(15.4)	(7.2)	4.1	1/6	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐色	1住-10	No.249・374
							ほぼ完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
30	1住	黒Ａ	Ⅲ Ｂ	14.6	6.5	2.9	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～褐色	1住-38	No.150
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
31	1住	黒Ｂ	耳皿	9.3	5.1	2.6	ほぼ完	ミガキ→黒色処理、回転糸切り	黒色	1住-41	No.75
							完	ミガキ→黒色処理	黒色		
32	1住	（黒Ａ）	鉢Ａ	(26.9)			1/4	ヨコナデ、ロクロナデ	褐色	1住-15	No.156・260・270・273
								ミガキ→黒色処理	黒～褐色		
33	1住	土師	盤Ａ					ロクロナデ、十字透し（８単位？）	褐色	1住-12	No.131
								ロクロナデ	褐色		
34	1住	土師	盤Ａ		18.0			ロクロナデ、ヨコナデ、長方透し（４単位）	褐色	1住-14	No.120
							完	ロクロナデ	黒～褐色		
35	1住	土師	小型甕Ｄ	(7.6)	(4.3)	(7.4)	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ→カキ目、回転糸切り	褐色	1住-2	No.405・406
							1/4	ヨコナデ、カキ目、ロクロナデ	褐色		
36	1住	土師	小型甕Ｄ		(5.8)			ロクロナデ→カキ目	褐～暗褐色	1住-6	No.225、NW
							1/2	ロクロナデ	褐～暗褐色		
37	1住	土師	小型甕Ｄ	(14.3)			一部	ヨコナデ、ロクロナデ→カキ目	褐色	1住-4	No.290
								ヨコナデ、カキ目、ロクロナデ	褐～暗茶褐色		
38	1住	土師	小型甕Ｄ		5.9			ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～灰褐色	1住-1	No.137
							完	ロクロナデ	褐～灰褐色		

No.	出土	種別	器種	寸法（cm）			残存度	器面調整	色調	実測番号	出土地点（注記）
				口径	底径	器高					
39	1住	土師	甕B	(18.0)			1/8	ヨコナデ、ロクロナデ、ハケ目	褐色	1住-3	No.212
								ヨコナデ、カキ目、ロクロナデ	褐色		
40	1住	土師	甕B		(9.4)			ナデ→ハケ目	褐色	1住-5	No.172、NE、SE
							ほぼ完	工具ナデ	淡褐色		
41	1住	土師	甕B		(8.1)			ナデ→ハケ目、(底)ナデ	褐色	1住-7	No.257・267・290 SE
							1/2	工具ナデ	茶褐色		
42	1住	須恵	甕A	(56.7)			1/4	ヨコナデ、ロクロナデ	暗灰色	1住-11	No.76
								ヨコナデ、ロクロナデ	灰色		
43	2住	土師	蓋B	(13.2)			一部	ロクロナデ、ヨコナデ	褐色	2住-6	NE
								ロクロナデ、ヨコナデ	褐色		
44	2住	土師	杯A	12.3	5.2	3.2	9/10	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～淡褐色	2住-1	No.201・202
							完	ヨコナデ、ロクロナデ	褐～淡褐色		
45	2住	黒A	杯A	13.7	5.3	4.2	ほぼ完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐色	2住-2	No.103・104
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
46	2住	黒A	杯A		(7.6)			ロクロナデ、回転糸切り、(底)煤付着	褐色	2住-3	No.115
							1/8	ミガキ→黒色処理	黒色		
47	2住	土師	甕B		(11.2)			ハケ目、ナデ	褐～暗褐色	2住-4	No.113・218・219
							一部	指ナデ	淡褐～暗褐色		
48	2住	土師	甕B		(9.0)			ハケ目、工具ナデ、(底)ナデ	褐～暗褐色	2住-5	No.101・108
							1/2	工具ナデ、ナデ （輪積み痕）	褐～暗褐色		
49	2住	土師	ミニチュア(杯)	(3.6)	(2.3)	1.7	1/8	ヨコナデ、ナデ、(底)ナデ	淡褐～暗褐色	2住-7	NE
							2/3	ヨコナデ、ナデ	淡褐～暗褐色		
50	6住	土師	杯A	(13.2)	(7.0)	3.4	1/5	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐色	6住-21	No.577、カマド
							1/4	ヨコナデ、ミガキ	褐色		
51	6住	土師	杯A	(17.2)	(7.0)	6.2	1/6	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-18	No.479・483、P 2
							3/4	ヨコナデ、ミガキ(摩滅)	褐～淡褐色		
52	6住	土師	杯A	(13.0)	(5.9)	3.9	1/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り、ヘラ記号？	褐色	6住-19	No.566・572
							2/3	ヨコナデ、ミガキ(摩滅)	褐～暗褐色		
53	6住	土師	杯A		5.6			ロクロナデ、回転糸切り、ヘラ記号	褐色	6住-20	No.505
							ほぼ完	ミガキ(摩滅)	褐～暗褐色		
54	6住	黒A	杯A	(11.6)	5.6	3.6	1/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～暗褐色	6住-13	NE 床面、中央ベルト
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
55	6住	黒A	杯A	(12.2)	(5.8)	3.8	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-12	No.481
							2/3	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
56	6住	黒A	杯A	(12.4)	(5.8)	3.4	1/3	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-9	No.336
							1/2	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
57	6住	黒A	杯A	(13.7)	6.4	3.7	1/10	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐色	6住-6	No.517・518
							ほぼ完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
58	6住	黒A	杯A	(13.3)	(6.0)	(3.9)	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐色	6住-14	No.520
							ほぼ完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
59	6住	黒A	杯A	(13.0)	6.2	3.5	1/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～暗褐色	6住-8	No.334
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
60	6住	黒A	杯A	(13.6)	(6.8)	3.7	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-11	No.335・625
							1/2	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
61	6住	黒A	杯A	12.8	6.6	4.1	ほぼ完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-1	No.345
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
62	6住	黒A	杯A	(13.5)	5.9	3.7	7/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-7	No.515
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
63	6住	黒A	杯A	(14.1)	(6.4)	3.8	3/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-5	No.476・477
							5/6	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
64	6住	(黒A)	杯A	(15.0)	(7.6)	4.3	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-17	No.621
							1/2	ヨコナデ、ミガキ(摩滅)	褐～暗褐色		
65	6住	黒A	杯A	15.4	6.0	4.4	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-4	No.511
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
66	6住	黒A	杯A	(16.3)	(7.4)	4.1	1/6	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り→ナデ	褐～暗褐色	6住-2	No.331
							1/3	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
67	6住	黒A	杯A	(15.6)	6.7	4.5	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～暗褐色	6住-3	No.330・516
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
68	6住	黒A	杯A	(18.5)	(6.5)	5.3	一部	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-10	No.296
							2/5	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
69	6住	黒A	杯A	(17.8)	(6.9)	5.2	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	6住-15	No.481・482・514
							1/2	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
70	6住	須恵	杯A	12.8	(5.8)	3.0	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	灰色	6住-35	No.337・488、SW
							1/4	ヨコナデ、ロクロナデ	灰色		
71	6住	軟質須恵	杯A	(13.4)	(6.2)	3.3	1/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡灰褐色	6住-39	No.322
							1/2	ヨコナデ、ロクロナデ	淡灰褐色		
72	6住	須恵	杯A	(13.2)	(6.6)	4.0	1/10	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	灰～暗灰色	6住-36	No.321
							ほぼ完	ヨコナデ、ロクロナデ	灰色		
73	6住	須恵	杯A	(14.5)	6.5	3.6	5/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡灰～灰色	6住-38	6住一括
							完	ヨコナデ、ロクロナデ	淡灰～灰色		
74	6住	須恵	杯B	14.4	8.9	6.5	完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転ヘラ削り→ナデ	灰～暗灰褐色	6住-37	No.563
							完	ヨコナデ、ロクロナデ	灰色		
75	6住	(黒A)	鉢A	(22.0)			1/5	ヨコナデ、ロクロナデ	褐～暗褐色	6住-22	一括(覆土) 畝43-44間
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	褐～暗褐色		
76	6住	(黒A)	鉢A	(26.2)			1/4	ヨコナデ、ロクロナデ	褐～暗褐色	6住-16	一括(覆土)
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	褐～黒色		
77	6住	土師	小型甕D	(9.5)			1/5	ヨコナデ、カキ目	褐～暗褐色	6住-23	畝43-44間
								ヨコナデ、カキ目、ロクロナデ	淡褐～暗褐色		
78	6住	土師	甕B	(21.0)			1/6	ヨコナデ、ハケ目	褐色	6住-24	No.599・605
								ヨコナデ、カキ目、工具ナデ	褐色		

No.	出土	種別	器種	寸法（cm）			残存度	器面調整	色調	実測番号	出土地点（注記）
				口径	底径	器高					
79	6住	土師	甕B					ナデ、ハケ目	褐～暗褐色	6住-25	No.473
								カキ目、工具ナデ	褐～暗褐色		
80	6住	土師	甕B	(20.8)			1/3	ヨコナデ、ハケ目	褐色	6住-26	No.569
								ヨコナデ、カキ目、ハケ目、工具ナデ	褐色		
81	6住	土師	甕B		8.6			ハケ目、(底)ナデ	褐色	6住-28	No.329・570、カマド南
							完	工具ナデ、指ナデ	褐～暗褐色		
82	6住	土師	甕B		(8.0)			ハケ目、(底)ナデ	褐～暗褐色	6住-27	一括(覆土)
							1/2	工具ナデ、指ナデ	褐色		
83	6住	土師	甕B	22.9	9.2	33.9	3/4	ヨコナデ、工具ナデ、ハケ目(粘土付着)、ナデ	淡褐～暗褐色	6住-31	No.313・564・565・567 P6、カマド
							4/5	ヨコナデ、カキ目、工具ナデ、指ナデ	淡褐～暗褐色		
84	6住	土師	甕B		(8.4)			ハケ目、(底)ナデ	淡褐～暗褐色	6住-32	No.316・317・588・598 カマド、畝46
							一部	工具ナデ	暗褐色		
85	6住	土師	甕B	(22.4)			1/8	ヨコナデ、ハケ目	褐～暗褐色	6住-33	No.329・573・575・600・607、カマド、SW
								ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	暗褐色		
86	6住	土師	甕B	(20.0)	(7.0)	(31.0)	1/5	ヨコナデ、ハケ目、(底)ナデ	褐～淡褐色	6住-29	No.304・305・521・523 NW 他
							1/6	ヨコナデ、カキ目、工具ナデ	褐色		
87	6住	土師	甑C	(28.4)			3/8	ヨコナデ、ハケ目、凸帯、工具ナデ	暗褐色	6住-34	No.314・315・318・320・344・473・578・579・629
								ヨコナデ、工具ナデ	暗褐色		
88	6住	土師	ミニチュア(小型甕D)	(7.2)	(4.6)	(5.5)	一部	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～淡褐色	6住-30	No.609、SE
							3/4	ヨコナデ、ロクロナデ	褐～暗褐色		
89	7住	黒A	蓋		ツマミ部1.9			つまみ貼付、ナデ、回転ヘラ削り	淡褐色	7住-7	畝37-38間
							—	ミガキ→黒色処理	黒色		
90	7住	(黒A)	蓋	(13.6)			1/4	ヨコナデ、ミガキ	褐色	7住-10	P2、畝40-41間
							—	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒褐色		
91	7住	黒A	杯A	(13.6)	5.6	4.0	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～黒色	7住-4	No.349
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
92	7住	(黒A)	杯A	(13.6)			1/2	ヨコナデ、ロクロナデ	褐～暗褐色	7住-1	No.358 畝39-40間
								ヨコナデ、ロクロナデ？	褐～暗褐色		
93	7住	黒A	杯A	12.6			1/2	ヨコナデ、ロクロナデ	褐～黒色	7住-2	No.353
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
94	7住	(黒A)	皿B	(12.4)			1/3	ヨコナデ、ロクロナデ	淡褐～暗褐色	7住-3	P9
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒褐色		
95	7住	黒A	椀		6.0			ロクロナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	7住-5	No.221
							完	ミガキ→黒色処理	黒色		
96	7住	黒A	皿(波状)	(15.0)			一部	ヨコナデ、ロクロナデ	褐色	7住-6	SE
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
97	7住	須恵	皿	(23.6)	(11.6)	4.8	一部	ヨコナデ、ロクロナデ、回転ヘラ削り	灰色	7住-11	No.356 T5(畝37-38間)
							1/4	ヨコナデ、ロクロナデ	灰～暗灰色		
98	7住	土師	小型甕D	(15.0)	7.6	16.0	1/4	ヨコナデ、カキ目、回転糸切り	褐～暗褐色	7住-12	No.351
							完	ヨコナデ、カキ目、ロクロナデ	褐～暗褐色		
99	7住	土師	甕(須恵)	(14.9)			一部	ヨコナデ、ロクロナデ	褐色	7住-9	T5(畝38-39間)
								ヨコナデ、ロクロナデ	淡褐色		
100	7住	土師	甑	(26.3)			一部	ヨコナデ、ロクロナデ、凸帯	暗褐色	7住-8	畝40-41間
								ヨコナデ、ロクロナデ	暗褐色		
101	9住	土師	杯	(10.2)	7.0	4.2	1/4	ヨコナデ、工具ナデ、回転糸切り	褐～暗褐色	9住-14	No.429・431・433
							3/4	ヨコナデ、ヘラ削り、工具ナデ	褐～暗褐色		
102	9住	(黒A)	杯A	(13.6)	(6.4)	3.8	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～淡褐色	9住-16	No.378・398・428・431 畝48-49間
							2/3	ヨコナデ、ミガキ	暗褐～淡褐色		
103	9住	黒A	杯A	(11.6)	(6.0)	3.4	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～黒色	9住-20	No.392
							1/3	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
104	9住	黒A	杯A	(13.4)	(6.6)	3.7	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～黒色	9住-19	ベルト
							1/3	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
105	9住	黒A	杯A	(14.6)	(6.4)	4.7	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗橙褐～黒色	9住-18	No.442
							1/4	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
106	9住	土師	椀		(10.0)			(底)ナデ	褐～暗褐色	9住-17	ベルト
							一部	ロクロナデ	褐色		
107	9住	黒A	椀		(7.2)			ロクロナデ、回転糸切り	暗橙褐色	9住-23	畝45-46間
							ほぼ完	ミガキ→黒色処理	黒色		
108	9住	黒A	皿B	13.8	6.4	3.0	ほぼ完	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐色	9住-21	No.404
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
109	9住	黒A	皿B	(13.4)	5.8	3.1	一部	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗橙褐～黒色	9住-22	畝45-46間 畝46-47間
							3/4	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
110	9住	土師	小型甕D	(12.4)			1/5	ヨコナデ、カキ目(摩滅)	橙褐～暗褐色	9住-12	カマド、T5(畝48-49間) 畝48
								ヨコナデ、ロクロナデ	橙褐～暗褐色		
111	9住	土師	小型甕D		6.4			カキ目、回転糸切り	橙褐～暗褐色	9住-13	No.437・700
							完	ロクロナデ	橙褐～暗褐色		
112	9住	土師	小型甕D	(15.4)			1/5	ヨコナデ、カキ目(摩滅)	褐～暗褐色	9住-11	No.444、W床面、E
								ヨコナデ、ロクロナデ	褐～暗褐色		
113	9住	土師	甕B	(20.0)			1/6	ヨコナデ、ハケ目	褐～暗褐色	9住-10	No.453・455、W床面 中央ベルト、畝47-48間
								ヨコナデ、カキ目、工具ナデ、指ナデ	暗褐色		
114	9住	土師	甕B	(20.4)			1/5	ヨコナデ、ハケ目	橙褐～暗褐色	9住-6	No.380・434・437
								ヨコナデ、カキ目、工具ナデ、指ナデ	橙褐～暗褐色		
115	9住	土師	甕B	(22.4)	(10.2)	31.6	1/3	ヨコナデ、ハケ目、(底)ナデ	褐～暗褐色	9住-1	No.396・397・415・456 畝47-48間
							1/3	ヨコナデ、カキ目、指ナデ、工具ナデ	褐～暗褐色		
116	9住	土師	甕B	(21.0)	10.0	29.9	1/3	ヨコナデ、ハケ目、(底)ナデ	褐～暗褐色	9住-2	No.697・698、NE 他
							完	ヨコナデ、カキ目、指ナデ、工具ナデ	褐～暗褐色		
117	9住	土師	甕B	(19.2)			一部	ヨコナデ、工具ナデ、ハケ目	暗褐色	9住-7	No.378
								ヨコナデ、カキ目、工具ナデ、指ナデ	暗褐色		
118	9住	土師	甕B	(22.4)	(8.6)	30.2	1/3	ヨコナデ、ハケ目、(底)ナデ	褐～暗褐色	9住-5	No.386・395・421・425・449
							一部	ヨコナデ、カキ目、工具ナデ、指ナデ	褐～暗褐色		

No.	出土	種別	器種	寸法（cm）			残存度	器面調整	色調	実測番号	出土地点（注記）
				口径	底径	器高					
119	9住	土師	甕B	(20.4)			1/4	ヨコナデ、ハケ目	褐～暗褐色	9住-4	No.457、ベルト、畝47
								ヨコナデ、カキ目、工具ナデ	褐～暗褐色		
120	9住	土師	甕B		(9.4)			ハケ目、(底)ナデ	暗褐色	9住-8	No.376・377・379・384・387・427・432・436・438
							1/3	カキ目、工具ナデ、指ナデ	暗褐色		
121	9住	土師	甕B		(9.6)			ヨコナデ、ハケ目、(底)ナデ	暗褐色	9住-9	No.417・430・433・434・705、NW 他
							2/3	カキ目、指ナデ、工具ナデ	暗褐色		
122	9住	土師	甕B	(22.4)			1/6	ヨコナデ、ハケ目	褐～暗褐色	9住-3	No.391・403・418・419 畝48-49間、畝48
								ヨコナデ、カキ目、指ナデ	褐～暗褐色		
123	9住	土師	甑C		(18.2)			ハケ目、工具ナデ、(底)工具ナデ	暗褐色	9住-15	No.661
							1/6	工具ナデ	暗褐色		
124	土3	黒A	皿(波状)	(12.9)			1/8	ヨコナデ、ロクロナデ	褐色	土3-1	一括(覆土)
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
125	土19	土師	小型甕D		5.2			カキ目、(底)工具ナデ	暗褐色	土19-1	No.26
							完	ロクロナデ	褐色		
126	土87	黒A	杯A	(13.7)	5.8	4.3	1/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～黒色	土87-1	No.708
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
127	土141	(黒A)	杯A	(13.2)	(6.8)	4.6	5/12	ロクロナデ	淡褐～黒色	土141-1	No.530～532
							5/12	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	淡褐～黒色		
128	土141	黒A	杯A	(17.4)			1/8	ロクロナデ	褐～黒色	土141-2	No.547・549
								ミガキ→黒色処理	黒色		
129	土156	須恵	杯B	15.3	8.6	6.1	7/12	ヨコナデ、ロクロナデ、回転ヘラ削り	灰～暗灰色	土156-1	No.662
							7/8	ヨコナデ、ロクロナデ	灰色		
130	土184	青磁	碗					鎬蓮弁文、施釉	灰緑色	土184-1	検出面
								ロクロナデ、施釉	灰緑色		
131	土253	須恵	高杯					ロクロナデ	灰色	土253-1	No.752
								ロクロナデ	灰色		
132	土384	(黒A)	杯A		(5.9)			ロクロナデ、回転糸切り	淡暗褐色	土384-1	No.24
							5/12	ミガキ	淡暗褐色		
133	土384	黒A	杯A	(16.0)	(7.6)	5.2	1/6	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡暗褐～黒色	土384-2	No.25
							1/6	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
134	土394	中世土器	内耳鍋	29.1	23.9	17.3	7/8	ロクロナデ、工具ナデ、(底)ナデ	暗褐～褐色	土394-1	No.689
							2/3	ロクロナデ、耳部貼付→ナデ	暗茶褐～褐色		
135	土408	(黒A)	杯A	(12.2)	(6.0)	4.0	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～淡褐色	土408-1	No.667
							1/3	ミガキ	褐～暗褐色		
136	土408	黒A	杯A	(17.6)	7.3	5.5	5/12	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～黒色	土408-3	No.664・672・680 一括(覆土)、畝39
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	暗褐～黒色		
137	土408	黒A	杯A	(18.4)	6.6	5.4	1/3	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～黒色	土408-2	No.663・670 一括(覆土)
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
138	土408	土師	小型甕D	(12.8)	7.7	12.0	1/3	ヨコナデ、カキ目、回転糸切り	淡褐～暗褐色	土408-4	No.669・671・672 一括(覆土)
							完	ヨコナデ、カキ目、ロクロナデ	淡褐～暗褐色		
139	土408	土師	小型甕D	(9.5)			5/12	ヨコナデ、カキ目	暗褐色	土408-5	No.668・673・684
								ヨコナデ、カキ目、ロクロナデ	暗褐色		
140	土408	土製品	?	長6.2	幅5.7	厚0.4		指頭圧痕、有孔	淡褐色	土408-6	一括(覆土)
								指頭圧痕	淡褐色		
141	土471	黒A	皿(波状)	(17.0)			3/16	ヨコナデ、ロクロナデ	暗褐～黒色	土471-2	No.561、覆土
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
142	土471	土師	円筒形土器					ナデ、(横)ハケ目、(縦)ハケ目	暗褐色	土471-1	No.562・652
								工具ナデ	暗褐色		
143	土500	土師	高杯	(19.8)	(16.4)	15.4	1/3	ヨコナデ、ミガキ、指ナデ、ミガキ	褐色	土500-1	No.707
							1/3	(杯)ミガキ、(脚)工具ナデ、ナデ	褐色		
144	土511	黒A	杯A	13.1	6.2	4.0	3/5	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～黒色	土511-1	No.754
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
145	土512	黒A	椀	(16.0)	(7.6)	4.8	3/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐～黒色	土512-2	No.3
							3/8	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
146	土512	黒A	鉢A		9.4			ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～黒色	土512-3	No.3
							2/3	ミガキ→黒色処理	黒色		
147	土512	土師	小型甕D		(6.0)			ロクロナデ、回転糸切り	淡褐～暗褐色	土512-1	No.3
							5/8	ロクロナデ	暗褐色		
148	土550	黒A	杯A	(12.3)	(5.4)	3.2	1/5	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗茶褐～褐色	土550-2	No.715
							1/3	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
149	土550	黒A	杯A	(12.7)	(5.9)	3.2	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗茶褐～褐色	土550-5	No.751
							1/4	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	褐～黒色		
150	土550	黒A	杯A		6.1			ロクロナデ、回転糸切り	茶褐～褐色	土550-3	No.720
							完	ミガキ→黒色処理	黒色		
151	土550	黒A	杯A	(17.6)			1/4	ヨコナデ、ロクロナデ	暗褐～褐色	土550-4	No.719
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
152	土550	土師	甕B	(15.8)			1/12	ヨコナデ、ロクロナデ、ハケ目	褐色	土550-1	No.721、W、T1
								カキ目、工具ナデ、指ナデ	暗茶褐～褐色		
153	2層	黒A	皿B	12.7	6.1	2.3	1/4	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	褐色	2層-2	No.768
							ほぼ完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
154	2層	黒A	皿B	(13.0)	6.4	2.3	1/5	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗茶褐～褐色	2層-3	No.768
							完	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
155	2層	土師	盤A					ロクロナデ、円形透かし	褐色	2層-1	No.766 T1
								ロクロナデ	淡褐～褐色		
156	3層	須恵	杯蓋B	(12.4)			1/6	回転ヘラ削り、ロクロナデ、ヨコナデ、ヘラ記号	灰～暗灰色	3層-22	T17南側
								ロクロナデ、ヨコナデ	灰～暗灰色		
157	3層	須恵	杯蓋B	(15.6)			1/6	回転ヘラ削り、ロクロナデ、ヨコナデ	灰～暗灰色	3層-21	No.778
								ロクロナデ、ヨコナデ	暗灰色		
158	3層	須恵	杯蓋B	(14.0)			1/3	回転ヘラ削り、ロクロナデ、ヨコナデ	暗灰褐色	3層-20	T2北側、T18一括
								ロクロナデ、ヨコナデ	暗灰褐色		

No.	出土	種別	器種	寸法（cm）			残存度	器面調整	色調	実測番号	出土地点（注記）
				口径	底径	器高					
159	3層	黒A	杯A	(11.8)	5.6	3.8	1/10	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐～黒色	3層-6	T1東(Sから5.2m)
							4/5	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		T1東(Sから9.2m)
160	3層	黒A	杯A		6.0			ロクロナデ、回転糸切り	暗褐色	3層-5	T1東(Sから5.2m)
							完	ミガキ→黒色処理	黒色		T1南東
161	3層	須恵	杯A	(12.8)	(6.2)	3.1	1/10	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗灰色	3層-10	No.783
							1/2	ヨコナデ、ロクロナデ	暗灰色		
162	3層	須恵	杯A	12.5	6.8	3.3	1/2	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗灰色	3層-8	T2一括
							完	ヨコナデ、ロクロナデ	暗灰色		
163	3層	須恵	杯A	(13.2)	(6.0)	3.9	1/6	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡暗灰色	3層-13	－
							一部	ヨコナデ、ロクロナデ	淡暗灰色		
164	3層	須恵	杯A	(13.4)	(8.0)	3.8	1/3	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	淡灰～淡灰褐色	3層-12	No.775(T17)
							一部	ヨコナデ、ロクロナデ	淡灰～淡灰褐色		T17一括　他
165	3層	須恵	杯A	(13.6)	(6.0)	3.3	1/8	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	灰～灰褐色	3層-11	T2-T16間
							1/2	ヨコナデ、ロクロナデ	灰色		
166	3層	須恵	杯A	(13.7)	6.6	4.2	1/6	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り、火襷	暗灰～灰褐色	3層-9	No.770(T3)
							完	ヨコナデ、ロクロナデ	暗灰色		
167	3層	須恵	杯B		(11.4)			ロクロナデ、回転ヘラ削り	暗灰色	3層-15	T18一括
							1/4	ロクロナデ	暗灰色		
168	3層	須恵	杯B		(11.0)			ロクロナデ、回転糸切り	暗灰色	3層-14	No.774(T17)
							3/10	ロクロナデ	暗灰色		
169	3層	須恵	杯B		(11.4)			ロクロナデ、回転ヘラ削り	暗灰色	3層-17	No.64
							1/4	ロクロナデ	暗灰色		
170	3層	須恵	杯B		(10.0)			ロクロナデ、回転糸切り	灰色	3層-16	No.782
							1/2	ロクロナデ	灰色		
171	3層	須恵	杯B（把手付）	(9.8)			1/12	ヨコナデ、ロクロナデ、把手貼付	暗灰色	3層-7	T1東(Sから11.3m)
								ヨコナデ、ロクロナデ	暗灰色		
172	3層	黒A	皿B	(13.4)	6.2	2.6	1/6	ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切り	暗褐色	3層-4	T1東(Sから5.2m)
							2/3	ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
173	3層	黒A	皿(波状)	(13.8)			1/6	ヨコナデ、ロクロナデ	橙褐色	3層-2	No.29
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	橙褐～黒色		
174	3層	黒A	皿(波状)	(15.8)			1/8	ヨコナデ、ロクロナデ	暗褐色	3層-3	No.35
								ヨコナデ・ミガキ→黒色処理	黒色		
175	3層	須恵	鉢A	(16.6)			1/7	ヨコナデ、ロクロナデ	暗灰色	3層-23	T2-T16間
								ヨコナデ、ロクロナデ	暗灰色		
176	3層	土師	高杯					ロクロナデ	褐～暗褐色	3層-1	No.785
								ミガキ(摩滅)	暗褐色		
177	3層	須恵	高杯					ロクロナデ、長方透かし(3単位？)	淡灰～暗灰色	3層-18	T1東(Sから5.2m)
								ロクロナデ	淡灰～暗灰色		T17一括　他
178	3層	須恵	高杯		(14.0)			ロクロナデ、ヨコナデ	暗灰色	3層-19	No.762
							1/12	ロクロナデ、ヨコナデ	暗灰色		
179	3層	須恵	甕E	(31.2)			一部	ヨコナデ、タタキ目	淡灰色	3層-26	No.771(T16)、T16一括
								ヨコナデ、工具ナデ	淡灰褐色		T16-T3間
180	3層	須恵	壺		(11.8)			ロクロナデ、回転ヘラ削り、(底)ナデ	暗灰～暗灰褐色	3層-25	No.47・761
							1/3	ロクロナデ、(底)指ナデ	暗灰色		T1
181	3層	須恵	短頸壺		(7.2)			ロクロナデ、回転糸切り	暗灰色	3層-24	No.36、T3
							1/3	ロクロナデ	暗灰色		
182	3層	須恵	長頸壺A					工具ナデ(把手)	暗灰色	3層-27	T1東
								－	－		
183	南区検出面	土師	蓋	(9.9)			1/12	ロクロナデ、ヨコナデ	褐色	検-3	－
								ロクロナデ、ヨコナデ	茶褐色		
184	北区検出面	土師	甕？（須恵）	(17.8)			1/12	ヨコナデ、ロクロナデ	褐色	検-2	－
								ヨコナデ、ロクロナデ	褐色		
185	北区検出面	土師	甕B		(8.6)			ハケ目、(底)ナデ	褐色	検-1	No.22
							1/6	ナデ、(底)指ナデ	褐色		
186	北区検出面	須恵	甕		(11.7)			タタキ目、工具ナデ、(底)ナデ	灰色	検-6	NE
							2/5	あて具痕、ナデ、工具ナデ	灰色		
187	北区検出面	土師	甑A					指ナデ(把手)	褐色	検-5	No.755
								指ナデ	褐色		
188	北区検出面	土師	ミニチュア（？）		2.0			指ナデ	褐色	検-4	No.4
							完	指ナデ	褐色		

2　金属製品（第23図）

金属製品14点(鉄製品12・銅製品２)、銭貨15点が出土している。これらの出土地点・種類・寸法・初鋳年等については一覧表を参照されたい。このうち鉄滓・耕作遺構出土品等を除いた22点を図示している。

鏃（１・２）　４住から２点出土している。１は鏃身と篦被部の一部である。身部はやや下側に最大幅をもつ菱形を呈し、逆刺は無い。２は木質が付着している茎部の一部である。

刀子（３・５）　３は９住からの出土で、木質が部分的に付着した茎部である。上側はわずかに反り、断面は刃部のように下側が薄い。５は３層出土で、両関の棟側は直角、刃側は斜めに切れ込んでいる。身部の棟は直線的だが、刃側は破損により不明である。茎部には木質が付着している。

火打金具（４）　土123から完形品が出土している。基部の両端から裾部を山形に折り曲げて、上方で交差させている。裾の長さは左右で異なるが、いずれも交差部分から先は折り曲げられている。

鉄滓　７住から出土している。最大長10.35cm、重量230.９ｇを測り、木質が付着している椀形滓である。

その他（６・７）　６は南側調査区Ｔ５の畝44－畝45間出土で、９住に近接する。断面が円形の棒状を呈し、紡錘車の軸の可能性がある。７は南側調査区の検出面からの出土で、隅丸長方形を呈する厚さ1.1㎜の板状品で、片面には菊の紋様が打刻されている。

銭貨（８～22）　２基の土坑から14点、北側調査区の検出面から銭種不明の１点が出土している。土123は北宋銭２枚と金銭１枚(正隆元寶)、土323は唐銭１枚(開元通寶)、宋銭７枚、明銭３枚(洪武通寶１・永楽通寶２)で構成される。なお、土323では洪武通寶を除く10枚が重なった状態で銹着していた。

第３表　金属製品一覧表

No.	図No.	出土地点	材質	種　類	寸　法　(㎜)			重量(g)	残存部位	備　　考
					長	幅	厚			
1	1	４住　No.711	鉄	鏃	(58.2)	(29.2)	(11.0)	11.1	鏃身～篦被部	
2	2	４住　北東	鉄	鏃	(28.3)	(5.7)	(5.8)	1.0	茎部の一部	木質部残
3		７住　No.278	鉄	滓	103.5	79.4	40.8	230.9	－	椀形滓　木質付着
4	3	９住　No.259	鉄	刀子	(71.0)	(11.1)	(8.3)	5.8	身部～茎部	木質部残
5		土87	鉄	不明	(21.4)	(8.4)	(7.7)	1.8	一部残（両側欠）	棒状
6	4	土123　No.630	鉄	火打金具	29.8	52.0	7.5	17.4	完形	
7		土508　No.706	鉄	不明	(55.4)	(46.2)	(8.0)	35.8	一部残　２破片	板状
					(67.5)	(20.7)	(10.8)	27.0		板状　端部は肥厚
8		畝６	鉄	釘	(93.0)	(22.6)	12.5	18.6	頭～胴部（両端欠）	角釘
9		畝25	鉄	不明	(38.0)	(15.3)	(6.7)	6.2	一部残（片側欠）	楔状
10		畝25	鉄	不明	(49.5)	(28.5)	(6.3)	8.9	一部残	板状
11		畝40	銅	キセル	(86.5)	(10.6)	－	13.4	吸口（１/４欠）	
12	5	３層礫層　No.779	鉄	刀子	(74.0)	12.9	5.5	5.1	身部～茎部（切先･茎部端欠）	木質部残
13	6	Ｔ５　畝44－45間	鉄	不明	(46.8)	(6.4)	(5.8)	2.6	軸部（両端欠）	棒状　紡錘車の軸？
14	7	南側調査区検出面	銅	不明	30.0	27.7	1.1	3.4	完形	隅丸長方　片面に菊紋

第４表　銭貨一覧表

No.	図No.	出土地点	種　類	国名	初鋳年	寸　法　(㎜)			重量(g)	備　　考
						長	幅	厚		
15	8	土123　No.１	熙寧元寶	北宋	1068	23.7	23.7	1.4	3.2	完形
16	9	土123　No.627	元祐通寶	北宋	1086	24.6	24.7	1.0	2.3	完形
17	10	土123　No.626	正隆元寶	金	1157	24.5	24.5	1.5	2.4	完形
18	11	土323　No.557	開元通寶	唐	621	24.5	24.7	1.2	3.3	完形
19	12	土323　〃	景徳元寶	北宋	1004	24.4	24.2	1.3	3.5	完形
20	13	土323　〃	祥符元寶	北宋	1009	25.0	25.3	1.2	3.4	周縁の一部欠
21	14	土323　〃	天聖元寶	北宋	1023	24.0	23.9	1.1	2.5	方孔－外縁間の一部欠
22	15	土323　〃	景祐元寶	北宋	1034	24.5	24.3	1.2	2.9	完形
23	16	土323　〃	元祐通寶	北宋	1086	(24.6)	24.7	1.4	2.9	周縁の一部欠
24	17	土323　〃	元符通寶	北宋	1098	24.9	24.8	1.4	3.9	周縁の一部欠
25	18	土323　〃	政和通寶	北宋	1111	24.6	24.5	1.3	2.8	完形
26	19	土323　No.６	洪武通寶	明	1368	24.0	24.3	1.6	2.9	完形
27	20	土323　No.557	永楽通寶	明	1408	24.8	24.9	1.4	2.9	完形
28	21	土323　〃	永楽通寶	明	1408	25.2	25.0	1.4	3.8	完形
29	22	北側調査区検出面　No.２	□□□寶	?	?	(23.9)	(23.5)	1.4	2.4	周縁の一部欠

3　石器（第23図）

合計55点の石器が出土している。器種の内訳は、石鏃４点、楔形石器２点、二次加工を有する剥片３点、剥片21点、石核14点、砥石２点、研磨礫１点、つき臼１点、被熱礫片３点、円礫３点、不明１点である。

石材は黒曜石34点、チャート８点、凝灰岩４点、石英３点、砂岩３点、硬砂岩１点、粘板岩１点、低質硬玉質１点である。石英、チャートのうち石核及び二次加工を有する剥片の一部は器面の潰れ痕跡から火打ち石として使用されたと想定できるものもある。なお、火打金具が出土した土123からは玉髄が出土しており、火打石の可能性がある。

以下では８点を図示し、種類別に記載する。

砥石（１・２）　１住(１)、７住(２)から出土。板状砂岩及び硬砂岩礫に礫面以外の平坦面及び内湾する平坦面が観察される。

つき臼（３）　土253から出土。砂岩亜円礫を素材とする。一面中央に敲打痕跡と敲打痕跡のない部分(使用の際についた敲打痕跡を消す使用痕跡か)からなる径約50㎜、深さ約20㎜の凹みが観察される。裏面にも敲打痕跡からなる浅い凹みが観察される。

石鏃（４～７）　凹基無茎の打製石鏃である。

研磨礫（８）　１住出土。低質硬玉質の楕円礫を素材とするもので、ほぼ全面に線状の研磨痕跡が観察される。偏平楕円礫の長い二側縁に強い研磨痕跡が観察される部分があり、部分的に稜線ができ面が形成されている。線状の研磨痕跡は概ね一定方向に並び、断面形は丸みを帯びる研磨面を形成している。断面図の矢印は特に強い研磨痕跡が観察できた範囲を示した。１住からはほぼ同質の礫が１点出土している。

第５表　石器一覧表

No.	器　種	出土地点	石　材	寸　法　(㎜)			重量(g)	備　考
				長	幅	厚		
1	砥石	１住	硬砂岩	150	76	41	621.8	研磨面２面、一部欠損
2	砥石	７住　Ｐ２	砂岩	170	87	34	560.8	研磨面４面
3	つき臼	土253	砂岩	193	123	79	2615	
4	石鏃	６住	チャート	27	16	4	1.2	片脚欠損
5	石鏃	６住　Ｐ１	黒曜石	16	10	3	0.4	先端、両脚欠損
6	石鏃	６住	黒曜石	17	16	3	0.8	
7	石鏃	土坑253	黒曜石	15	16	3	0.7	先端、片脚欠損
8	研磨礫	１住　Ｐ３	低質硬玉質	47	35	20	42.1	

第Ⅳ章　総括

下出口遺跡は女鳥羽川右岸の中位段丘上に立地し、塩辛・岡田町・二反田・下出口・岡田西裏遺跡と5遺跡が途切れることなく連続する遺跡群のひとつである。今回の調査では、古墳時代～近現代の遺構、縄文時代～近現代の遺物を確認することができた。なかでも9世紀後半の平安時代集落と、古墳時代・中世の遺構・遺物は本遺跡を特徴づけるものである。しかし、今回は下出口遺跡の一部を調査したに過ぎず、遺跡の構造・性格を把握することは簡単ではない。そこで本章では、各時代別に本遺跡の特徴的な遺構・遺物を概観した後、周辺遺跡の発掘成果を踏まえて下出口遺跡の歴史的性格について総括する。

1　各時代の特徴

(1) 古墳時代　北側調査区の北西端に位置する土500から中期の高杯が出土している。この遺構は近接する調査区壁の土層観察から竪穴住居址に伴うピットであった可能性が高いものである。

女鳥羽川中位段丘上の土壌は粘土質で非常に堅く、弥生時代においては水稲耕作や竪穴住居の掘削には厳しい環境であったと想像され、実際に弥生時代の遺跡は希薄である。古墳時代前期になると二反田(6軒)・岡田町(4軒)、岡田西裏遺跡で竪穴住居が確認されているが、中期の集落は不明な点が多かった。しかし、2005(平成17)年に今回調査地から南側100mの岡田西裏遺跡第8次調査地点で中期の住居址2軒が見つかっており、岡田西裏～下出口遺跡の一帯に古墳時代中期の集落が存在していたことが判明した。

(2) 平安時代　竪穴住居址6軒、掘立柱建物址2棟、土坑300基以上が見つかっているが、該期を最も特徴づけるものは住居内の粘土貯蔵と土師器焼成坑の存在から想定される土器生産集落の可能性である。

竪穴住居内の粘土貯蔵　1住ではカマドに相対する壁の右隅に総重量246kgの粘土が厚く堆積していた。粘土は住居の壁・床面に接していたことから、屋内に粘土を持ち込んで貯蔵していたと考えられるものである。さらに6住・7住でも粘土が貯蔵されていた痕跡が確認されている。

貯蔵されていた粘土の用途については、カマドの構築材料や土器製作の材料が考えられる。しかし、本遺跡においては1住から土器製作時の器面調整具と考えられる研磨礫が出土していること、後述する土師器焼成坑の存在から、これらの粘土は土器製作の材料であったと考えたい。

なお、3軒の住居はいずれもカマドの反対壁のコーナー付近に粘土が出土しており、粘土の貯蔵には規則性がうかがえる。この理由は、粘土の乾燥を少しでも抑えるためにカマドから遠く、粘土の搬入出が容易となる住居入口付近(1)を貯蔵場所に選択したためと考えられる。

土師器焼成坑　土師器焼成坑3基(土141・土384・土550)が確認されている。いずれも覆土から床面にかけて焼土・炭化物が多くみられるが、被熱により赤橙色化した床面を確認できたのは土550だけである。一般に土師器焼成坑は床面と側壁・奥壁部分が焼けているものが多いが、土141・土384では赤橙色化した床・壁面は確認できなかった。しかし、3基の土坑から出土した土器を観察すると、本来は黒色処理されるはずが黒色化していない杯(土141・土384)や、焼成時に破損したと考えられる剥片状の土器を確認することができたため土師器焼成坑と判断した。

焼成時破損品は土器が層状に薄く剥離していること、土器の破面や剥離面の色調が表面と同じ色調を呈するものがあること、他遺構の同器種と比較して硬質化している特徴があげられる。焼成器種をみると土384・土550では土師器甕B・黒色土器A杯が、土141ではこの2器種に加えて小型甕Dが焼成されていたと考えられる。なお、土384で黒色土器A椀の高台部の破片が出土しているので、椀類も焼成されていた可能性がある。

土器生産集落　上記2項から今回確認された集落は土師器・黒色土器Aの生産に従事していたと考えられよう。これまで土師器焼成坑は安曇野市上ノ山・菖蒲平窯跡群(須恵器窯址)の他に、岡田町・岡田西裏・岡

田宮の前遺跡(集落)から見つかっている。本遺跡で土師器焼成坑が確認されたことにより、岡田町遺跡から岡田西裏遺跡間の広範囲にわたって土師器・黒色土器Aの生産が行われていたことが判明した。

本調査では1住・6住・7住の6～8期の住居で粘土貯蔵が確認されたこと、1住・2住に切られる土師器焼成坑(土384・土550)が存在すること、焼成坑ではすべて黒色土器A杯が生産されていることから、土器生産は9世紀代を通して行われていたと考える。また、3層から杯Aが融着した須恵器窯の底部破片が出土しているので、下出口の人たちは須恵器生産にも関係していた可能性が高いといえよう。

なお、墨書土器が1点も出土していないこと、出土例が稀少な黒色土器A波状皿・蓋、土師器の蓋・貯蔵具等が出土していることも土師器・黒色土器Aの生産に関係することかもしれないので付記しておく。

(3) 中世　銭貨・青磁碗・内耳鍋を伴う中世以降の土坑が確認されている。このうち複数の銭貨が出土した土123・土323は墓址と推定され、後者からは初鋳1408年の永楽通寶が出土している。青磁碗は13世紀～14世紀前半、内耳鍋は15世紀後半～16世紀初頭と推定されるので、本遺跡には室町時代(以降)の遺構が存在していたと考えられる。特に、完形の内耳鍋を埋設した土394の存在から、周辺に該期の集落が存在した可能性は高い。

2　まとめ

下出口遺跡を含む女鳥羽川右岸の中位段丘上の各遺跡は、便宜的に小字単位に命名されたものであるので、塩辛～岡田西裏遺跡全体の時期的変遷や構造の中で本遺跡の性格を考える必要がある。

岡田町～岡田西裏遺跡にかけては古墳時代前期の竪穴住居が散在しているので、この時期には小規模ながらも開発がはじまった。中期になると下出口～岡田西裏遺跡、岡田松岡遺跡に集落が展開する。後期には北側の塩辛遺跡に集落が確認され、奈良・平安時代には塩辛～岡田西裏遺跡全体に集落が拡大している。

奈良・平安時代には田溝池以北の北部古窯址群(須恵器窯址群)に近接していること、焼き歪んだり窯壁が付着した須恵器が出土すること、土師器焼成坑の存在から、須恵器・土師器の窯業生産に関係した集落があったと考えられている。このうち、土師器焼成坑は岡田町2基・岡田宮の前1基と散在しているのに対し、岡田西裏遺跡は40基以上(2)と集中しており、後者が土師器生産の中核集落であったことが判明している。

岡田西裏遺跡に北接する下出口遺跡も住居内の粘土貯蔵や土師器焼成坑の存在から、土師器・黒色土器Aを生産していた集落と考えられる。また、1住以北で住居の分布が疎になることから、今回調査地点は岡田西裏を中心に展開していた土器生産の中核集落の北端域と理解したい。

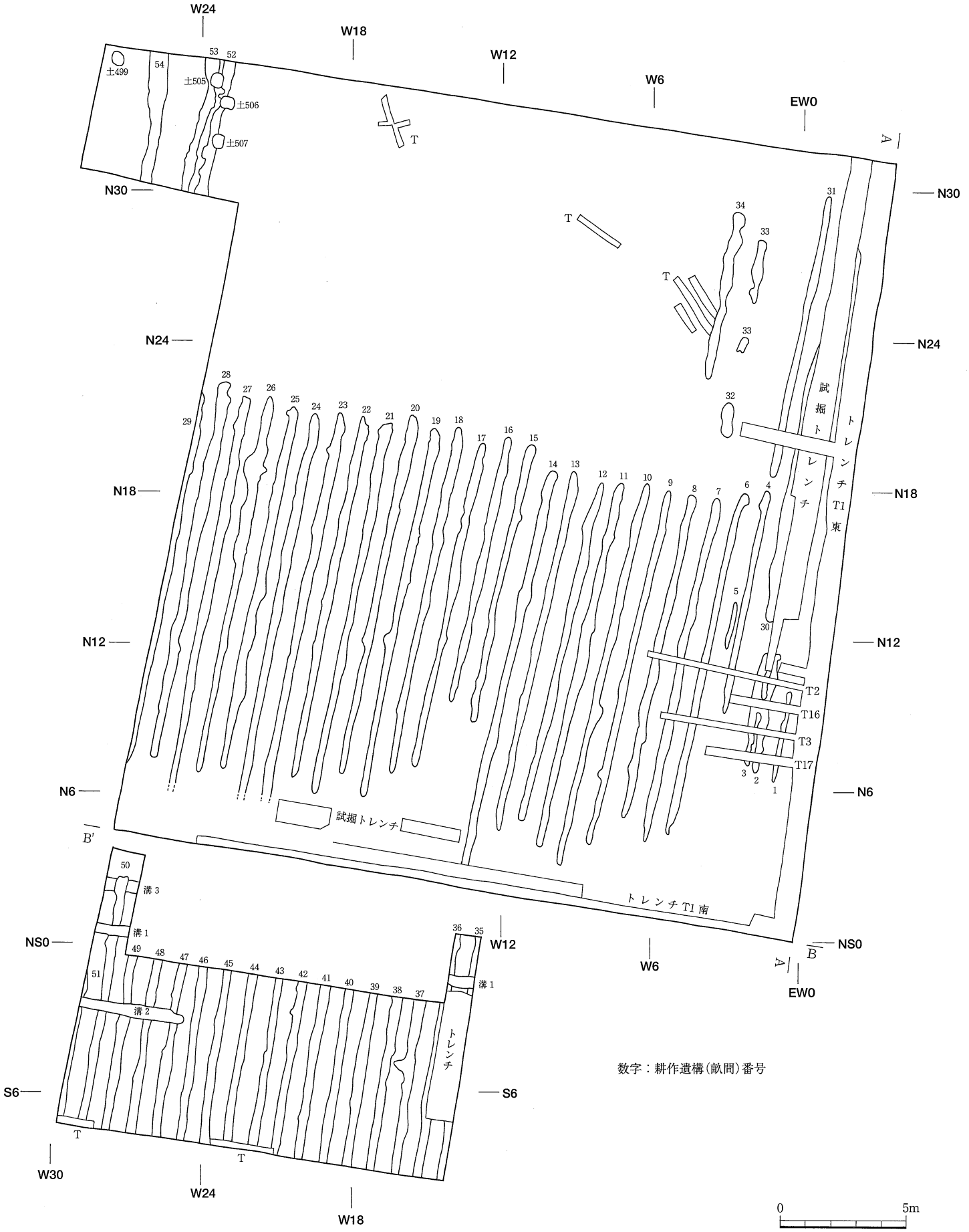
岡田町～岡田西裏遺跡では須恵器杯・黒色土器A杯の生産が衰退する9世紀末に歩調を合わせるようにして集落が突然衰退しており、下出口遺跡も同様であったと推測する。なお、10世紀初頭の延喜5(905)年に醍醐天皇が編纂を命じた『延喜式』神名帳には岡田神社が記載されていることから、9世紀末には「岡田神社」が成立していた可能性があり、岡田地区の歴史を考える上でたいへん興味深い。

平安時代末には、『平家物語』・『源平盛衰記』に治承4(1180)年に以仁王から平家追討の令旨を受けた岡田冠者親義・太郎重義の名前が、『吾妻鏡』には文治2(1186)年に岡田郷の記載がある。岡田氏の居館跡は本遺跡の南西500m、岡田神社の参道南側の「堀ノ内」に想定されている。中世には本遺跡から13～15世紀後半の遺物が出土しているほか、岡田宮の前遺跡で鎌倉～室町時代(14世紀以降)の住居址1軒、岡田町遺跡A区で内耳鍋や唐～明銭を伴う土坑が確認されている程度である。文献では長享2(1488)年の諏訪下社の造営に関連して岡田郷の記載があるが中世以降の岡田郷の実態は不明な点が多く、今後の調査が期待される。

註

(1) 住居の入口は発掘では確認できなかったが、カマドに向かって反対壁または両側壁のいずれかに設置されていたと考える。

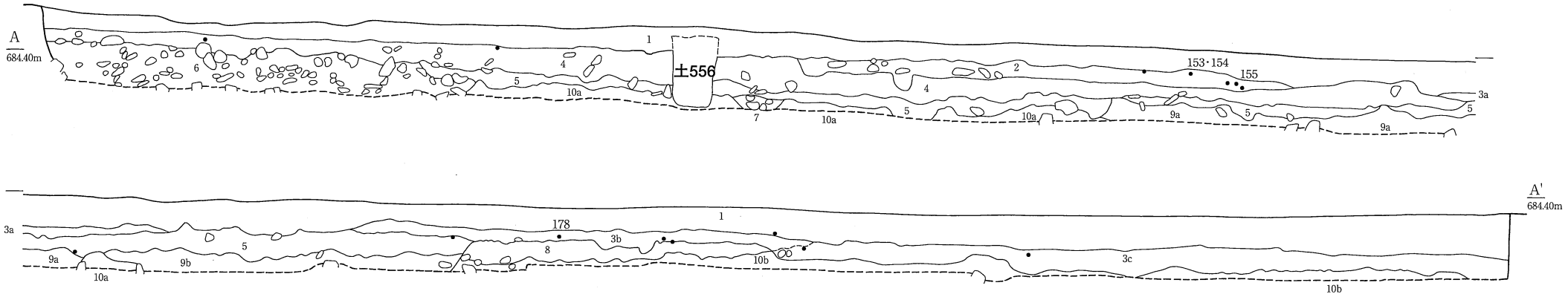
(2) 未報告。ただし、岡田西裏遺跡の土師器焼成坑に言及している論文に以下のものがある。
山田真一「第2章　各地域の土師器生産と土師器焼成遺構 第5節 甲信」『古代の土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会編　1997



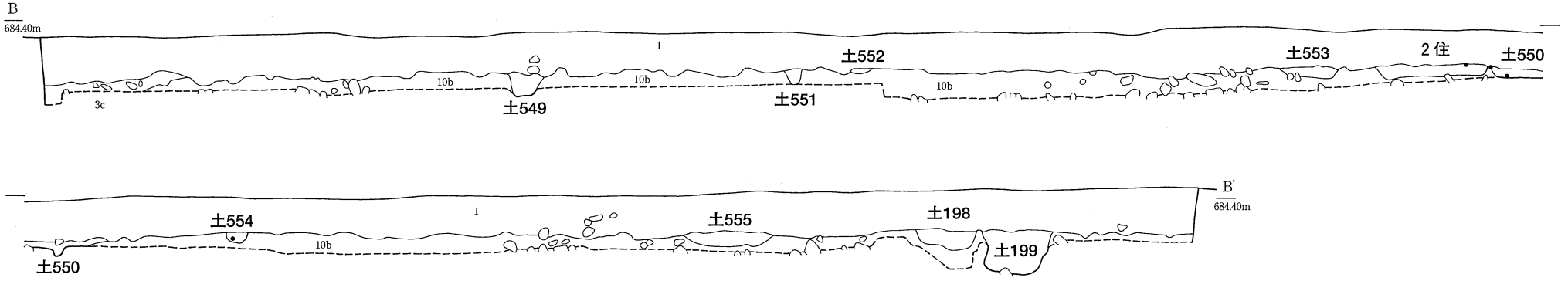
第5図　近現代遺構・トレンチ配置図

第 6 図　古代・中世遺構配置図

北側調査区東壁(T1東)



北側調査区南壁(T1南)



1 ：暗褐色土（10YR 3 /3.5）炭化物・焼土微量混入（耕作土）
2 ：黒褐色土（10YR 2 /2.5）炭化物・焼土微量混入（住居址？）
3 a：暗褐色土（10YR 3 / 3 ）礫・粗砂・シルト　礫多量混入
3 b：暗褐色土（10YR 3 /3.5）粗砂・シルト・細砂
3 c：暗褐色礫土（10YR 3 / 3 ）礫・粗砂・シルト
4 ：黒褐色土（10YR 2 /2.5）シルト・粘土・粗砂　炭化物・焼土微量混入
5 ：暗褐色土（10YR3.5/ 3 ）粗砂・シルト・粘土
6 ：にぶい黄褐色礫土（10YR 4 /3.5）礫・粗砂・シルト
7 ：にぶい黄褐色礫土（10YR 4 /3.5）粗砂・礫・シルト
8 ：黒褐色土（10YR 2 / 3 ）シルト・粗砂・細砂
9 a：暗褐色礫土（10YR3.5/ 4 ）礫・粗砂・シルト
9 b：にぶい黄褐色礫土（10YR 4 /3.5）粗砂・細砂
10a：褐色土（10YR 4 / 4 ）粗砂・細砂・シルト
10b：褐色土（10YR 4 / 4 ）シルト・粘土・粗～細砂

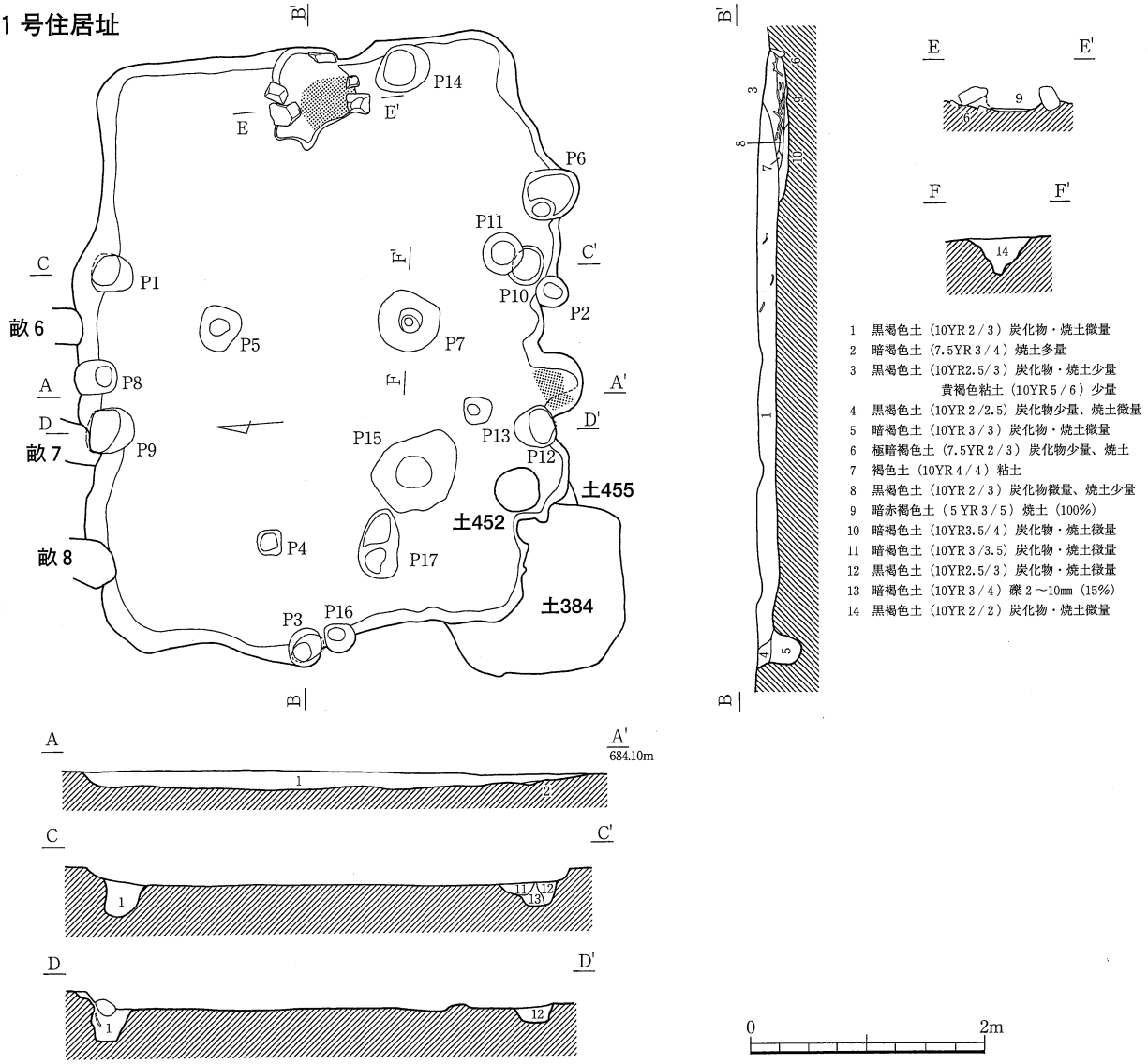
備考1　1・2層及び遺構は、土色（マンセル色記号）と炭化物・焼土等の混入状況を記載した。
　　2　上記以外は、土色（マンセル色記号）と土層を構成する粒径区分を多い順に記載した。

遺構
2住 ：黒褐色土（10YR2.5/ 3 ）炭化物・焼土微量混入
土198：黒褐色土（10YR 2 / 2 ）炭化物少量、焼土微量混入
土199：黒褐色土（10YR 2 / 3 ）炭化物・焼土微量混入　他
土549：黒褐色土（10YR 2 / 3 ）炭化物・焼土微量混入
土550：暗褐色土（10YR 3 / 4 ）炭化物・焼土少量混入
土551：黒褐色土（10YR2.5/ 2 ）炭化物・焼土微量混入
土552：黒褐色土（10YR 2 / 2 ）炭化物・焼土微量混入
土553：黒褐色土（10YR 2 / 3 ）炭化物・焼土微量混入
土554：黒褐色土（10YR 2 / 3 ）炭化物・焼土微量混入
土555：黒褐色土（10YR 2 / 2 ）炭化物・焼土微量混入
土556：黒褐色土（10YR 2 /2.5）ビニール紐混入

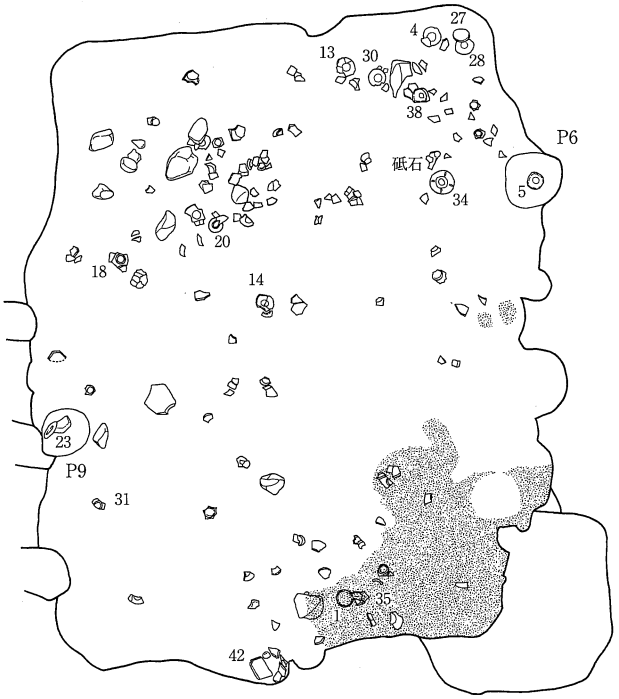
0　3m

第 7 図　調査区土層

第１号住居址



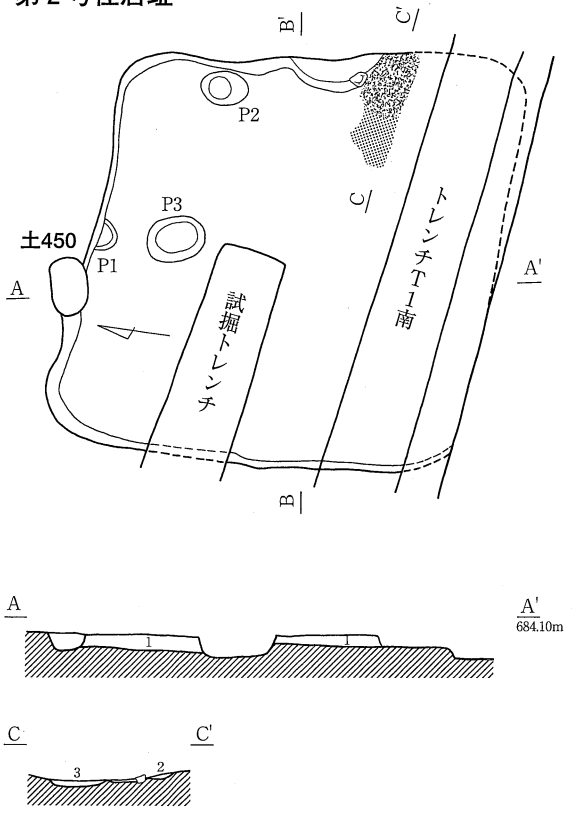
出土状況



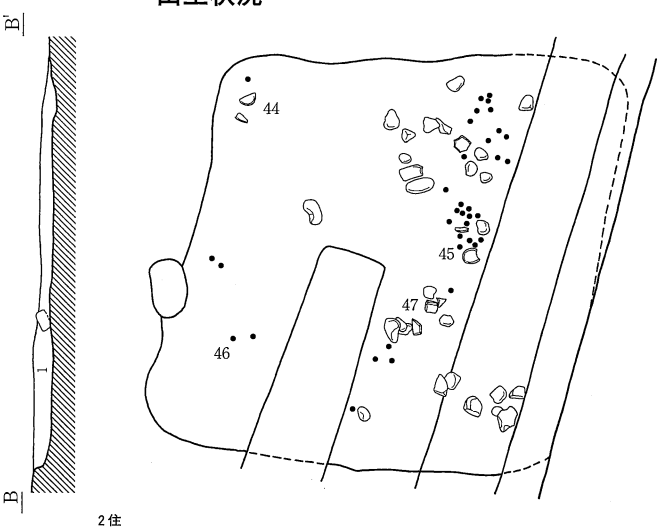
カマド出土状況

第８図　第１号住居址

第２号住居址



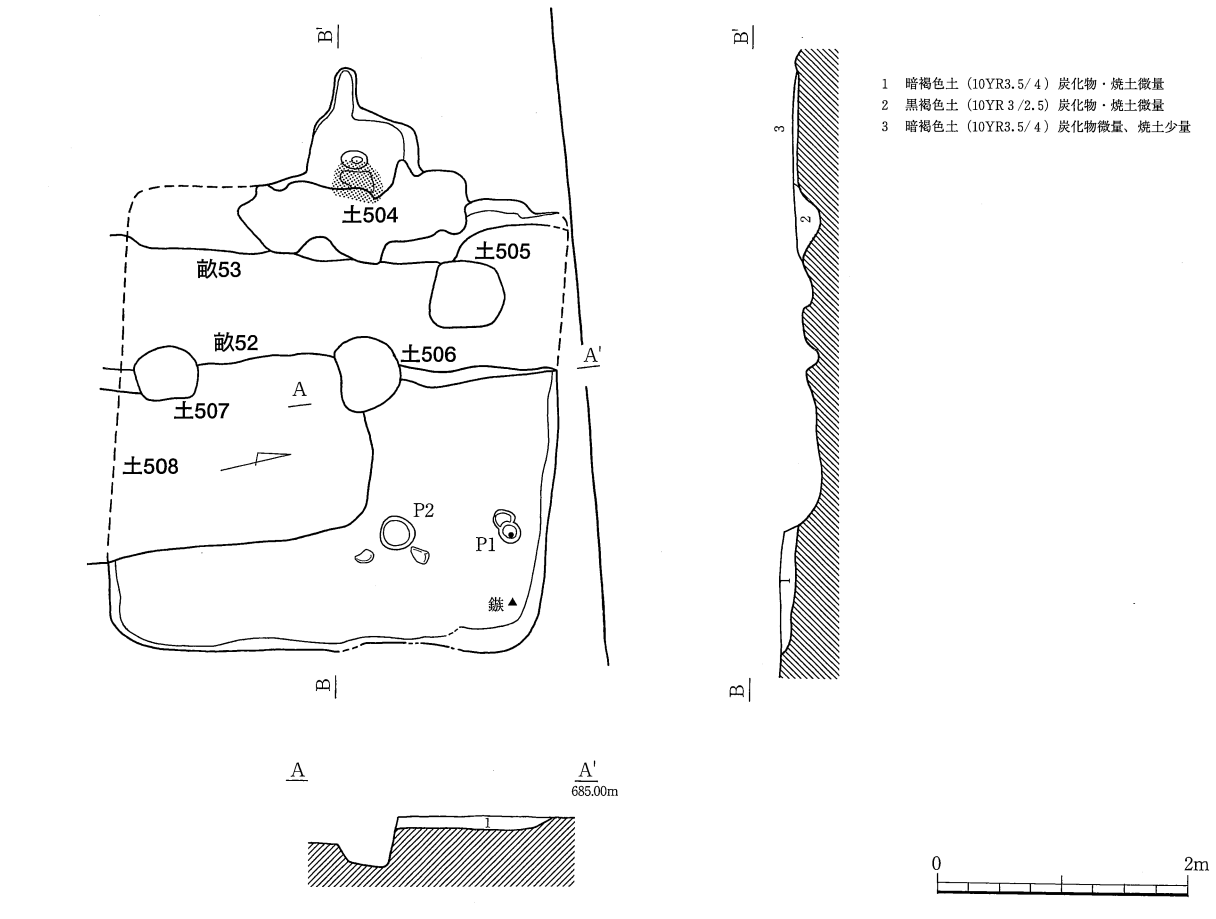
出土状況



2住
1　黒褐色土（10YR2.5/3）炭化物・焼土微量
2　黒褐色土（7.5YR3/2）炭化物多量、焼土少量
3　赤褐色土（5YR4/8）炭化物微量、焼土多量

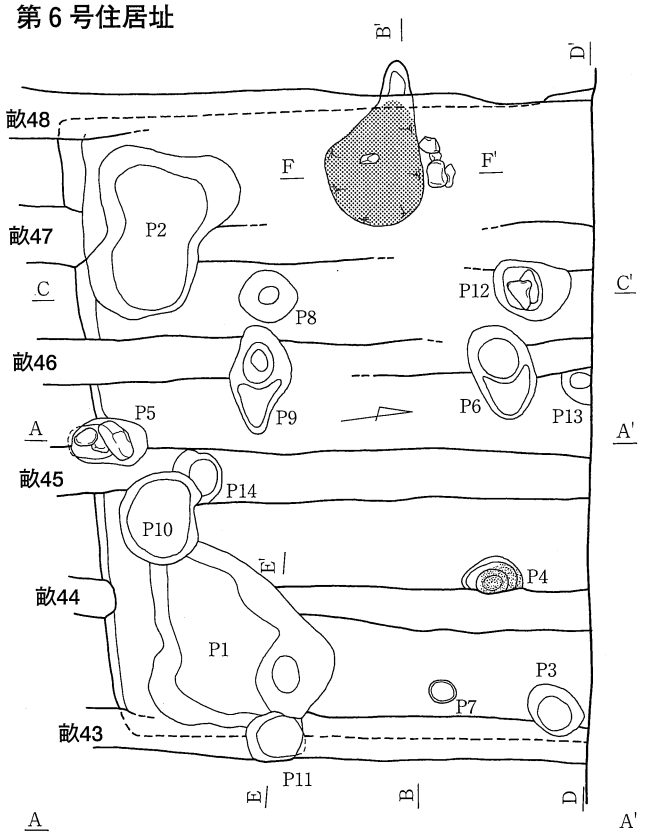
土450
暗褐色土（10YR3/3.5）炭化物・焼土微量

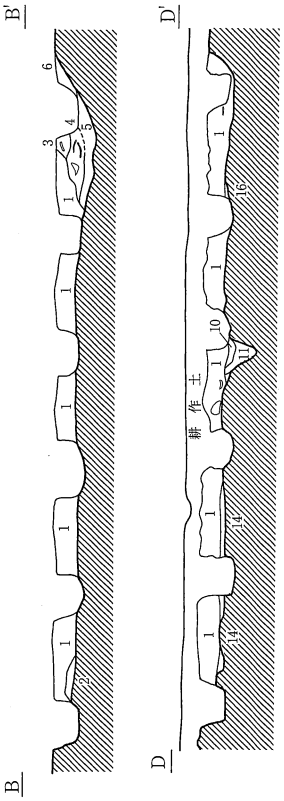
第４号住居址



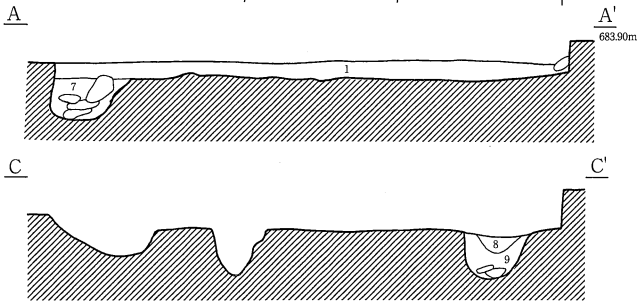
第９図　第２・４号住居址

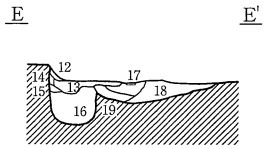
第 6 号住居址

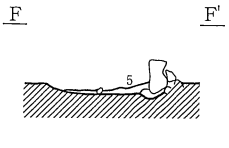




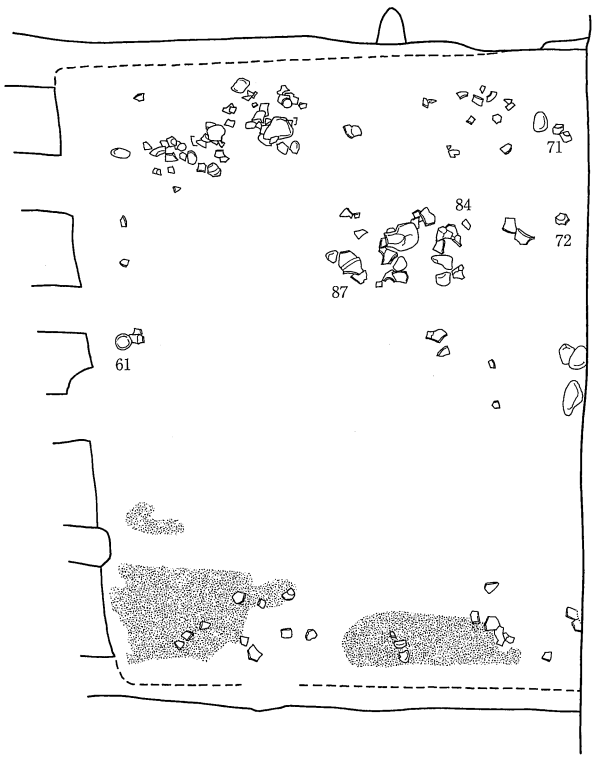
1 黒褐色土（10YR 2 /2.5）炭化物・焼土微量
2 褐色土（10YR4.5/ 4 ）炭化物・焼土微量
3 暗褐色土（10YR 3 / 3 ）炭化物微量
4 黒褐色土（10YR2.5/ 3 ）炭化物少量、焼土微量
5 極暗褐色土（7.5YR 2 / 3 ）炭化物微量、焼土少量
6 暗褐色土（10YR 3 / 4 ）炭化物・焼土微量　カマド煙道部
7 黒褐色土（10YR 2 / 3 ）炭化物微量、焼土少量
8 暗褐色土（10YR 3 / 4 ）炭化物・焼土微量
9 暗褐色土（10YR 3 / 3 ）炭化物・焼土微量
10 暗褐色土（10YR3.5/ 4 ）
11 黒褐色土（10YR 2 /2.5）
12 褐色土（10YR4.5/ 4 ）
13 黒褐色土（10YR 2 / 3 ）炭化物・焼土微量
14 暗褐色土（10YR 3 / 3 ）
15 暗褐色土（10YR 3 / 4 ）
16 褐色土（10YR 4 / 4 ）
17 極暗褐色土（7.5YR 2 / 3 ）炭化物微量、焼土多量
18 黒褐色土（10YR 2 / 3 ）炭化物微量
19 黒褐色土（10YR2.5/ 3 ）炭化物微量、焼土少量



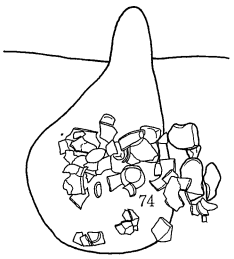




出土状況

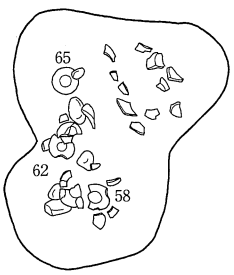


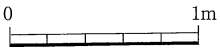
カマド出土状況



P6出土状況

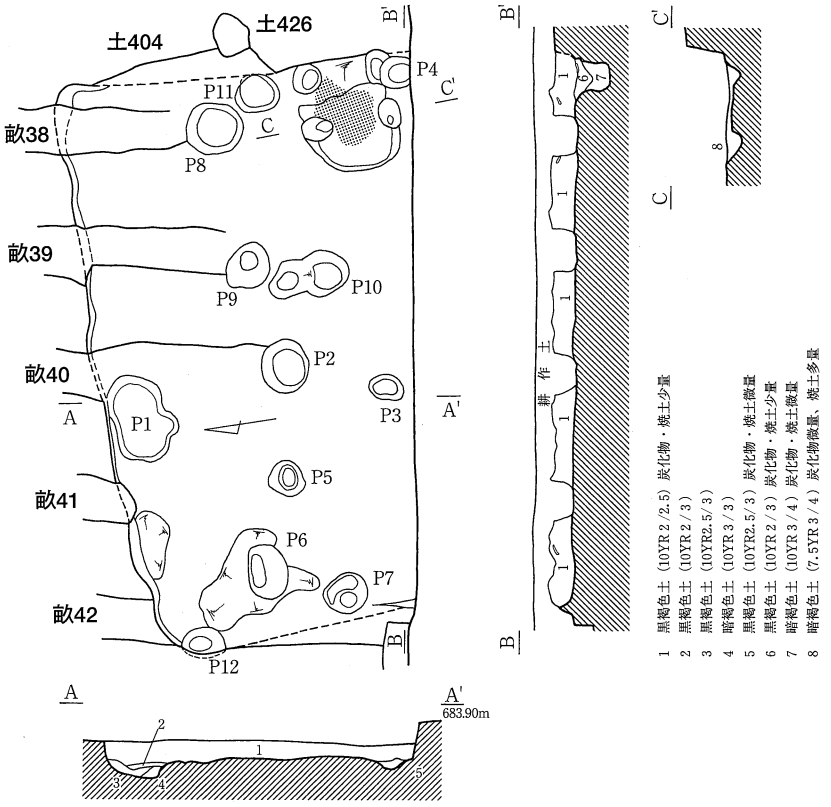
P2出土状況



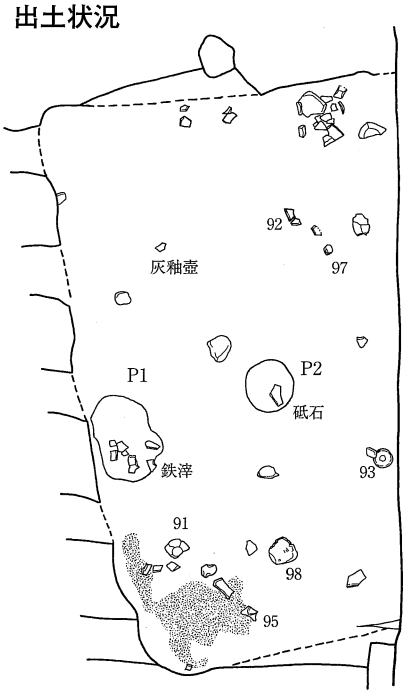


第10図　第 6 号住居址

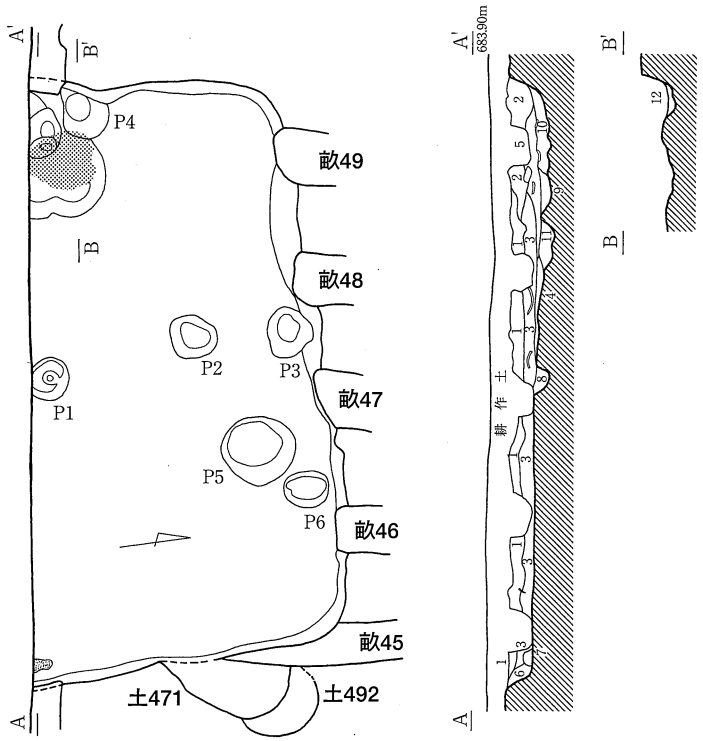
第７号住居址



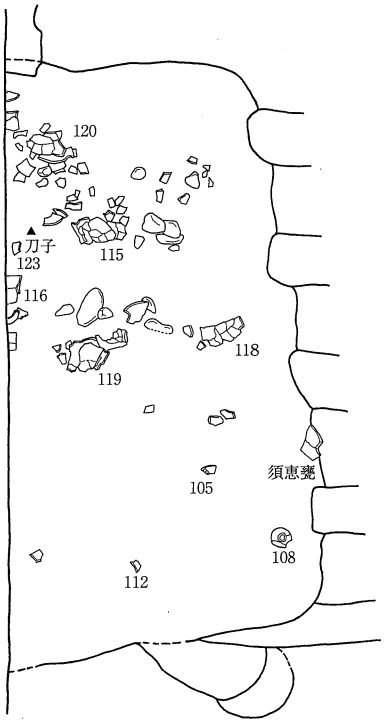
出土状況



第９号住居址



出土状況

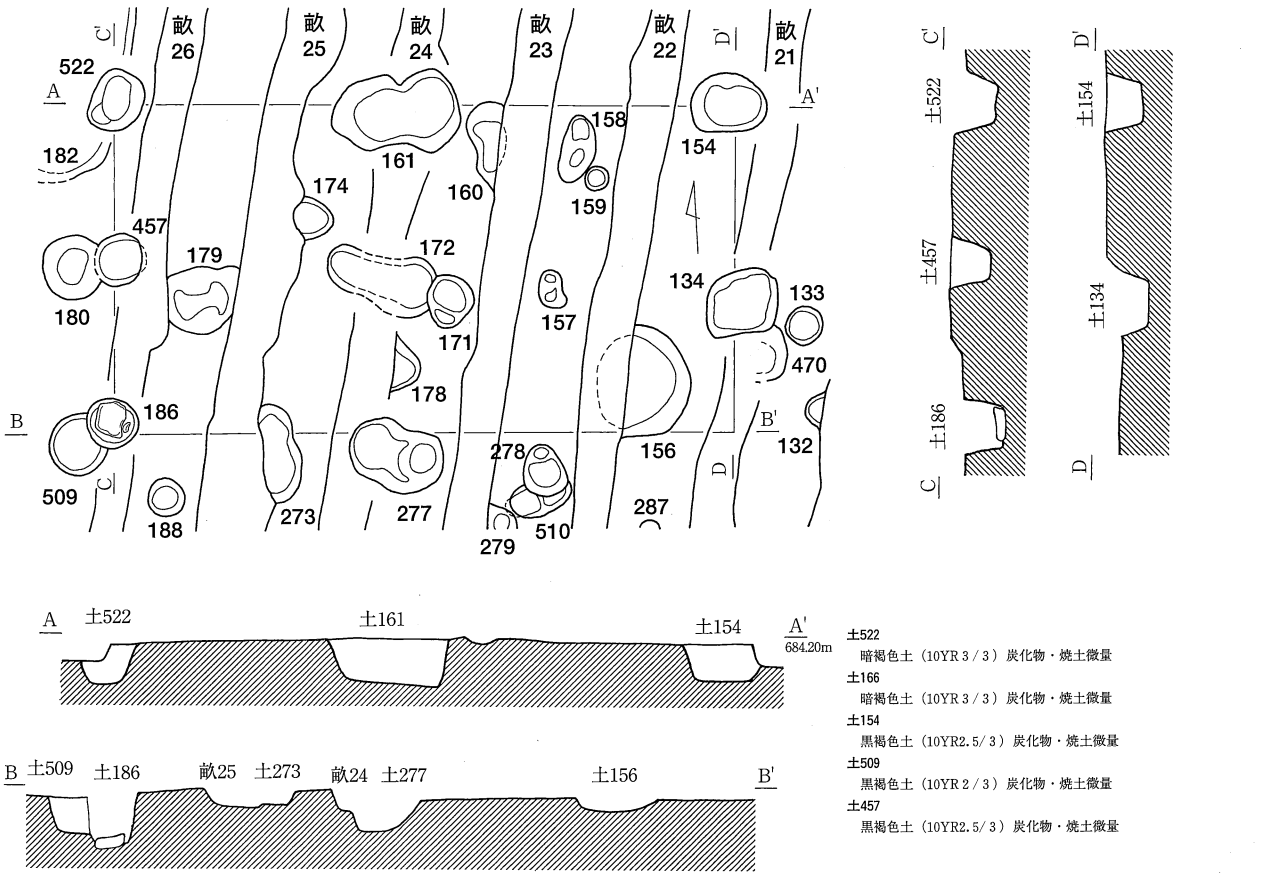


1 黒褐色土（10YR 2/2.5）炭化物・焼土微量
2 黒褐色土（10YR 2/3）炭化物・焼土微量
3 黒色土（10YR 2/1.5）炭化物・焼土微量
4 暗褐色土（10YR 3/3）炭化物・焼土微量
5 黒褐色土（10YR2.5/3）炭化物微量、焼土少量
6 黒褐色土（10YR 2/3）炭化物・焼土微量
7 褐色土（10YR 4/4）粘土ブロック
8 黒褐色土（10YR 2/2）炭化物・焼土微量
9 暗褐色土（10YR 3/4）炭化物・焼土微量
10 極暗褐色土（7.5YR 2/3）炭化物微量、焼土多量
11 黒褐色土（10YR2.5/3.5）炭化物微量、焼土少量
12 黒褐色土（10YR2.5/3.5）炭化物・焼土微量

0 2m

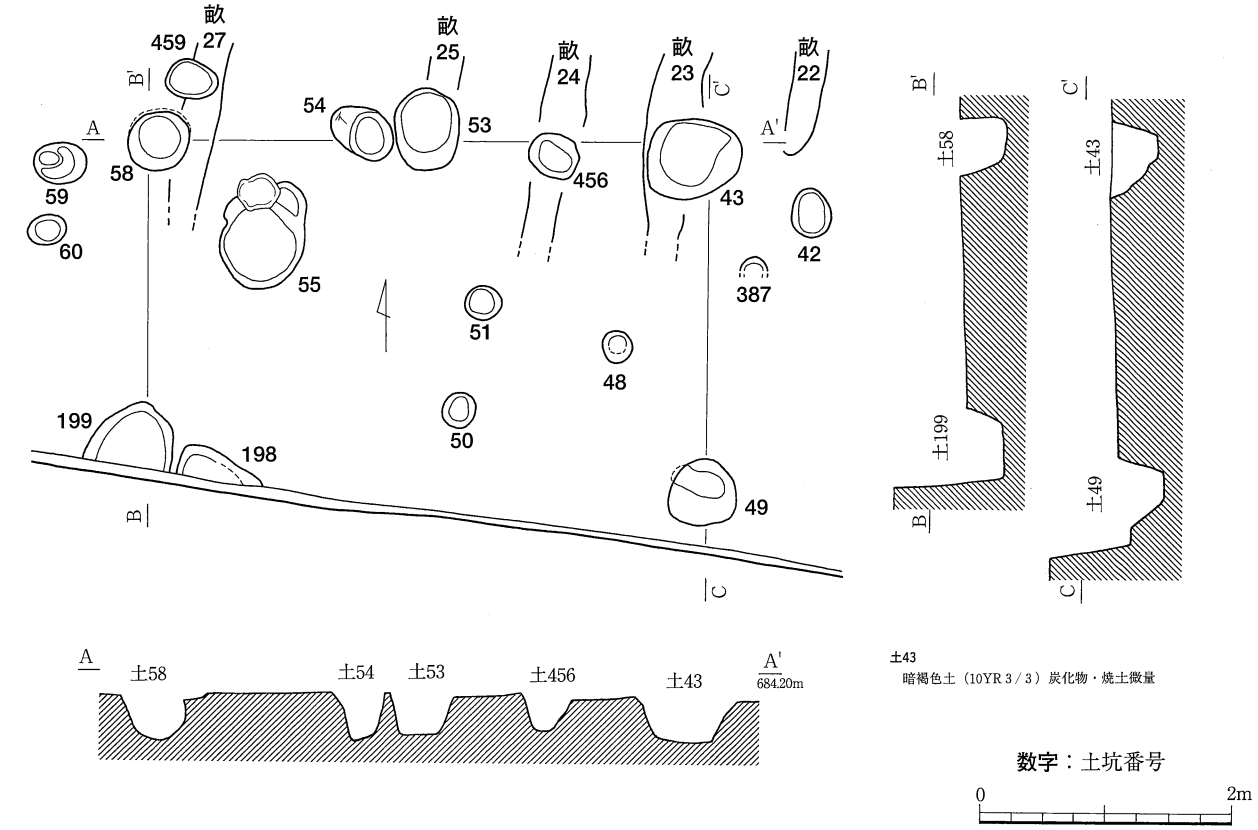
第11図　第７・９号住居址

第１号掘立柱建物址



土522
暗褐色土（10YR３/３）炭化物・焼土微量
土166
暗褐色土（10YR３/３）炭化物・焼土微量
土154
黒褐色土（10YR2.5/３）炭化物・焼土微量
土509
黒褐色土（10YR２/３）炭化物・焼土微量
土457
黒褐色土（10YR2.5/３）炭化物・焼土微量

第２号掘立柱建物址



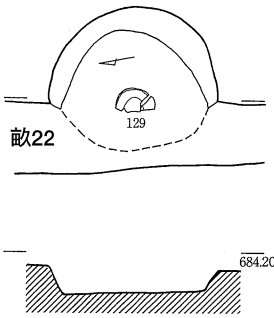
土43
暗褐色土（10YR３/３）炭化物・焼土微量

数字：土坑番号

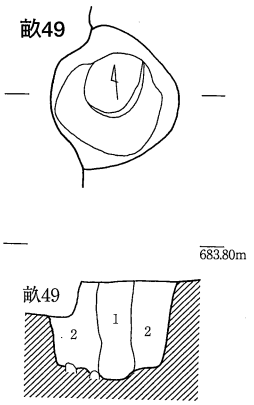
0　2m

第12図　掘立柱建物址

土156

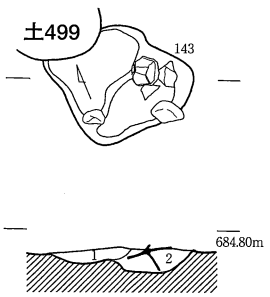


土447



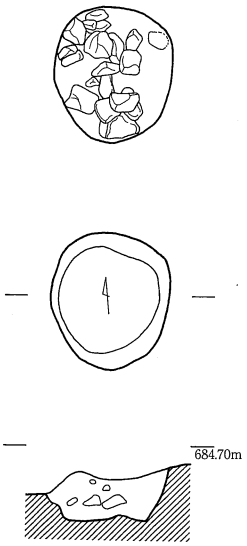
1　黒褐色土（10YR 2 / 2）炭化物・焼土微量
2　黒褐色土（10YR 2 / 3）炭化物微量

土500



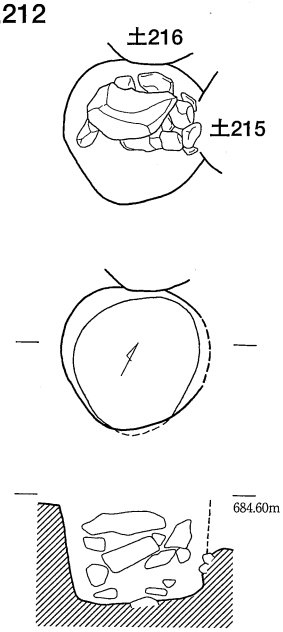
1　黒褐色土（10YR 2 / 3）炭化物・焼土微量
2　黒褐色土（10YR 2 /2.5）炭化物・焼土微量

土503



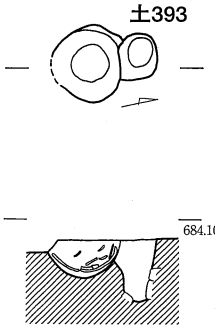
暗褐色土（10YR 3 / 3）炭化物・焼土微量

土212



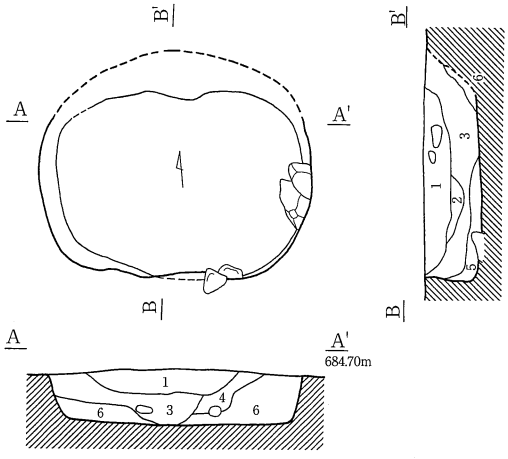
黒褐色土（10YR 2 / 3）炭化物・焼土微量

土394



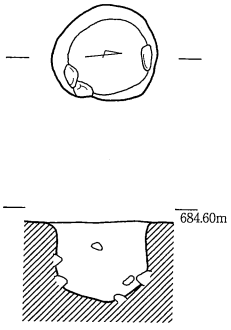
土394
　暗褐色土（10YR3.5/ 3）炭化物・焼土微量
土393
　黒褐色土（10YR 2 / 3）炭化物・焼土微量

土325



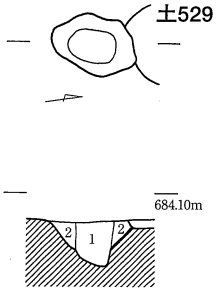
1　黒褐色土（10YR 3 /2.5）
2　黒褐色土（10YR 2 / 3）
3　黒褐色土（10YR 2 /2.5）炭化物微量
4　黒褐色土（10YR 2 /2.5）
5　暗褐色土（10YR 3 / 3）
6　黒褐色土（10YR 2 / 3）

土501



黒褐色土（10YR2.5/ 3）炭化物・焼土微量

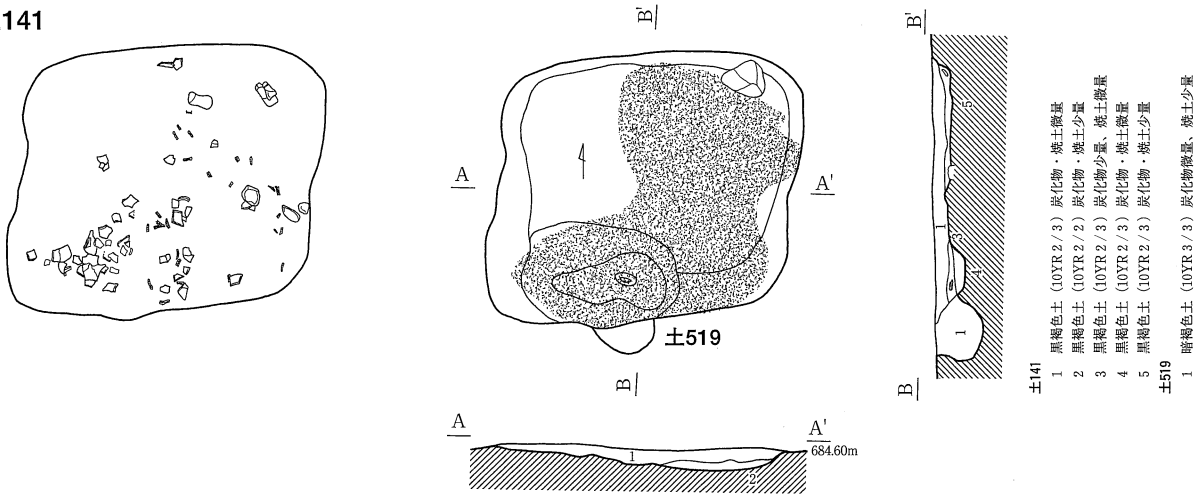
土535



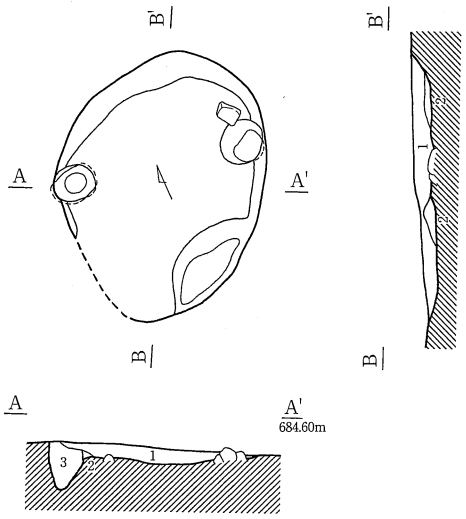
土535
　1　黒褐色土（10YR 3 / 2）炭化物・焼土微量
　2　黒褐色土（10YR2.5/ 3）炭化物・焼土微量
土529
　黒褐色土（10YR2.5/ 2）炭化物・焼土微量

第13図　土坑(1)

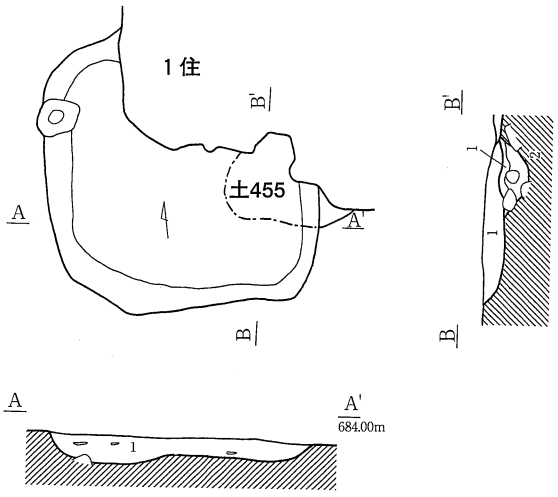
土141



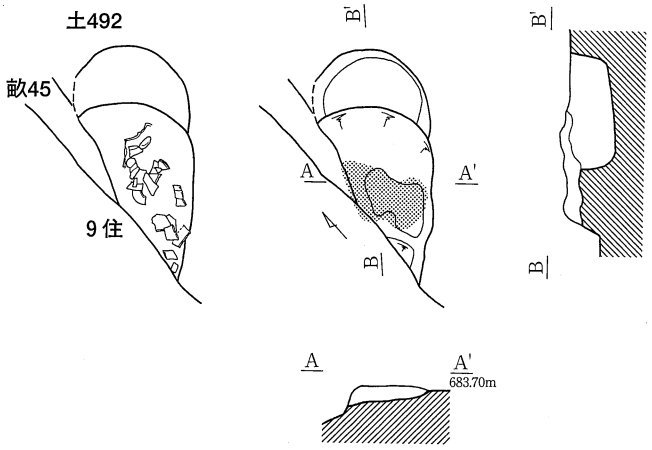
土372



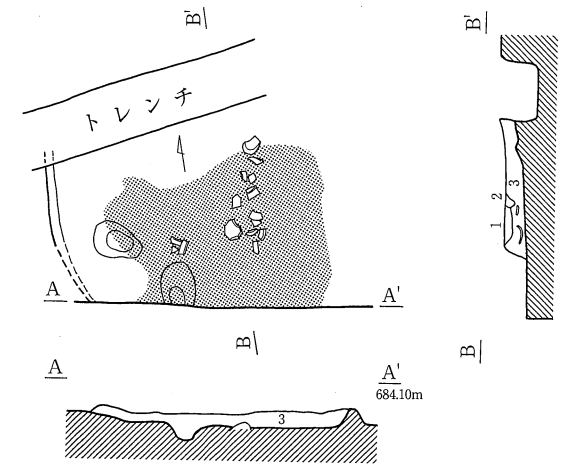
土384



土471

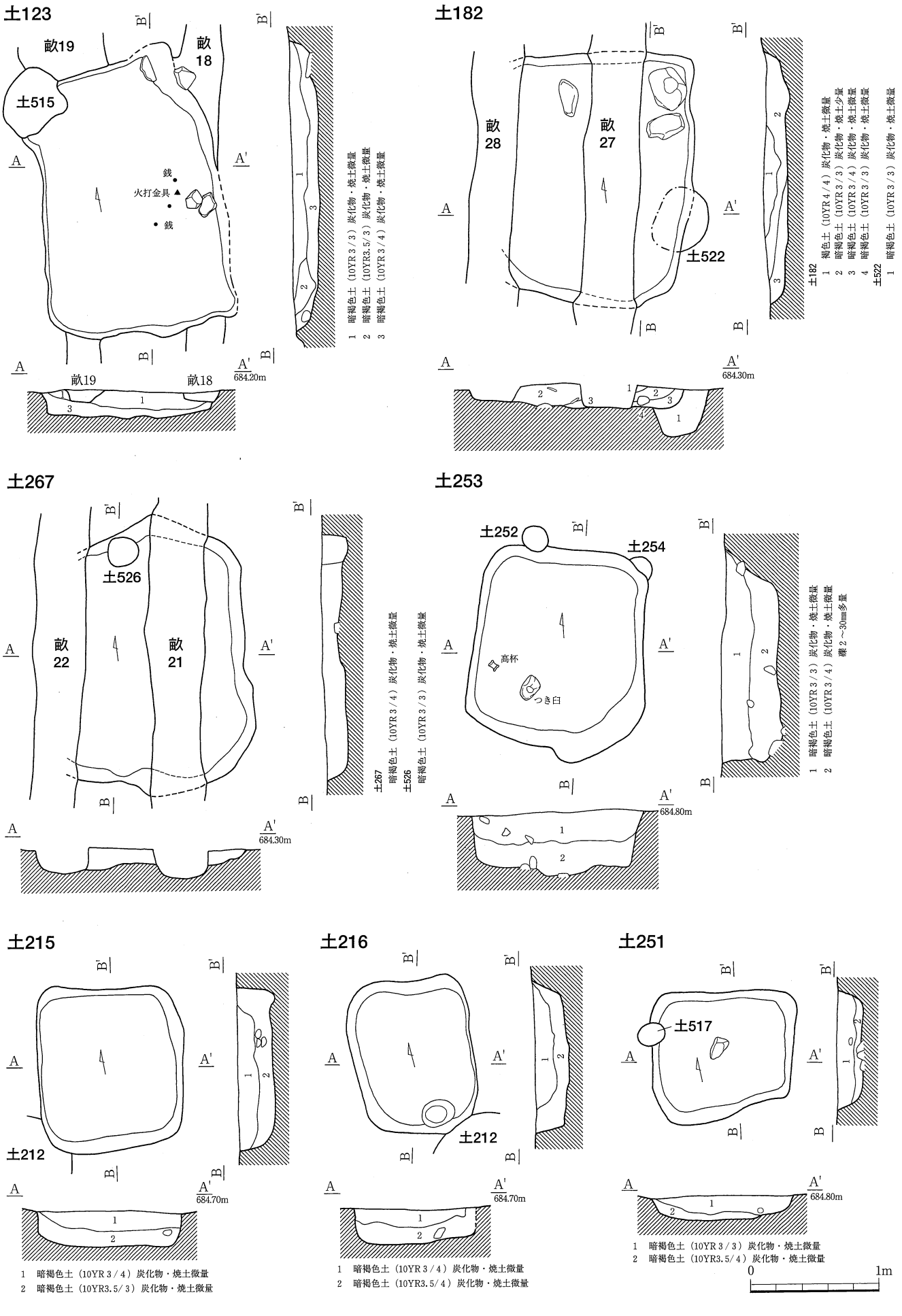


土550

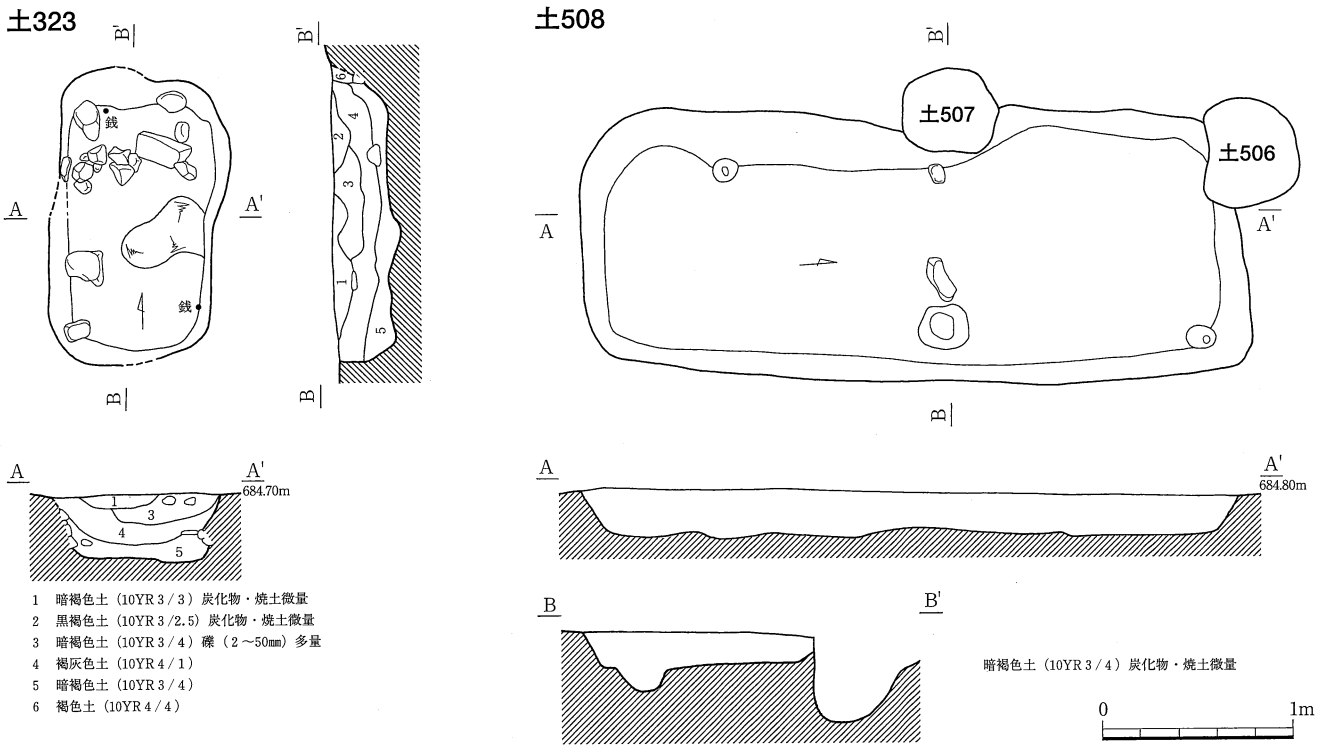


0 1m

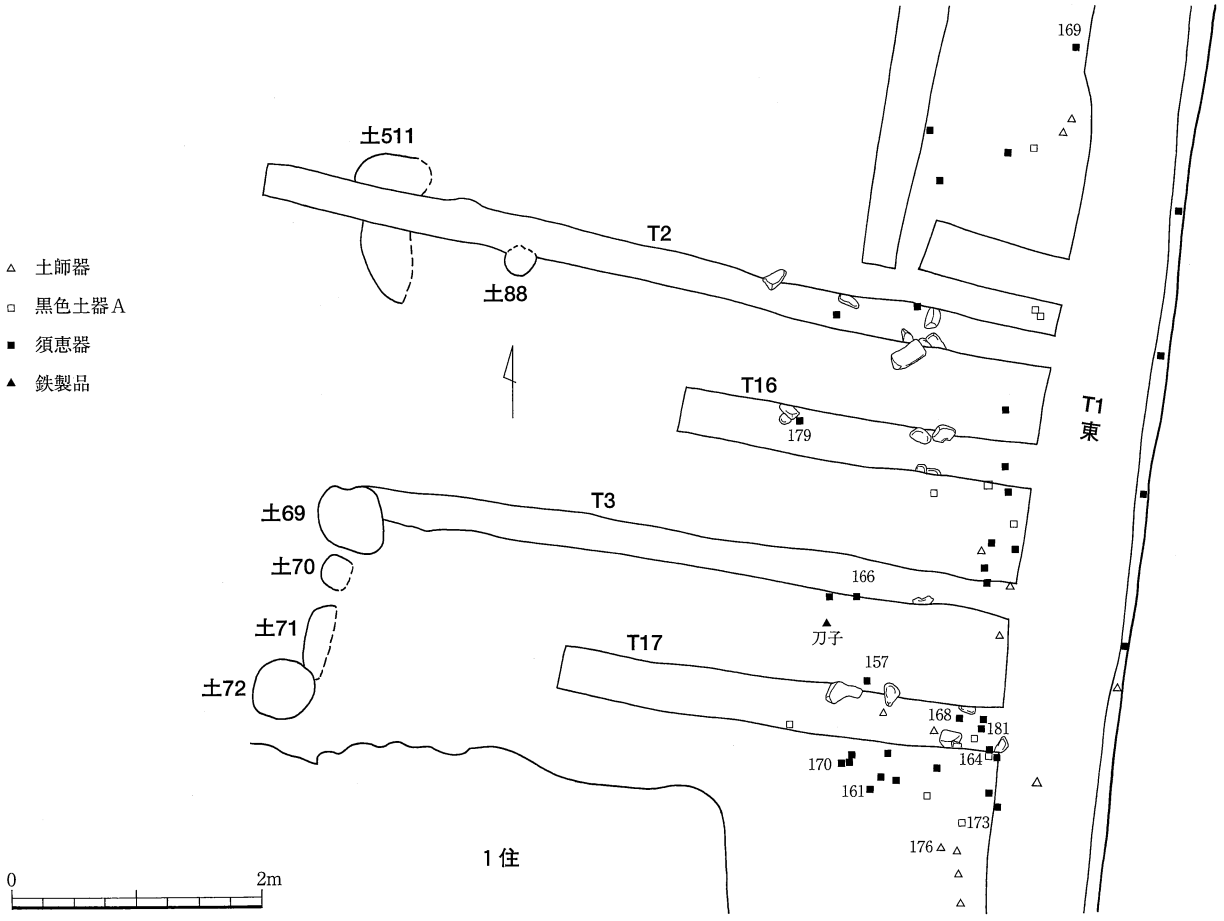
第14図　土坑(2)


土123
畝19
畝18
土515
銭
火打金具
銭
A
A'
B
B'
684.20m
1 暗褐色土（10YR3/3）炭化物・焼土微量
2 暗褐色土（10YR3.5/3）炭化物・焼土微量
3 暗褐色土（10YR3/4）炭化物・焼土微量
土182
畝28
畝27
土522
684.30m
土182
1 褐色土（10YR4/4）炭化物・焼土微量
2 暗褐色土（10YR3/3）炭化物・焼土少量
3 暗褐色土（10YR3/4）炭化物・焼土微量
4 暗褐色土（10YR3/3）炭化物・焼土微量
土522
1 暗褐色土（10YR3/3）炭化物・焼土微量
土267
土526
畝22
畝21
684.30m
土267
暗褐色土（10YR3/4）炭化物・焼土微量
土526
暗褐色土（10YR3/3）炭化物・焼土微量
土253
土252
土254
高杯
つき臼
684.80m
1 暗褐色土（10YR3/3）炭化物・焼土微量
2 暗褐色土（10YR3/4）炭化物・焼土微量
礫2～30mm多量
土215
土212
684.70m
1 暗褐色土（10YR3/4）炭化物・焼土微量
2 暗褐色土（10YR3.5/3）炭化物・焼土微量
土216
土212
684.70m
1 暗褐色土（10YR3/4）炭化物・焼土微量
2 暗褐色土（10YR3.5/4）炭化物・焼土微量
土251
土517
684.80m
1 暗褐色土（10YR3/3）炭化物・焼土微量
2 暗褐色土（10YR3.5/4）炭化物・焼土微量
0
1m

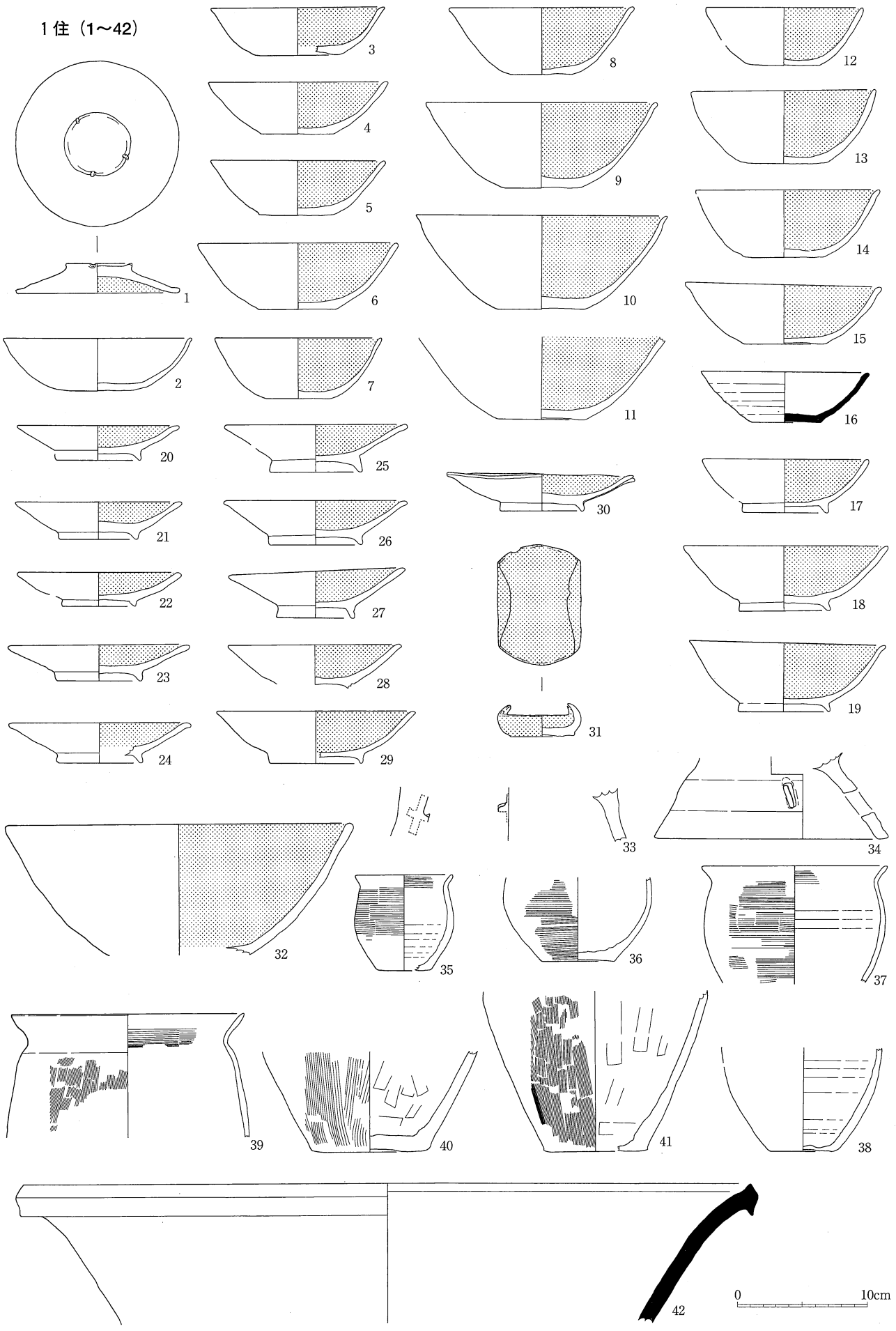
第15図　土坑(3)



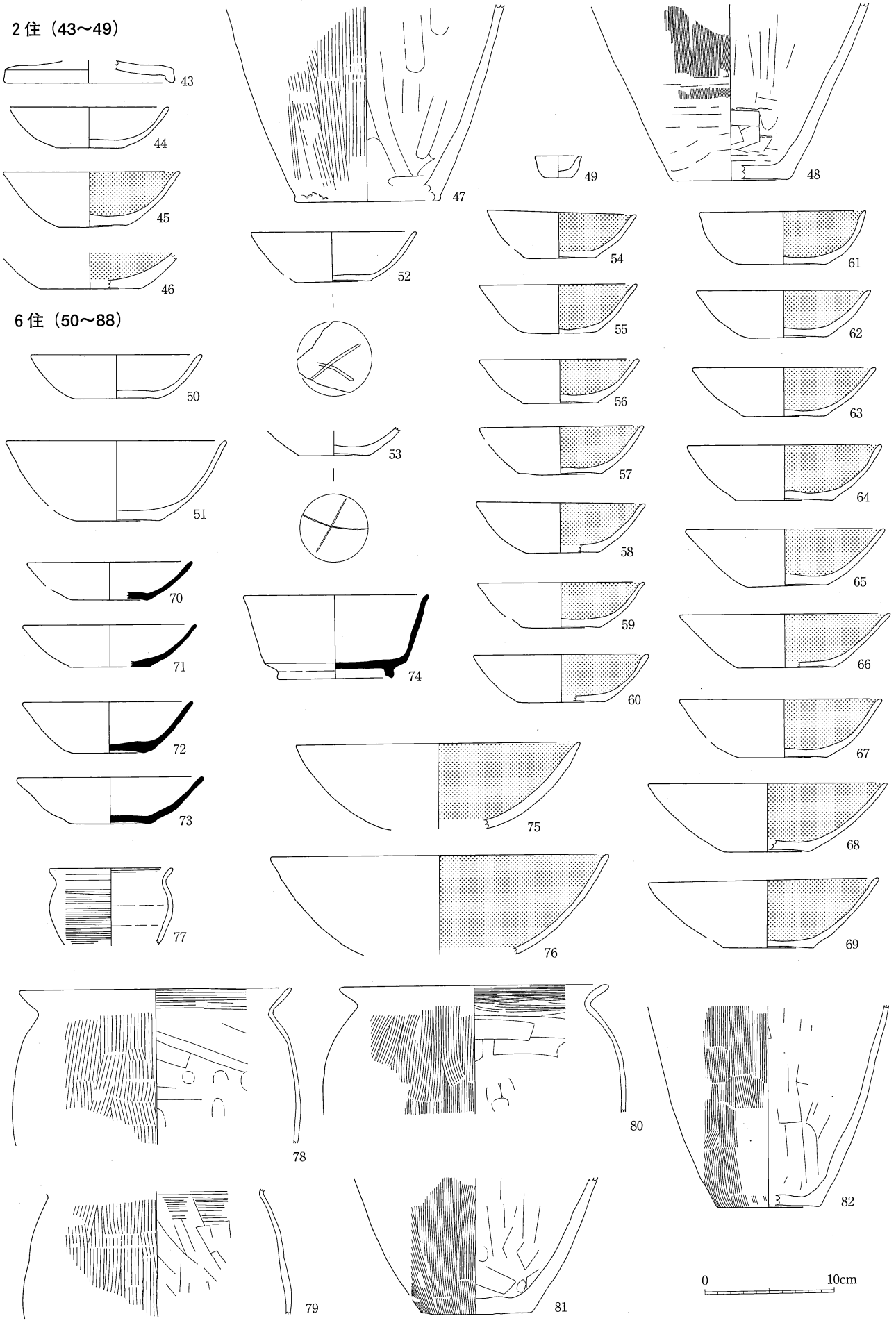
3 層遺物出土状況



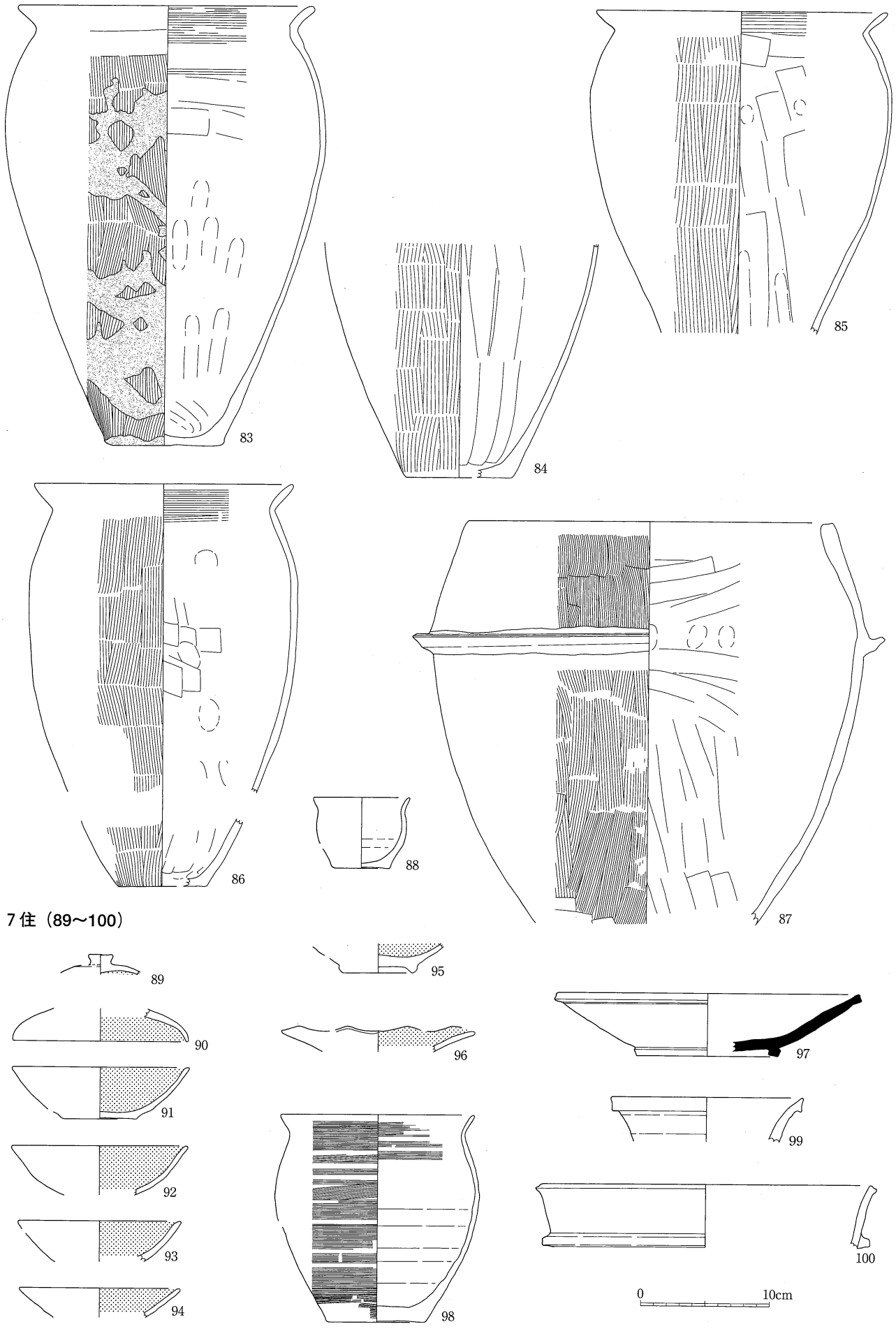
第16図　土坑(4)・3 層遺物出土状況


1住（1～42）
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
0
10cm

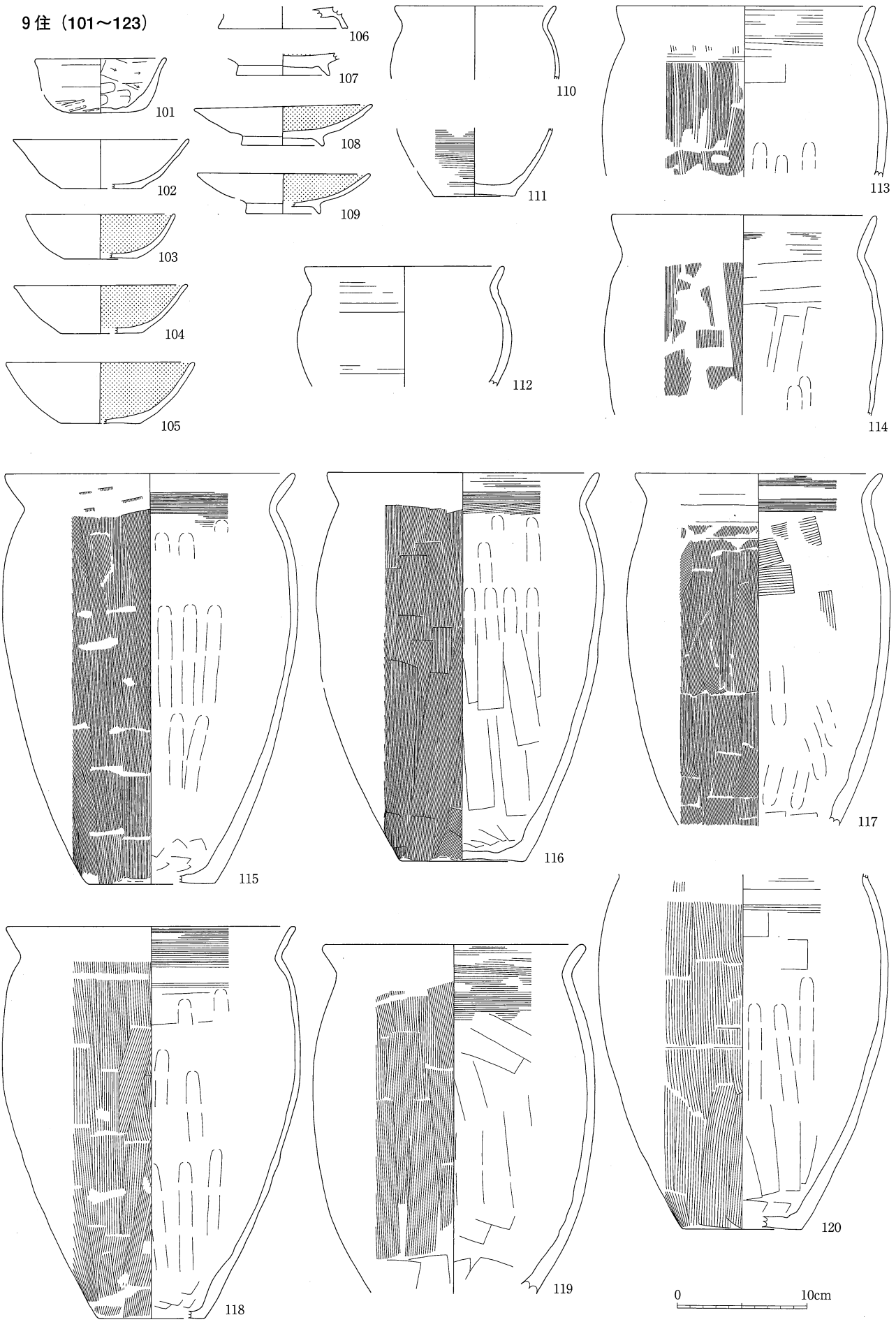
第17図　土器(1)


2住（43～49）
6住（50～88）
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
0
10cm

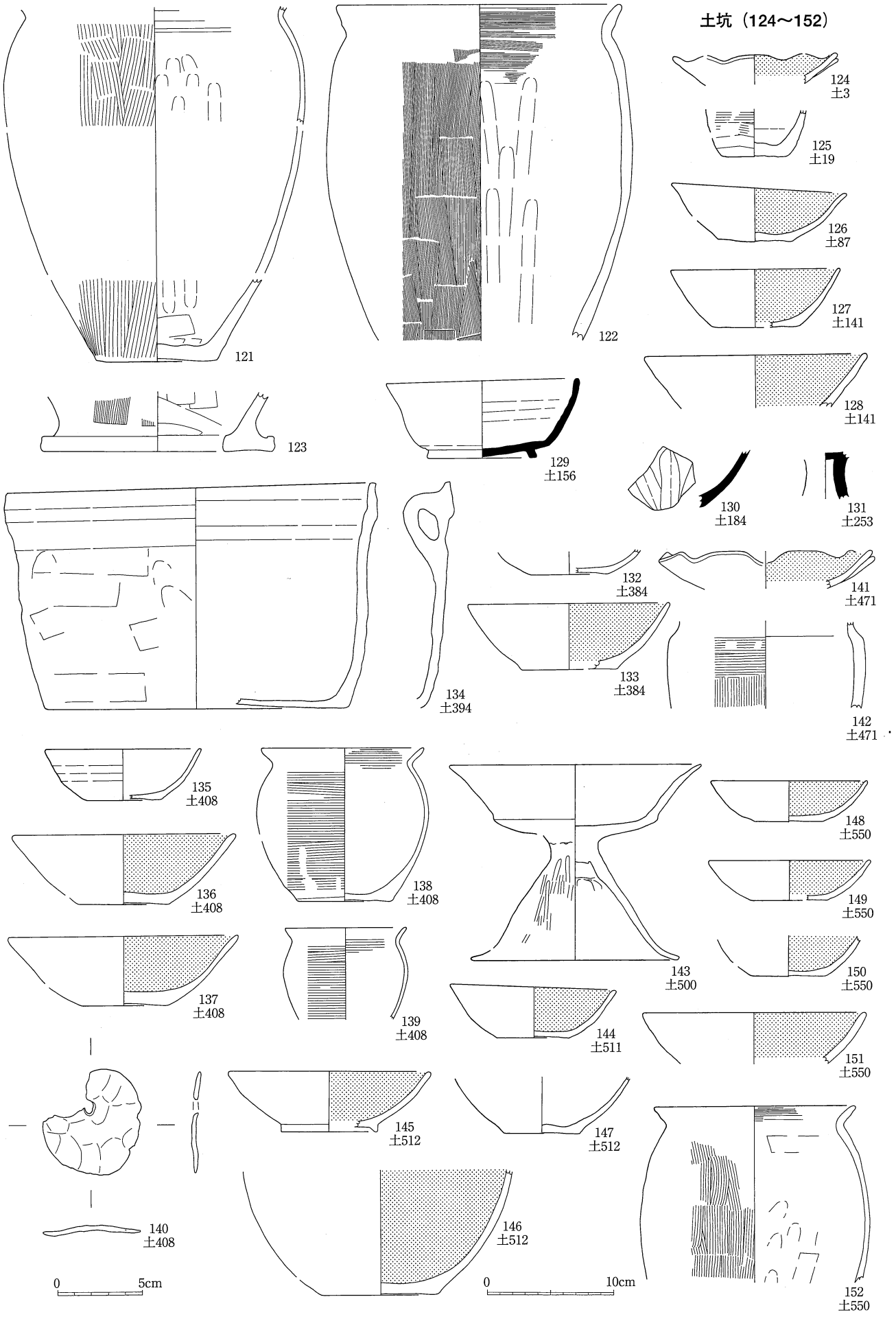
第18図　土器(2)



第19図　土器(3)


9住（101～123）
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
0
10cm

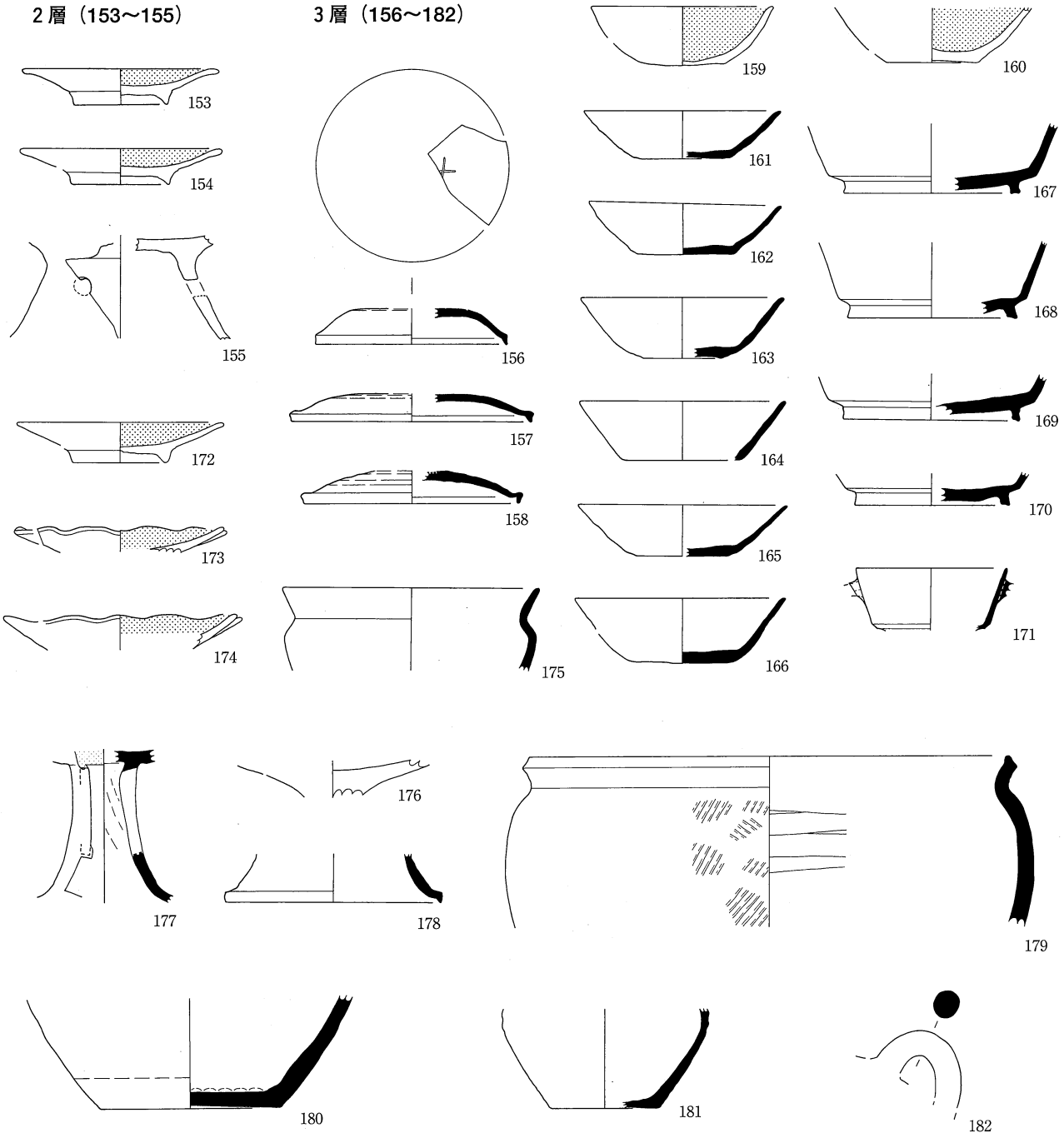
第20図　土器(4)


土坑（124〜152）
121
122
123
124
土3
125
土19
126
土87
127
土141
128
土141
129
土156
130
土184
131
土253
132
土384
133
土384
134
土394
141
土471
142
土471
135
土408
136
土408
137
土408
138
土408
139
土408
140
土408
143
土500
144
土511
145
土512
146
土512
147
土512
148
土550
149
土550
150
土550
151
土550
152
土550
0
5cm
0
10cm

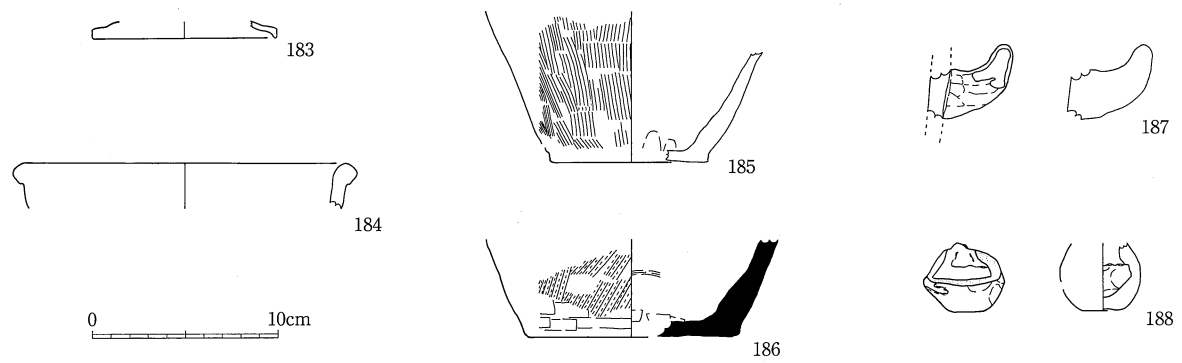
第21図　土器(5)・磁器

2層（153～155）

3層（156～182）

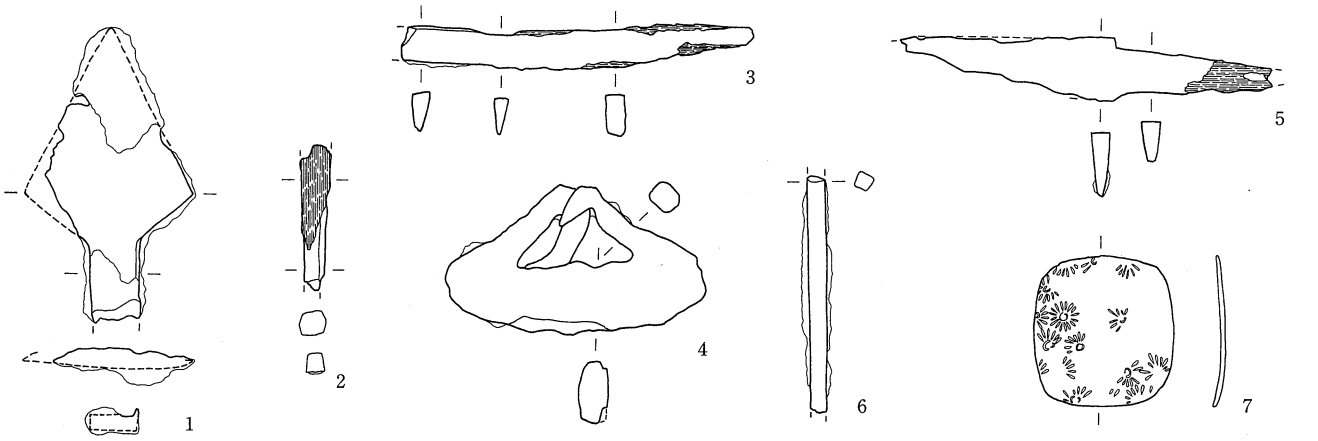


検出面（183～188）

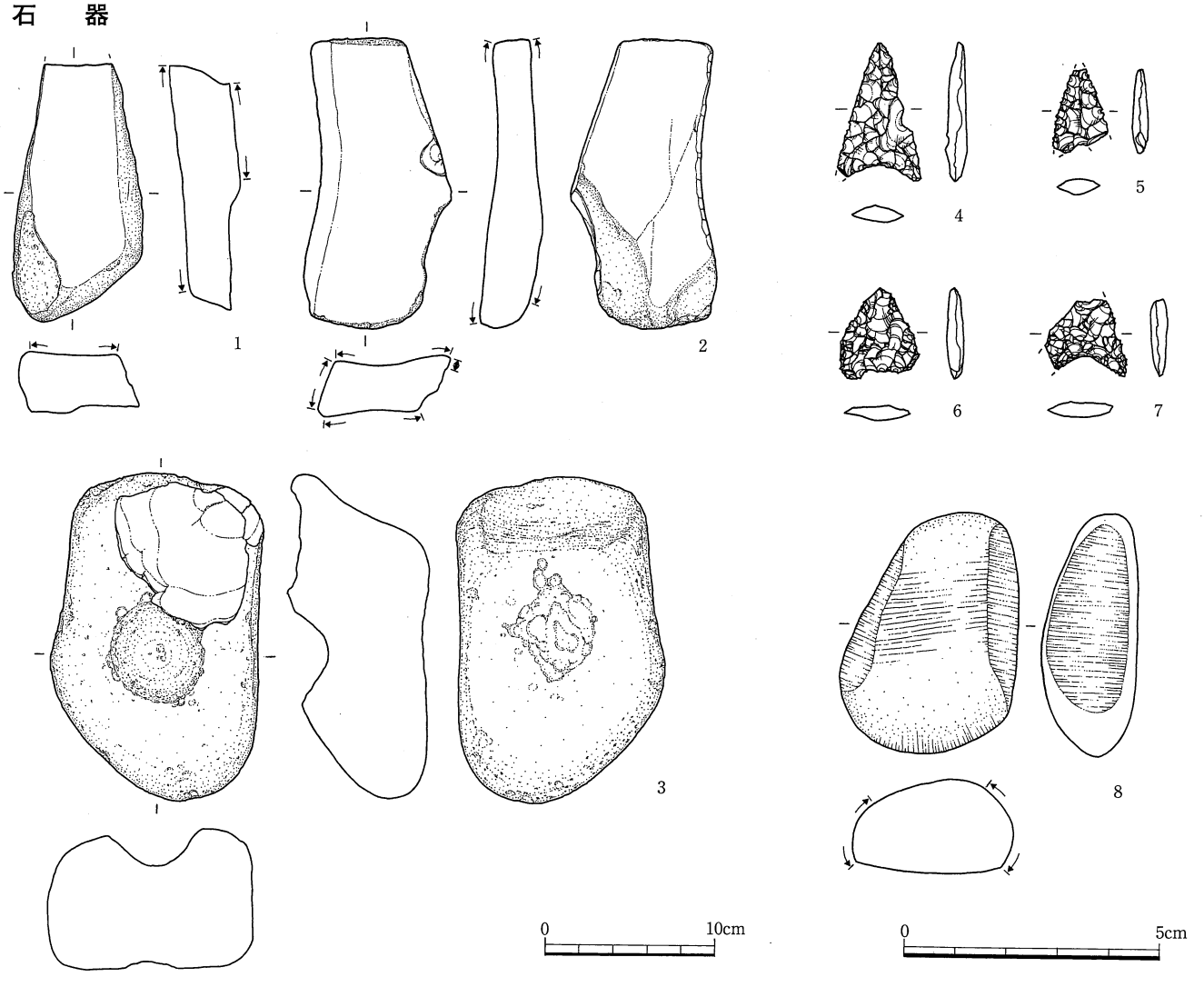


第22図　土器(6)

金属製品



石　器



第23図　金属製品・石器

写真図版

調査区遠景（西側上空から女鳥羽川・浅間温泉方面を望む）

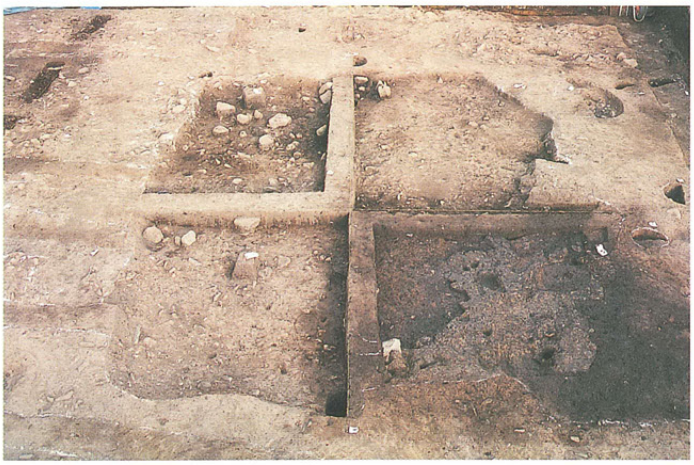
調査区遠景（東側上空から岡田神社・城山方面を望む）

写真図版 2

調査区全景（上：北側調査区　下：南側調査区）

1住　南西隅　粘土出土状況 1

1住　南西隅　粘土出土状況 2



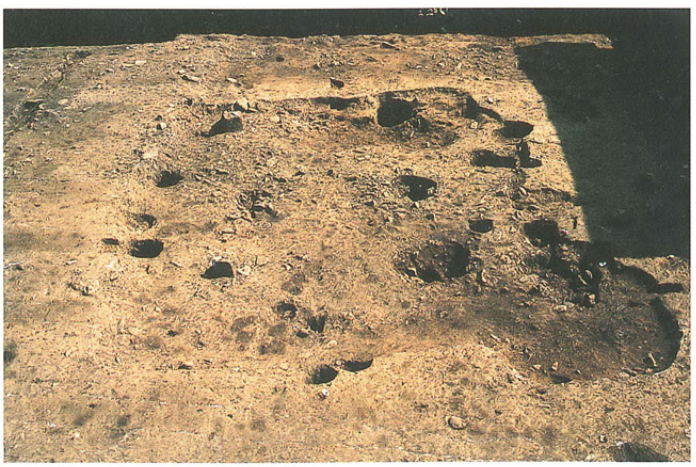
1住　全景　粘土出土状況 3

1住　南東隅　土器出土状況

1住　P9　黒色土器 A 皿(23)出土状況

1住　カマド　土器出土状況

1住　カマド



1住・土384　完掘状況

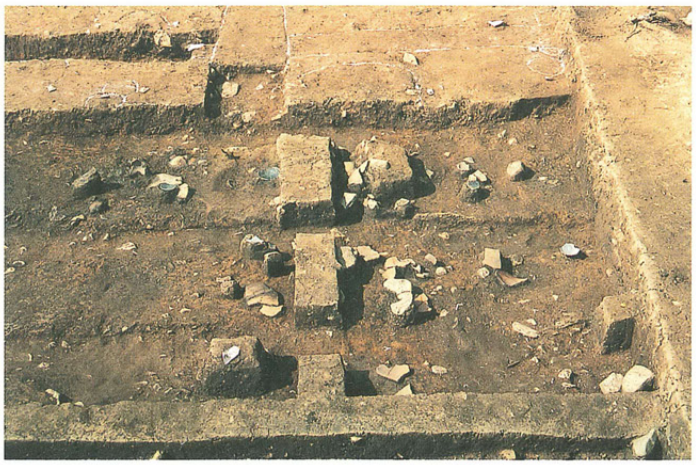
写真図版 4

2住　カマド周辺　土器出土状況

2住　完掘状況（右下の焼土は土550）

4住　完掘状況

6住　南東隅　粘土出土状況



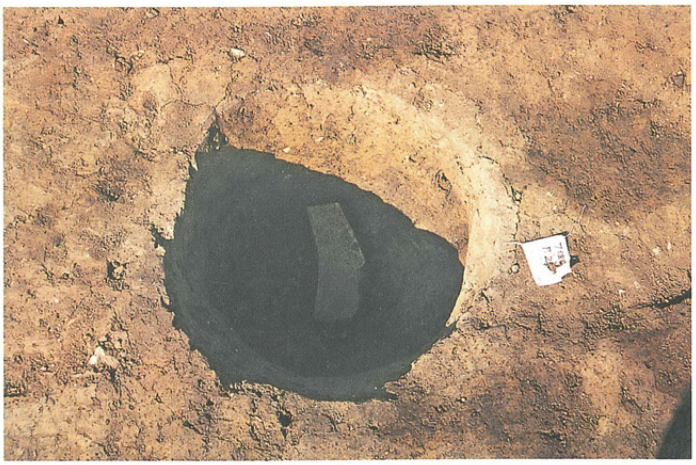
6住　カマド周辺　土器出土状況

6住　カマド　須恵器杯B(74)出土状況

6住　P2　土器出土状況

6住　完掘状況

7 住　北西隅　粘土出土状況



7 住　P2　砥石出土状況

7 住　完掘状況

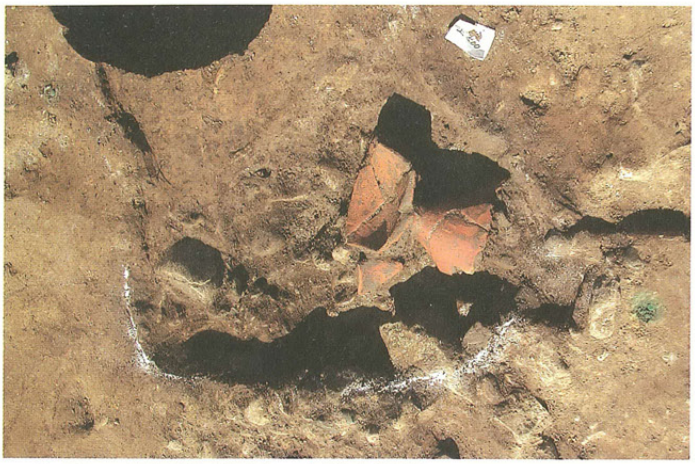
9 住　カマド周辺　土器出土状況

9 住　土師器甕(118)出土状況

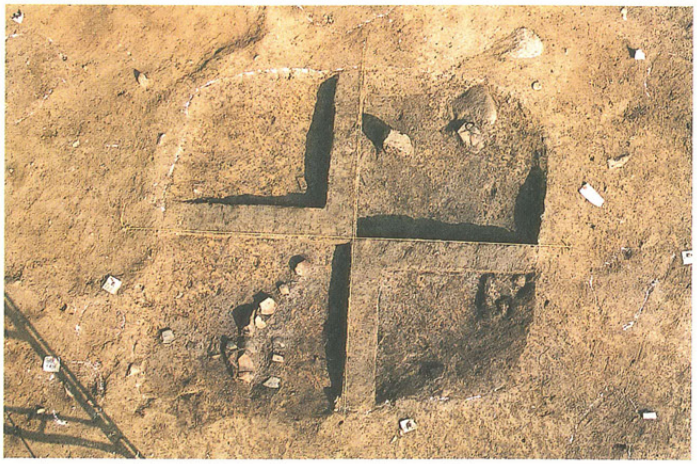
9 住　土師器甕(119)出土状況

9 住　カマド

9 住　完掘状況

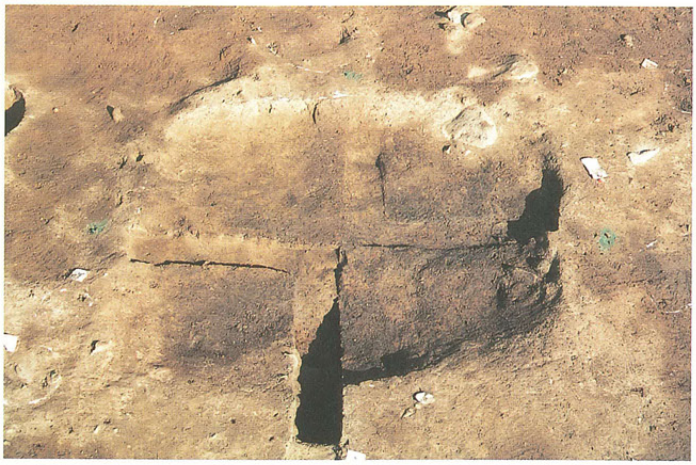


土500　土師器高杯(143)出土状況



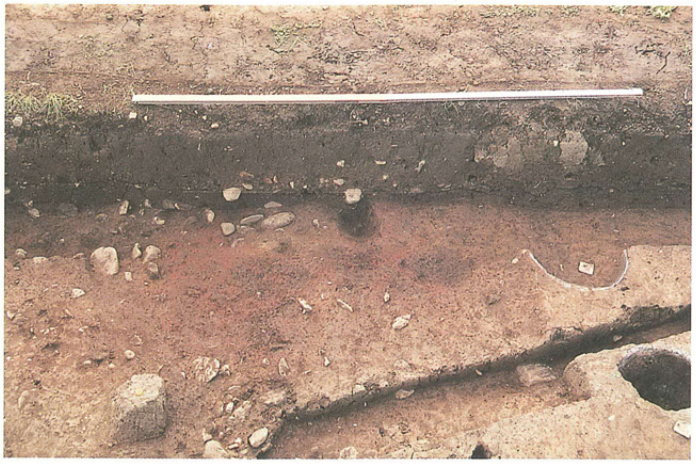
土141（土師器焼成坑）　土器出土状況

土141　土層・土器出土状況



土141　完掘状況

土550（土師器焼成坑）　土器出土状況



土550　完掘状況

土394　内耳鍋(134)出土状況

土394　土層・内耳鍋出土状況

土500　土師器高杯（143）

土394　内耳鍋（134）

1住　黒色土器A蓋（1）

銭貨　上：8～12、中：13～17、下：18～22

1住　黒色土器B耳皿（31）

7住　須恵器皿（97）

黒色土器A　波状皿

3層　須恵器杯A融着窯底破片

7 住　黒色土器 A 蓋・波状皿、土師器壺

3 層　須恵器把手付杯（171）

1 住　研磨礫

土184　青磁　鎬蓮弁文碗（130）

土141　土器焼成時破損品　上：外面、下：内面

土550　土器焼成時破損品　上：外面、下：内面

土384　不黒色化杯（132）、土器焼成時破損品　左：外面、右：内面

長野県松本市　下出口遺跡　発掘調査報告書

ふりがな	ながのけんまつもとし　しもでぐちいせき　はっくつちょうさほうこくしょ
書名	長野県松本市　下出口遺跡　発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	№192
編著者名	森　義直、内田陽一郎、関沢　聡
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-0874　長野県松本市大手３丁目８番13号　TEL　0263-34-3000(代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館　〒390-0823　松本市中山3738-１　TEL　0263-86-4710)
発行年月日	2008(平成20)年３月31日（平成19年度）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
下出口（しもでぐち）	長野県松本市（ながのけんまつもとし） 大字岡田町（おおあざおかだまち） 549-１他	20202	007	36度 16分 15秒	137度 58分 43秒	20060823 ～ 20061201	954㎡	葬祭場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
下出口	集落跡	古　墳 奈　良 平　安 中　世	竪穴住居址 掘立柱建物址 土坑 溝状遺構 耕作遺構（畝間）	6軒 2棟 337基 3本 54本	土師器 黒色土器Ａ・Ｂ 須恵器 軟質須恵器 灰釉陶器 青磁 内耳鍋 石器 金属製品 銭貨 須恵器窯底片	土坑の内３基は土師器焼成坑

要約

下出口遺跡は松本市内を南流する女鳥羽川右岸第２段丘上に立地する集落遺跡である。今回の発掘調査では、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物を確認することができた。

古墳時代では土500から中期の高杯が出土し、南側に位置する岡田西裏遺跡から本遺跡にかけて中期の集落が存在する可能性がうかがえる。

奈良・平安時代では９世紀中頃～末の竪穴住居址６軒が確認された。このうち１住・６住・７住で住居内の粘土貯蔵が確認された。また、土師器・黒色土器Ａを生産していた焼成土坑３基（土141・土384・土550）が確認されたことにより、本遺跡では９世紀代に土師器・黒色土器Ａが生産されていたことがうかがえる。本遺跡の南側に位置する岡田西裏遺跡から土師器焼成坑が多数見つかっていることから、本遺跡は土師器生産の中核集落の北端域である可能性が高い。

中世では、銭貨・青磁碗・内耳鍋を伴う土坑が確認されている。このうち２基は銭貨を副葬した墓址の可能性がある。また、13世紀～14世紀前半の青磁碗、15世紀後半～16世紀初頭と推定される内耳鍋の出土から、本遺跡には室町時代(以降)の遺構が存在していたと考えられる。特に、完形の内耳鍋を埋設した土394の存在から、周辺に該期の集落が存在する可能性が高い。

松本市文化財調査報告№192
長野県松本市

下出口遺跡

―発掘調査報告書―

発行日　平成20年３月31日
発　行　松本市教育委員会
〒390－0874
長野県松本市大手３－８－13（５Ｆ）
印　刷　電算印刷株式会社